

MISASAGIKAI2024 事業報告書

INTEGRATED REPORT



社会福祉法人

みささぎ会

MISSION

ミッション

先憂後楽をモットーに
社会課題を解決し、
ご縁のあるすべての人の幸せを創造する

VISSION

ビジョン

人生の中でこの人に出会えてよかったと
思える人材があふれる会社となる
社会の公器として責任を果たす会社となる

COMPETENCY

コンピテンシー

品位	礼節を重んじ、信頼される人となる
責任	サービス品質向上、職場環境向上に対して常に責任を果たす
規律	決められたルールを守り、組織の秩序を守る

優しさ	困っている人がいたら助ける
共感	思いやりと感謝の心で他者に寄り添う
感性	感性を高め、自分の可能性を拡げる
器量	器量を磨き、プラスの影響を与えることができる人となる

Contents

Part 1 Introduction p.2

CONTENTS	p.3
TOPICS	p.4
理事会・評議員会報告	p.11
運営指導結果 - 藤井寺特別養護老人ホーム/尽心庵	p.12
運営指導結果 - 高齢者ケアセンター大仙もずの音/1on1保育園	p.13
空調設備更新工事/看取り部屋改修工事	p.14
メディア掲載	p.15
福利厚生 - 夫婦応援制度・奨学金返済支援制度	p.16
人的資本データ	p.17
財務ハイライト	p.18
財務情報	p.19
主要な経営指標	p.21
コーポレートガバナンス	p.22

Part 2 Our Group p.23

藤井寺特別養護老人ホーム	p.24
高齢者ケアセンターつどうホール	p.38
高齢者ケアセンター大仙もずの音	p.53
堺市北第1地域包括支援センター	p.73
1 on 1 保育園	p.76

Part 3 Social Relation p.79

総合生活相談支援 - 生活相談一覧	p.80
地域ニーズに応じた活動展開	p.97
外部活動 講師派遣発表	p.98
居住支援法人登録	p.99
大阪DWAT派遣による受賞	p.100
地域関係機関との連携	p.101
地域イベント交流	p.102
小学校での福祉教育	p.103
坂の上のキッチン	p.104
講師・ゲストスピーカー派遣	p.107
宝塚大学看護学部 基礎看護実習	p.109
大阪大学との共同研究 - デュアルタスク 生成AI	p.110
各大学とのコラボレーション	p.112
各企業とのコラボレーション	p.113

Part 4 Skill-UP Program p.114

キャリア別学習会	p.116
ユマニチュード実践者養成4日間研修	p.117
TP-KYT学習会	p.118
安全運転講習会	p.119
ケアマネ試験👏必勝👏講座	p.120
法人内実践事例発表会 BEST CHALLENGE AWARD 2024	p.121
2024年度外部実践発表大会 2事例報告	p.122
リーダー育成研修 “FasH”	p.123
NVC (NonViolent Communication)	p.124
AI合宿 (アプリシエイティブ・インクワイヤリー)	p.125
他業界セミナー	p.127
研修レポートリニューアル	p.128

01 TOPICS

TOPICS

01. スタッフ感謝祭2024開催



- 2024年11月：都シティ大阪天王寺にて法人慰労パーティーを開催。
- 新型コロナウイルスという未曾有の事態の中、一生懸命に働いてくれた職員全員に対する感謝の思いから、感謝祭として実施。
- スペシャルゲストとして、ものまね芸人 山本高広様をお呼びし、会場を盛り上げて頂いた。

02. BEST CHALLENGE AWARD 2024 開催



- 2024年10月に法人実践事例発表会を実施
- 法人内から6つの事例を発表
- 審査員は外部より6名の有識者にご参加頂いた

【審査員】 ※詳細はP.121

- ・ 社会福祉法人みささぎ会理事 山本 忠司様 ・ 日本メディカル福祉専門学校 教務部長 黒田 将史様
- ・ 大阪健康福祉短期大学教授 鴻上 圭太様 ・ ゼンショーホールディングス 阪田 啓太様
- ・ いのこの里 施設長 山本 智光様 ・ 寿山苑 施設長 臼谷 千賀子様

TOPICS

03. 認知症ケアスキルマイスター制度導入

POINT 要件を満たしていれば、希望するグレードの試験を受けることが可能

グレード	求められる技能	試験	資格要件	研修要件
1 ビギナー	・認知症や認知機能の基本を理解している。 ・認知症の人への適切な対応ができる。 月額手当 2,000円	筆記試験	介護福祉士	認知症介護実践研修
2 初級	・認知症や認知機能の基本を理解している。 ・認知症の人への適切な対応ができる。 ・ユマニチュードの基本を理解し実践できる。 月額手当 5,000円	筆記試験	介護福祉士	認知症介護実践研修 ・ユマニチュード実践者 養成4日間研修またはユマニチュード基礎研修
3 中級	・認知症や認知機能の基本、認知症発症の特徴を理解している。 ・認知症の人への適切な対応ができる。 ・ユマニチュードの基本を理解し実践できる。 月額手当 10,000円	筆記試験	介護福祉士	認知症介護実践リーダー研修 ・ユマニチュード実践者 養成4日間研修
4 エキスパート	・認知症や認知機能の基本、認知症発症の特徴を理解している。 ・対応困難な認知症の人へのケアプランを立案できる。 ・対応困難な認知症の人へのケアプランを立案できる。 月額手当 20,000円	筆記試験 ・実技試験 (現場・模擬演習)	介護福祉士	認知症介護実践リーダー研修 ・ユマニチュード実践者 養成4日間研修
5 マイスター	・認知症全般に関する知識やユマニチュードの技術指導に係る研修を行うことができる。 ・対応困難な認知症の人へのケアプランの立案を指導できる。 月額手当 30,000円	筆記試験 ・実技試験 (現場・模擬演習)	介護福祉士	認知症介護実践指導者養成研修 ・ユマニチュード実践者 養成4日間研修



- この制度を立ち上げた目的は、より高度な技術と知識を有した専門職の養成をするためである。
- 仕組みとして求められる技能や資格要件、研修要件を設定し、合格者には手当を支給することとした。
- 2025年4月に筆記試験を実施し、受験生30名 合格者12名 合格率40%だった。

04. 社会福祉連携推進法人Mirai設立



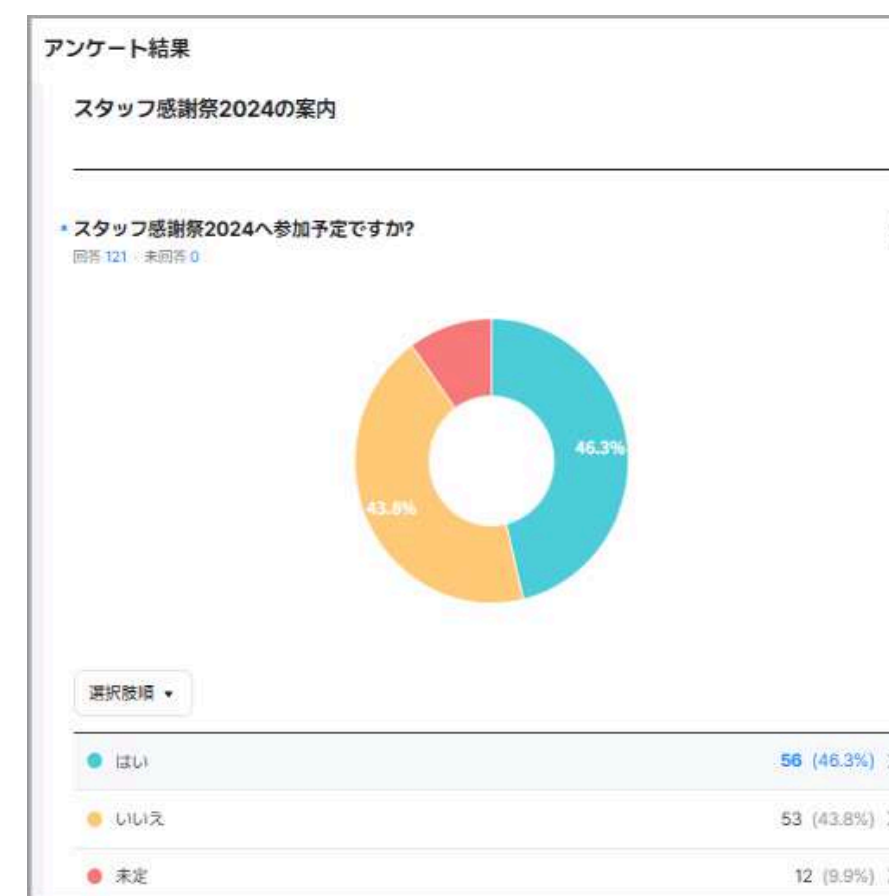
- みささぎ会と宥恵会が連携し、社会福祉連携推進法人Miraiを設立。
- 社会福祉連携推進法人は、社会福祉法人等が社員となり、福祉サービス事業者間の連携・協働を図るための取組等を行う新たな法人制度である。

TOPICS

05. 子育て応援ヘルパーの参画



06. 有料版LINEWORKS法人全体導入



認知症ケアスキルマイスター制度 試験範囲参考図書について

奥田起規 事務

2025.3.11 8:00 閲覧 119

編集を許可: OFF (投稿の作成者は必ず表示版マスターのみ編集可能)

試験範囲参考図書は以下の2冊です。

①は基本的知識の理解 ②はケア内容や工夫についての理解 を目的としています。
自己学習となるため合格を目指す方はご自身で購入してください。

①最新 介護福祉士養成講座13 認知症の理解
<https://www.mokom.jp/products/detail/149489/>

②マンガでわかる! 認知症の人が見ている世界
<https://bunkyo-sha.com/books/9784866513638>

【文芸社 公式】マンガでわかる! 認知症の人が見ている世界 / 川畑智 ...
文芸社はビジネス書・実用書を中心に書籍を手がける出版社です。『うんこま子ドリル』や『人生はニヤンとかなる』シリーズなど、美しさと実用をかねた作品を提供し...
<https://bunkyo-sha.com/books/9784866513638>

理事長

- ソーシャルリレーション事業の一つとして参画
- 登録後から問い合わせが増え、実際に支援を開始している。
※ヘルパーステーションみささぎの事例P.36参照

- 有料版のLINEWORKSを法人全体で導入したことにより、業務連絡の効率化が格段にアップし、連絡ノートの代替になるだけでなく、タスクを利用した業務進捗把握、勤務変更の状況管理やアンケート集計機能による施設内の意見の集めやすさなど効率の良さだけでなく利便性を体感するに至っている。

07. 10時間勤務の振り返り

職場環境向上

NEW CHALLENGES

週休3日制 トライアル実施

特養支援部・グループホームの現場介護士を対象とした一日10時間勤務 週休3日制のトライアルを実施します。

POINT

- ✓ 一週間の合計勤務時間は変えず休日を増やす
- ✓ 夜勤業務の負担軽減につながる
- ✓ 介護人材確保対策の一つになる

現在のシフト（週休2日制）
8時間労働×5日＝40時間
残りの2日を休日にする

トライアルシフト（週休3日制）
10時間労働×4日＝40時間
残りの3日を休日にする

メリット

- ・ 年間休日が50日近く増加
- ・ 求人募集のアピールに繋がる
- ・ 休日増加による仕事のモチベーションアップ
- ・ 人員配置の充実による手厚いサービスの提供

デメリット

- ・ 1日の労働時間が長くなる
- ・ 業務スケジュールを見直す負担がある
- ・ 夜勤明けが休み扱いになる

- 介護施設での導入が増加しているが、当法人での勤務においては当てはまらなかった。
- 一方で、業務プログラムの見直しのきっかけになった点や夜勤の時間が短くなったことについては肉体的負担の軽減に繋がったというメリットもあった。
- 今後は夜勤の負担軽減を図っていきたい。
(ex.見守りカメラの導入)

08. DRIVE-BOSS導入

DRIVEBOSS

送迎計画を立てる

送迎実績を見る

その他の機能

2025/05/09

利用客設定 乗客の設定 送迎入計算 送迎出計算

乗客人数: 36人 便数: 15便 稼働時間: 380分

送迎計画 送迎実績 送迎入計算 送迎出計算 送迎入計算 送迎出計算

送迎計画	送迎実績	送迎入計算	送迎出計算
1便 8:00-8:40	1便 8:00-8:40	1便 8:00-8:40	1便 8:00-8:40
2便 8:40-9:20	2便 8:40-9:20	2便 8:40-9:20	2便 8:40-9:20
3便 9:20-10:00	3便 9:20-10:00	3便 9:20-10:00	3便 9:20-10:00
4便 10:00-10:40	4便 10:00-10:40	4便 10:00-10:40	4便 10:00-10:40
5便 10:40-11:20	5便 10:40-11:20	5便 10:40-11:20	5便 10:40-11:20
6便 11:20-12:00	6便 11:20-12:00	6便 11:20-12:00	6便 11:20-12:00
7便 12:00-12:40	7便 12:00-12:40	7便 12:00-12:40	7便 12:00-12:40
8便 12:40-13:20	8便 12:40-13:20	8便 12:40-13:20	8便 12:40-13:20
9便 13:20-14:00	9便 13:20-14:00	9便 13:20-14:00	9便 13:20-14:00
10便 14:00-14:40	10便 14:00-14:40	10便 14:00-14:40	10便 14:00-14:40
11便 14:40-15:20	11便 14:40-15:20	11便 14:40-15:20	11便 14:40-15:20
12便 15:20-16:00	12便 15:20-16:00	12便 15:20-16:00	12便 15:20-16:00
13便 16:00-16:40	13便 16:00-16:40	13便 16:00-16:40	13便 16:00-16:40
14便 16:40-17:20	14便 16:40-17:20	14便 16:40-17:20	14便 16:40-17:20
15便 17:20-18:00	15便 17:20-18:00	15便 17:20-18:00	15便 17:20-18:00

- デイサービス送迎計画自動作成システムのことであり、送迎業務の効率化と介護サービスの向上を支援する目的で導入した。
- 現場職員の声から導入したシステムであり、業務時間短縮にも繋がっていると好評である。

09. タイミーの導入



- 少子化や日本人介護学部生減少など新卒採用は非常にハードな状況であるため、新卒、中途、外国人など組み合わせが重要になっている昨今の状況を鑑み、タイミーのような新たな採用経路も積極的にチャレンジをした。

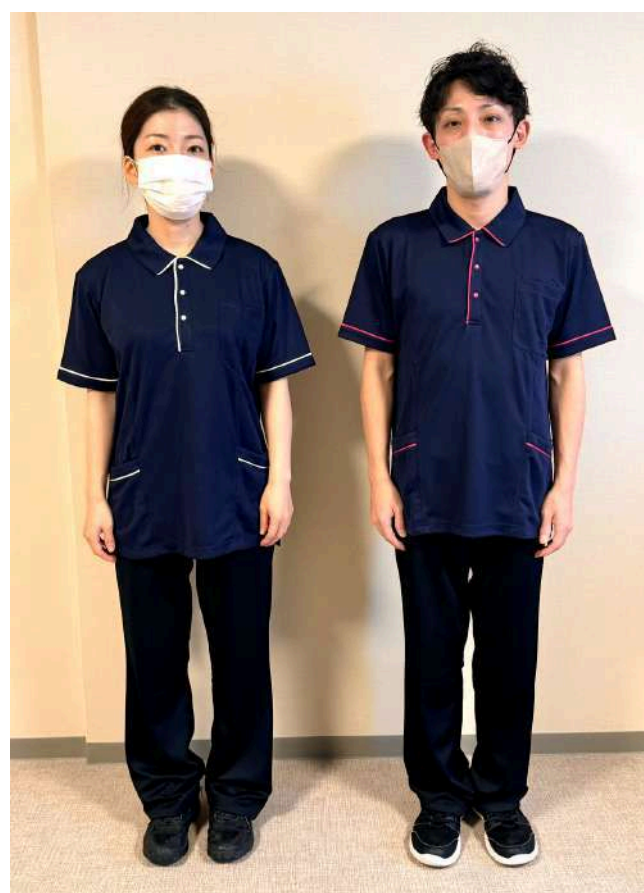
10. ユマニチュード研修の実施



- 4日間研修ではユマニチュードケアの理念学習・座学・実技・現場実践を行った。実際に日頃ケアを行っている利用者を対象にしてユマニチュード技法を実践・検証できたことは、この技法の有効性やポイントを実感できる貴重な時間となった。
※詳細はP.117 学習計画参照

TOPICS

11. ユニフォームの変更



- リーダー研修に参加した職員たちによる新しいユニフォームの提案があり、機能性や速乾性を重視したユニフォームへ変更した。
動きやすさはもちろん、快適さがアップしたユニフォームとなった。

12. ミスト浴の導入



- 藤井寺特別養護老人ホームに導入した。
- デイサービスの新規開拓時に紹介したり、ケアマネ宛にショートステイのご案内する際に話題とした。入浴が難しい利用者ニーズに対応でき、新規利用に結び付いている。

理事会・評議員会報告

理事会 決議事項

【開催日】

2024年6月8日（土）

【議案】

- ・ 2023年度事業実績報告について
- ・ 2023年度決算について
- ・ 評議員選任・解任委員の選任について
- ・ 評議員会の開催について
- ・ その他関連事項

【開催日】

2025年3月15日（土）

【議案】

- ・ 社会福祉連携推進法人について
- ・ 日本の国債購入について
- ・ 2024年度補正予算について
- ・ 2025年度事業計画について
- ・ 2025年度予算について
- ・ その他関連事項

評議員会 決議事項

【開催日】

2024年6月23日（日）

【議案】

- ・ 2023年度事業実績報告について
- ・ 2023年度決算について
- ・ 評議員会の開催について
- ・ その他関連事項

【開催日】

2025年3月15日（土）

【議案】

- ・ 社会福祉連携推進法人について
- ・ 日本の国債購入について
- ・ 2024年度補正予算について
- ・ 2025年度事業計画について
- ・ 2025年度予算について
- ・ その他関連事項

運営指導監査 法人本部 大きな指摘事項なし

実施日：2025年2月20日（木）

実施官庁：大阪府 福祉部 地域福祉推進室 福祉人材・法人指導課法人指導グループ

尽心庵 大きな指摘事項なし

実施日：2024年11月26日（火）

実施官庁：社会援護課生活保護調整グループ

指導内容	報告内容	指導内容
【指導事項】 ・固定資産管理台帳について 固定資産管理台帳において、その他の固定資産の建物附属設備に有形リース資産（LED照明）が含まれているが、本科目に含まず別科目で計上すること。 ・理事会について 理事長を選定する際の理事会に係る招集通知については、理事が直前の評議員会で選任される以上、招集手続の省略で実施すること。	【運営指導の結果】 ・評議員会の開催について 評議員会の日時及び場所等が、理事会の決議により定められていない会が見受けられたので、評議員会の開催については、日時及び場所等に関する理事会の決議を行うこと。 【改善方法】 令和7年6月開催の理事会においては、定時評議員会の日時及び場所等を決定する議案を理事会に提出し、承認を得るようにする。	【指導事項】 ・職員体制等の整備 ・専任の施設長を配置すること。 【改善方法】 ・施設長を変更の上書類提出。

高齢者ケアセンター大仙もずの音 / 1on1保育園

運営指導結果

大仙もずの音ケアプランセンター

実施日：2024年10月15日（火）

実施官庁：堺市健康福祉局長寿社会部介護事業者課

✓ 大きな指摘事項なし

指導内容

・重要事項説明書

重要事項説明書について、第三者評価の実施状況の有無の記載ができていなかったため、記載をすること。

大仙もずの音デイサービスセンター

実施日：2024年12月27日（金）

実施官庁：堺市健康福祉局長寿社会部介護事業者課

✓ 大きな指摘事項なし

指導内容

・利用料について

利用料等の受領について、請求書及び領収書に医療費控除額を表示すること。

特別養護老人ホーム大仙もずの音

実施日：2024年12月3日（火）

実施官庁：堺市健康福祉局長寿社会部介護事業者課

✓ 大きな指摘事項なし

指導内容

・ショートステイ

ハラスメント防止のため、相談に対応する担当者を定め、従業者に周知をすること。

・指定介護老人福祉施設

ハラスメント防止のため、相談に対応する担当者を定め、従業者に周知をすること。

1on1保育園

実施日：2024年10月30日（水）

実施官庁：児童育成協会

✓ 大きな指摘事項なし

指導内容

・重要事項説明書

業務委託契約書に契約の金額を明記し、契約を再更新する。

『提携内容：年1回の歯科検診を行う』と追記

空調設備更新工事／看取り部屋改修工事

補助金活用

事業名

2024年度

大阪府介護施設等の整備に関する事業補助金

事業内容

- 1.既存の特別養護老人ホーム等のユニット化改修等支援事業
- 2.事業種別：看取り室改修整備工事
- 3.施設種別：特別養護老人ホーム
- 4.施設名：高齢者ケアセンターつどうホール
- 5.事業費総額 4,400,000円
- 6.補助金額 4,130,000円
- 6.完了年月日 2025年3月21日

事業名

2024年度

中小事業者高効率空調機導入支援事業補助金

事業内容

- 1.藤井寺特別養護老人ホーム空調更新工事
- 2.事業種別：空調更新工事
- 3.施設種別：特別養護老人ホーム
- 4.施設名：藤井寺特別養護老人ホーム
- 5.請負社名：関西日立株式会社
- 6.事業費総額 32,625,186円
- 7.補助金額 14,642,000円
- 8.完了年月日 2024年11月24日

メディア掲載

FM 軽井沢

FM軽井沢の軽井沢ラジオ大学「社会福祉学」のコーナーに理事長の奥田が出演。放送は8/27(火)にあり、現在はバックナンバーとしてインターネットでいつでも聴くことが可能。今回はみささぎ会の様々な取り組みに興味を持っていただけたことがきっかけでこのような機会に繋がった。事前にみささぎ会のことを深く調べてくださっていたようで、奥田が重視しているホームページや事業計画、事業報告など法人の取り組みの外部発信の方法について、専門家であるメディア関係者方々に高い評価をいただけたことは奥田本人も自信になったとのこと。情報発信している内容は日々全職員が利用者や地域の方々のために行なってくれていることを掲載しているだけであり、中身を作ってくれているのは職員や地域の皆さんのおかげであることをラジオを通して伝えることができた。

20分程度の番組で、こちらから視聴可能（2024年8月のアーカイブ参照）。<https://www.karuizawaradio.university/bn202408.html>



夫婦応援制度・奨学金返済支援制度



みささぎ会では、職員にとってよりよい生活や、意欲的に仕事に取り組む環境を整えるため、福利厚生を充実させています。



2017～ 夫婦応援制度

みささぎ会で働く夫婦をバックアップする制度

累積金額 4,600,000円

昨年度金額 300,000円

昨年度対象職員 2名



2017～ 奨学金返済支援制度

経済的負担を軽減する制度

累積金額 10,950,000円

昨年度金額 2,130,000円

昨年度対象職員(3月末) 25名

人的資本データ

			2023		2024	
従業員数	全体		376名	—	386名	—
		男性	126名	33.5%	124名	32.1%
		女性	250名	66.5%	262名	67.9%
正社員数			189名	50.3%	182名	47.2%
非正社員数	全体		187名	49.7%	204名	52.8%
	契約／パート		180名	47.9%	190名	49.2%
	再雇用		7名	1.8%	14名	3.6%
外国籍社員数	全体		11名	2.9%	14名	3.6%
	正社員		1名	—	3名	—
	特定技能		3名	—	2名	—
	技能実習生		2名	—	2名	—
	介護ビザ		1名	—	1名	—
	その他ビザ		4名	—	6名	—
派遣社員数			0名	—	0名	—
管理職数	全体		31名	—	39名	—
	男性		18名	58.1%	21名	53.8%
	女性		13名	41.9%	18名	46.2%
採用数 (正社員) ※契約込	全体採用数	全体	25名	—	21名	-
		男性	11名	44.0%	8名	38.1%
		女性	14名	56.0%	13名	61.9%
	新卒採用数	全体	9名	—	5名	-
		男性	3名	33.3%	4名	80.0%
		女性	6名	66.7%	1名	20.0%
	中途採用数	全体	16名	—	17名	-
		男性	9名	56.3%	5名	29.4%
		女性	7名	43.8%	12名	70.6%
従業員数の年齢状況 (正社員)	30歳未満		32名	16.9%	35名	19.2%
	30～39歳		43名	22.8%	38名	20.9%
	40～49歳		42名	22.2%	47名	25.8%
	50～59歳		52名	27.5%	54名	29.7%
	60歳以上		20名	10.6%	8名	4.4%

		2023	2024
平均年齢 (正社員)	全体	44.8歳	42.8歳
	男性	43.2歳	42.0歳
	女性	46.4歳	43.5歳
平均勤続年数	全体	9.3年	8.7年
	男性	8.9年	9.9年
	女性	8.1年	7.6年
離職率 (正社員)	全体	9.5%	12.9%
	試採用期間中退職者除く	3.5%	11.9%
障がい者雇用率	全体	3.7%	3.8%
育児休業取得人数	全体	3名	5名
	男性	0	2名
	女性	3名	3名
有給取得率	全体	71.5%	81.2%
eNPS(従業員満足度調査)	全体	-66	-58.5
資格取得者数	介護福祉士	149名	170名
	社会福祉士	13名	20名
	ケアマネジャー	39名	43名

※eNPS：Employee Net Promoter Score
企業やブランドに対する愛着・信頼の度合いを測る新しい指標のこと
日本企業平均-61.1 医療・福祉業界平均-65

本年度は7.5ポイント改善され、帰属意識が高まったと推測できる。

財務ハイライト

■サービス活動収益（売上高）は3,800万増（前期比1.9%）の20億3000万円。

■中小事業者高効率空調機導入支援補助金は1,460万円。

■大阪府介護施設看取り部屋改修補助金は410万円。

■支出として、藤井寺拠点は空調設備工事やミスト浴導入などで4,760万円、つどう拠点はリフトやベッド、電話機更新、車両購入などで2,300万円、大仙拠点はエアコン更新、脱衣室改修、エアマット購入などで800万円を計上。

■日本国債1,000万円分を新たに購入（積立資産は6.1億円となった）。

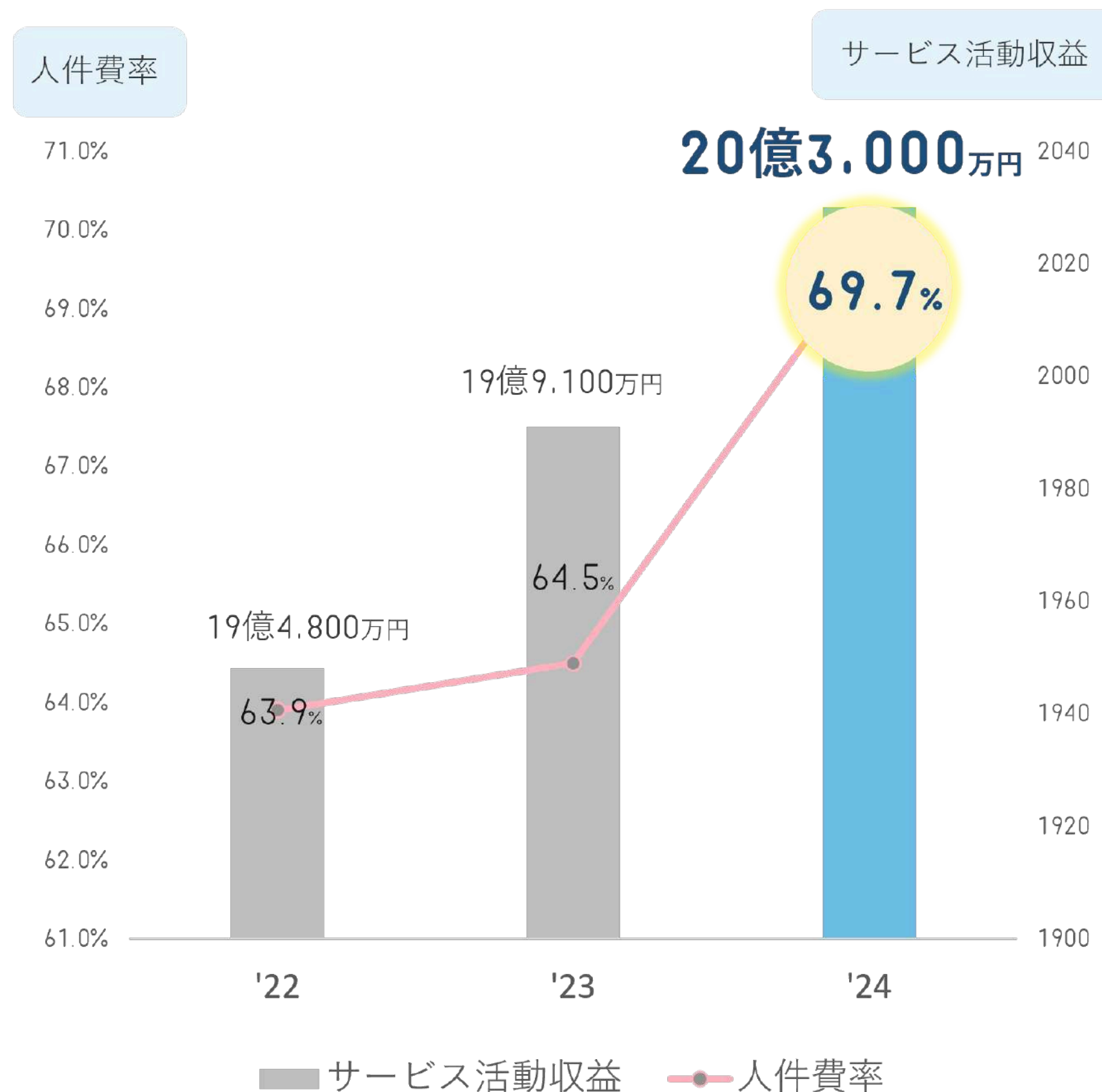
■人件費率は69.7% ※賞与引当金を除外すると65.7%

■賞与算定期間と支給時期を変更したことで、法人として初めて賞与引当金8,100万円を計上。そのため人件費が増額したことによる、事業活動計算書上の当期活動増減差額は130万円と例年と比べてかなり減少しているが、賞与引当金を加えた場合の当期活動増減差額は8,200万円であり、大規模改修費用を考えると例年通りの水準である。

■サービス活動収益が法人初の20億円を超え、最高収益であった。コロナ禍からのデイサービスの復調、ヘルパー並びにプランセンターの合併による効率的な運営と取得加算の増加、物価高騰に対して独自に食費の値上げ対応、報酬改定後の新設加算の算定がある程度できたことなどが要因。

しかし依然として人材難、他産業の賃上げに対する公定価格の遅れ、最低賃金の引き上げ、物価高騰など経営状況は前途多難である。人材の採用・定着には職場環境向上が必須のため、ICT機器導入を推進したいが、費用が多額であるため補助金を活用しながら進めていくことが財務的には求められる。

サービス活動収益と人件費率



財務情報

資金収支計算書
(キャッシュフロー計算書)
(単位：円)
(自) 2024年4月1日
(至) 2025年3月31日

勘 定 項 目			金 額
事業活動による収支	収入	介護保険事業収入	1,962,382,193
		保育事業収入	39,779,126
		障害福祉サービス等事業収入	25,763,109
		経常経費寄附金収入	1,804,040
		受取利息配当金収入	3,006,353
		その他の収入	21,000,913
		事業活動収入計(1)	2,053,735,734
	支出	人件費支出	1,335,269,475
		事業費支出	276,756,852
		事務費支出	243,143,941
		利用者負担軽減額	1,068,421
		支払利息支出	3,378,049
		その他の支出	20,106,142
		流動資産評価損等による資金減少額	1,599
	事業活動支出計(2)	1,879,724,479	
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		174,011,255	
施設整備等による収支	収入	施設整備等補助金収入	18,772,000
		施設整備等収入計(4)	18,772,000
	支出	設備資金借入金元金償還支出	41,094,000
		固定資産取得支出	68,514,976
		ファイナンス・リース債務の返済支出	4,228,344
		その他の施設整備等による支出	930,786
		施設整備等支出計(5)	114,768,106
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)		-95,996,106	
その他の活動による収支	収入	積立資産取崩収入	13,311,104
		その他の活動収入計(7)	13,311,104
	支出	積立資産支出	18,692,701
		その他の活動支出計(8)	18,692,701
		その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	-5,381,597
予備費支出(10)		-	
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)		72,633,552	
前期末支払資金残高(12)		982,823,134	
当期末支払資金残高(11)+(12)		1,055,456,686	

事業活動計算書
(損益計算書)
(単位：円)
(自) 2024年4月1日
(至) 2025年3月31日

勘 定 項 目		金 額	
サービス活動増減の部	収 益	介護保険事業収益	1,962,382,193
		保育事業収益	39,779,126
		障害福祉サービス等事業収益	25,763,109
		その他の事業収益	468,968
		経常経費寄附金収益	1,804,040
		サービス活動収益計(1)	2,030,197,436
	費 用	人件費	1,415,229,759
		事業費	276,756,852
		事務費	243,143,941
		その他の事業費用	331,276
		利用者負担軽減額	1,068,421
		減価償却費	130,971,228
		国庫補助金等特別積立金取崩額	-34,093,483
		徴収不能額	1,599
サービス活動費用計(2)	2,033,409,593		
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)		-3,212,157	
サービス活動外増減の部	収 益	受取利息配当金収益	4,250,121
		その他のサービス活動外収益	23,180,138
		サービス活動外収益計(4)	27,430,259
	費 用	支払利息	3,378,049
		その他のサービス活動外費用	20,205,915
		サービス活動外費用計(5)	23,583,964
サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)		3,846,295	
経常増減差額(7)=(3)+(6)		634,138	
特別増減の部	収 益	施設整備等補助金収益	18,772,000
		固定資産売却益	
		その他の特別収益	745,580
		特別収益計(8)	19,517,580
	費 用	固定資産売却損・処分損	4
		国庫補助金等特別積立金積立額	18,772,000
		その他の特別損失	23,040
		特別費用計(9)	18,795,044
特別増減差額(10)=(8)-(9)		722,536	
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)		1,356,674	
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額(12)		1,870,211,576
	当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)		1,871,568,250
	基本金取崩額(14)		
	その他の積立金取崩額(15)		53,644
	その他の積立金積立額(16)		11,084,073
	次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)		1,860,537,821

財務情報

資 産 の 部			負 債 の 部		
流動資産		1,189,137,658	流動負債		257,924,996
	現金預金	855,789,349		事業未払金	132,918,973
	事業未収金	316,980,780		1年以内返済予定設備資金借入金	39,840,000
	未収補助金	5,488,000		1年以内返済予定リース債務	3,468,024
	立替金	2,258,134			
	前払金	3,094,240		職員預り金	745,889
	前払費用	5,527,155		仮受金	16,110
固定資産		3,190,466,284		賞与引当金	80,936,000
基本財産		2,276,960,379	固定負債		584,435,344
	土地	968,627,949		設備資金借入金	458,160,000
	建物	1,308,332,430		リース債務	12,278,266
その他の固定資産		913,505,905		退職給付引当金	113,997,078
	土地	36,000,000	負債の部合計		842,360,340
	建物	40,854,715	純資産の部		
	構築物	52,784,123	基本金		626,555,240
	車輛運搬具	13,445,971		基本金	626,555,240
	器具及び備品	61,913,448	国庫補助金等特別積立金		463,111,364
	有形リース資産	17,239,718		国庫補助金等特別積立金	463,111,364
	権利	1,314,853	その他の積立金		587,039,177
	ソフトウェア	5,528,242		施設・設備整備積立金	587,039,177
	退職給付引当資産	94,457,518	次期繰越活動増減差額		1,860,537,821
	施設・設備整備積立資産	587,039,177		次期繰越活動増減差額	1,860,537,821
	差入保証金	2,575,250		(うち当期活動増減差額)	1,356,674
	リサイクル預託金	352,890	純資産の部合計		3,537,243,602
資産の部合計		4,379,603,942	負債及び純資産の部合計		4,379,603,942

主要な経営指標

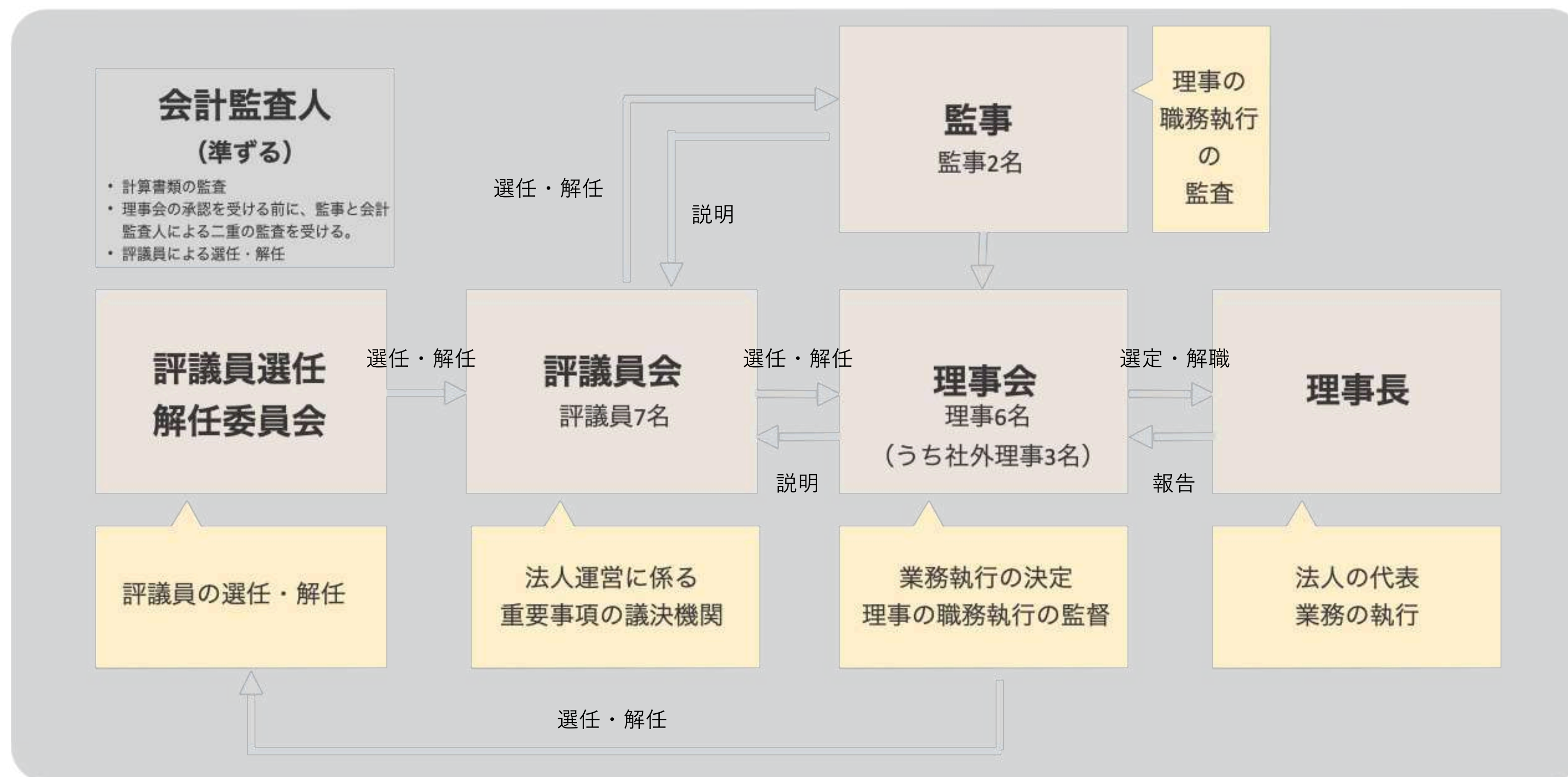
財務情報

経営指標		算式	※参考指標 全国平均	法人全体	指標説明
費用の適正性	人件費率	＝人件費÷サービス活動収益	66.9%	69.7%	サービス活動収益に対する人件費の占める割合を示す指標。本指標の値が低いほど収益に対する費用の負担は軽くなる。
	人件費率+委託比率	＝(人件費+委託費)÷サービス活動収益	71.2%	74.3%	サービス活動収益に対する人件費及び委託費用の占める割合を示す指標。本指標の値が低いほど収益に対する費用の負担は軽くなる。
	経費率	＝経費÷サービス活動収益	25.5%	25.6%	サービス活動収益に対する経費の占める割合を示す指標。本指標の値が低いほど収益に対する費用の負担は軽くなる。
	事業費率	＝事業費÷サービス活動収益	15.0%	13.6%	施設の利用者のために直接使用した経費。消耗器具備品費・被服費・水道光熱費・燃料費・保険料・賃借料・雑費等。
	事務比率	＝事務費÷サービス活動収益	10.5%	12.0%	本部及び施設の運営事務に使用した経費。事務消耗品費・職員被服費・水道光熱費・燃料費・保険料・賃借料・雑費等。
	減価償却費率	＝(減価償却費-国庫補助金等特別積立金取崩額)÷サービス活動収益	6.8%	4.7%	サービス活動収益に対する減価償却費の占める割合を示す指標。本指標の値が低いほど収益に対する費用の負担は軽くなる。
短期安定性	現預金対事業活動支出比率	＝現金預金÷(事業活動支出計÷12ヶ月)	4.1ヶ月	5.05ヶ月	現金預金残高が事業活動支出の何か月分に相当するかを示す指標。その値が高い程短期的な支払能力が高いことを意味する。
	流動比率	＝流動資産÷流動負債	318.0%	461.0%	流動負債は短期的な支払義務を表し、短期的に資金化できる支払手段を表す。本指標は、短期支払義務に対する支払能力を示す指標であり、その値が高い程短期的な支払能力が高い事を意味する。
長期継続性	固定長期適合率	＝固定資産÷(純資産+固定負債)	82.8%	77.4%	固定資産の整備に関わる資金調達バランスを示す指標であり、本指標の値が低いほど、長期持続性が高いと言える。
	借入金比率	＝借入金残高合計÷総資産	16.4%	11.3%	総資産に対する有利子負債の比率のことであり(借入依存度)、比率が高いほど有利子負債が多く自己資本が少ないことを示す。
収益性	サービス活動増減差額率(営業利益率)	＝サービス活動増減差額÷サービス活動収益	1.55%	-0.15%	本業であるサービス活動収益から得られた増減差額を示す指標。本指標の値が高いほど収益性が高い事業といえる。
	経常増減差額率(経常利益率)	＝経常増減差額÷サービス活動収益	2.00%	0.03%	本業であるサービス活動収益に受取利息等を加えた、法人に通常発生している収益から得られた増減差額を示す指標。本指標の値が高いほど収益性が高い事業といえる。

※ 「社会福祉法人の現況報告書等の集約結果(2024年度版)」(WAMNET)

コーポレートガバナンス

2019年度より、会計監査人に準ずる監査を任意で受けることで、ガバナンスの強化や経営の透明性を図っています。



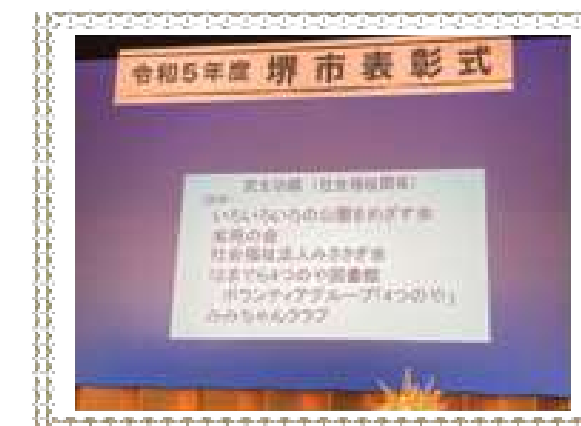
2018年
第一回おおさか介護かがやき表彰



2018年
第一回堺市働きやすく
魅力あふれる介護事業所等表彰



2023年
堺市表彰民生功績・社会福祉関係団体表彰



02 Our Group

藤井寺特別養護老人ホーム

藤井寺
特別養護老人ホーム

生活支援部介護課

看護課

栄養課

藤井寺
デイサービスセンター

ヘルパーステーション
みささぎ

■実績評価 定員数：特養70名 SS：10名

- ・稼働率（特養＋SS） 目標 100％ → 実績 101.0％
- ・1日平均利用者数 目標 80名 → 実績 80.8名
- ・目標を達成した。12月・1月に感染症（インフルエンザA型）が拡大し実績が下降したが、9月までに稼働率を高く維持できていた為、年間で目標を達成できた。入院者も多く出たが、新規のショートステイ利用者の案内等もできた為、大きく稼働率を下げることもなかった。
- ・今年度も入所者については定員に達することができなかった。20名の方に入所いただいたが、退所者数が19名と新規入所者数と大差なかった。次年度こそ定員数を満たしたうえで、目標を達成できるよう入所者の選定と案内を実施したい。

■サービス評価

利用者目線のサービス提供と拡充

利用者が楽しめる機会を増やす

- ・様々な利用者に楽しんでもらえるよう、遠足やおでかけの時間・距離や経済的負担を考慮して、春に長居公園、秋は花の文化園とカップヌードルミュージアム・伊丹空港への外出を実行した。
- ・昨年に引き続き、各フロアで利用者の趣向やADLに合わせたイベントとしておやつ作りをフロア会議開催日に合わせて実施した。年間通して農作物の栽培・収穫を開始し、関心をもたれた利用者と協力して取り組みを続けた。
- ・今年度から藤井寺キリスト協会との交流会（5月）、ガールスカウトとの交流会（12月）も再開した。また、入所者家族の紹介でボランティアグループ「雅」にも公演（7月）していただき、地域とのつながりも少しずつ回復し始めた。

職員が学習する機会を増やす

- ・ 昨年に引き続き、職員が最低1回でも外部研修に参加できるように研修の機会を設けるようにした。介護福祉機器展を見学することで、自施設では学べない知識や刺激を得る機会となった。参加した研修についての伝達研修は、各フロア会議等で時間を設けて行ったが、次年度以降も方法を検討しつつ継続していく必要性がある。
- ・ 認知症学習会について、各フロアでの実践事例を基にした認知症学習会とあわせて課題図書を行うことで、一般的な知識の再学習も行った。
- ・ 接遇については、FasHメンバーが中心にアンケートや掲示物を活用した啓発活動を行った。個人面談も複数回行うことで個々の課題について向き合うことができ、意識付けに繋がった。

介護負担の軽減を図る

- ・ 2月にミスト浴を導入した。それに伴い入浴方法や実施日時について再度検討を行い、入浴介助担当の職員の負担軽減を図った。目に見えた負担軽減には至っておらず、今後も随時見直しが必要である。
- ・ 夜勤負担軽減対策や休日増加を目的とした10時間勤務を試行した。当初の予定とは異なり業務調整が困難な状況となった為、各フロア1日ずつの実施となった。実施した結果、10時間勤務は当ホームの現状には適しておらず、日勤の負担が増加するという結論に至った。しかし、試行の中で現在の業務形態の改善点も見つかったので、業務改善の参考としたい。



ニーズに合わせた介護の実施

- ・前年度に引き続き、今年度はケアマネジャーと各ケース担当者を中心に担当者会議等で、ケアプラン会議をすることで継続できる取り組みに関わる職員全員が意識しやすいようにした。また、オンラインTVを活用し、利用者の好みや目的に合わせた番組や楽曲、体操等を上映することで、日々の楽しみとしていただけるように工夫した。
- ・今年度よりエンドカンファレンスを実施。関係する職種がそれぞれターミナルケアを振り返ることでケアの向上や経験の浅いスタッフの育成に繋げる目的と、家族からの感情や思いを聞き取ることでケアの振り返りや立ち会ったスタッフのメンタルケアを図る目的がある。7月以降に開催し当初の目的に加えてケアプランの評価等もスムーズに行えるようになった。課題としては、永眠されてからすぐの開催が難しく時間が経ってしまうことと、関係する職種全てを集めてカンファレンスを開催するための日程調整が困難なことが挙げられる。今後も開催すべく開催方法については随時見直していく。
- ・2月にミスト浴を導入した。それに伴い入浴形態の見直しを行うことで、利用者一人ひとりが安全かつ快適に入浴できるよう対応した。

ミスト浴例



看取りの場として住み慣れた施設を選択

《基本情報》 Z様 96歳 女性

- ・アルツハイマー型認知症、高血圧、骨粗鬆症の既往あり
- ・難聴の為、コミュニケーションがやや困難。意思表示はある程度は可能。意欲の低下やADLの低下があり、生活全般に介助が必要。
- ・本人の思い： 家族と会いながら、安心して穏やかに過ごしたい。

《経過》

・平成21年頃に自宅で胸椎圧迫骨折される。また平成23年頃にアルツハイマー型認知症との診断を受け、以後当法人のデイサービスやショートステイを利用して在宅生活を続けていた。在宅で家族が熱心に介護をしていたが、徐々に負担が大きくなり当施設への入所を希望し、令和5年9月16日に入所される。家族は在宅介護の経験から希望も多く、施設で出来る範囲で対応を続けた。活動量や食事量の低下がみられ、令和6年6月11日にターミナル同意され、6月17日9：50ホームにて永眠される。

《考察》

・ターミナルケアに移行してすぐ亡くなられた為、ターミナルとしてのケア期間は短かった。ターミナルの同意を得る時期についても、早期の永眠が想定された為、急な日程でのムンテラとなったが結果的に良い判断となった。日々変化する利用者の状態に合わせて、段階的かつ繊細にケアや対応を変化させていくことが大切だとも感じた。

・キーパーソンより、「私（家族）の与えられた環境の中で最善のかたちで天寿を全うすることができたと思っています」「みささぎ会にお世話になって本当によかった」「信頼できる施設があってよかった」とお声があり、家族の意向・考えに添った支援ができたと感じられた。

・日々のケアが大切であり、利用者・家族・職員など相互の信頼関係をはじめから最期まで積み重ねていくことが大切だと感じた。一方で、家族にとっては＜最期の関わりの印象＞が今後の施設との関わりに繋がっていくと意識する必要があると感じた。特に、毎回の家族の印象として、施設前での職員のお見送りは涙を流され、感動されるケースが多い。みささぎ会の職員がお見送りの際、当たり前のように行動している姿が家族を感情的にするのかもしれないと感じた。

生活支援部 介護課 ショートステイ

藤井寺特別養護老人ホーム

■実績評価 定員数：特養70名 SS：10名

- ・ 特養実績101.02%で目標達成
- ・ 年間新規利用者 31名
- ・ 居宅介護支援事業所と密な連携を図るため、一番に藤井寺特養に相談してもらえるように促した。はじめてのショート利用、困難事例を受け入れ、ニーズに沿ったサービス提供を行った結果、居宅介護支援事業所のケアマネから藤井寺特養に関して、他の事業所よりも介護力に定評がある声が多く、居宅との信頼関係構築がすすんだ。

■ペースノートの活用（SS予約管理システム）

- ・ ペースノート活用による作業効率UP、空床予測・迅速な調整が可能になり、安定した稼働率を実現することができた。自事業所内でケアマネや他部署と、リアルタイムに情報共有でき、作業効率につながった。



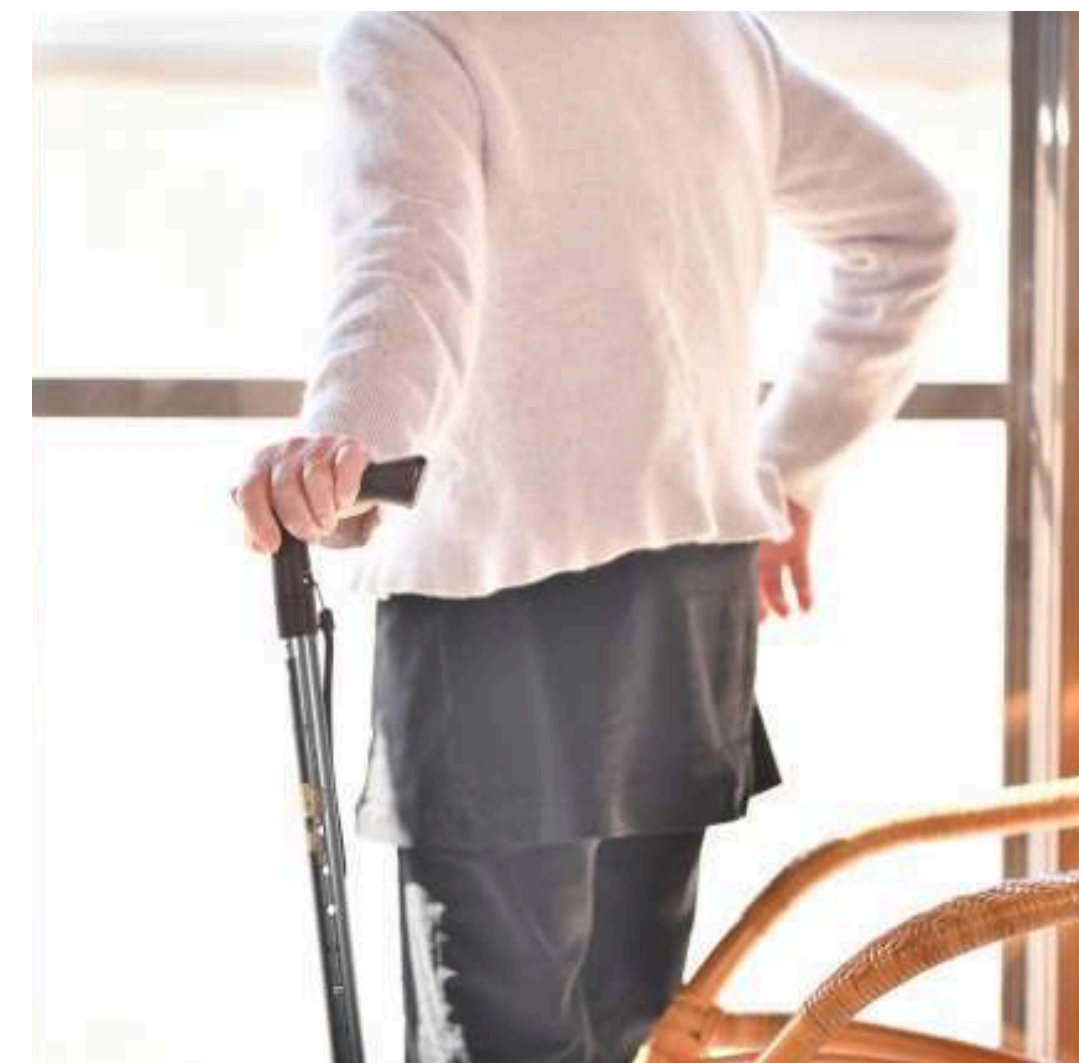
■サービス評価 定員数：特養70名 SS：10名

個々のニーズに沿ったサービス提供を実施

- ・転倒の危険性が高い利用者に対して、センサーの設置や居室内の手の届く範囲に支持物を設置、転倒予防マットの活用等安心して過ごして頂けるよう安全に配慮した居室環境を整えた。（転倒による怪我ゼロ）
- ・理学療法士による自宅を想定した個別機能訓練を実施し、機能維持・改善に取り組んだ（機能維持できていることに感謝する家族の声があった）。
- ・ショートステイのニーズはあるが、利用が初めてかつ困難とみられる利用者・家族に「やってみましょう」と1泊2日からの調整やサービスニーズを満たすチャレンジを実施した（サービス継続力の向上・介護力が高いとの評価につながった）。
- ・2025年2月にミスト浴の導入
- ・利用者ニーズに沿った入浴サービスの提供、業務改善として職員の介護負担軽減や丁寧な介護の実現を目的としてミスト浴導入に至った。
- ・重要事項説明書付属書類（入所時のリスク説明）を追加し、説明と同意をいただくことで、家族への高齢者の特性・特養介護の理解が深まった。このことから急なトラブルへの抑止力にもなった。

次年度に向けて

- ・上記内容継続により、利用者・家族・ケアマネ・地域との信頼関係構築を維持する。
- ・業務改善・サービスの質向上に取り組み、利用者満足度の高いサービス提供を実現する。
- ・実績目標を達成する



■実績評価 【1カ月レセプト】
目標 230,000点 → 結果201,466点

■サービス評価

- ・実績の目標には届かなかった。理由としてはSSの精神療法の人数が減ったことによるものが大きい。

■具体的な取り組み

感染予防

- ・コロナ・インフルエンザのクラスターは周期的にみられたが、比較的軽症で収束している。
- ・手洗い・消毒の励行、感染媒体にならないように注意している。

■利用者の想いに寄り添う

- ・ご本人が伝えられない場合、家族との話す場を作るようにしている。
- ・ターミナル期には特に話し合いや状態報告などを行っており、家族の希望でホームでの最期を迎えるケースが多かった。

■皮膚乾燥による皮膚トラブルの予防

- ・発赤や軽度の剥離はみられることもあるが、早期に発見し処置することで改善している。オキシドールの処置を加えたことで早期の改善がみられている。
- ・乾燥による掻き傷もみられるが、保清保湿を心がけている。



■実績評価

■献立・栄養ケアマネジメント

・10月以降から栄養摂取基準を見直し、献立内容の変更を実施している最中である。現状提供している調理内容を確認し、献立・栄養状態に反映し、より利用者の状態に適した献立作成が行えるよう、変更を実施していく。

・栄養マネジメントに関しては、適時内容を見直し、ケア計画の作成を行うことができているため、**今後は新たな知識を得る機会を設け、施設内での栄養ケアに反映できるように取り組んでいく。**

■マンネリ化の防止

・給食を提供する対象者を改めて意識した、献立作成を行うようにしてきた。しかし**固定のメニュー提供に留まっているため、来年度は新たなメニューや現状の改善に取り組んでいく。**また食事会も行えていないため、**月1回は行えるよう各部署と協力し実施していく。**



ひな祭り



<正月> きざみ食

■個別対応

- ・できる範囲での個別対応は実施できているが、対応する際の基準がないため、今後はわかりやすい対応基準を作成していく。
- ・セレクトメニューも実施できていないため、より簡易に行えるような方法を検討していく



《お節 ムース食》



《春 お豆ごはん》



《正月 お節》



《栗ご飯とミルフィーユカツ》



《節分 恵方巻》

藤井寺デイサービスセンター

■実績評価 定員39名

- ・年間1日平均利用者 目標 30名 → 実績 30.9名
- ・年間稼働率 目標 90% → 実績 80.3%
- ・年間新規獲得者数 目標 42名 → 実績 53名
- ・年間通して実績30名/月は超えたが、9月実績33名が最高値で12月～2月にかけて感染症の流行にて実績が下降し年間の実績は上がらなかった。

■サービス評価

- ・ボランティア（新規再開）
- ・こくり（作品作り）、お話コロリン、美容
- ・毎月のイベント：おやつ作りの継続を行い臨時利用の獲得に繋がっている。
- ・提供時間の変更 8:30～17:30 → 9:00～16:30
- ・新車ノアの購入
- ・ミスト浴の導入にて介護度の高い方の依頼も増加。
- ・15時からのアクティビティを見直し、個別対応を行うことで提供時間の延長に繋がる。

■業務改善評価

- ・送迎時に送迎ドライバーが行っていた介助を見直し、各CMにヘルパー導入の依頼を行いドライバーの負担軽減を行った。
- ・送迎ソフト（ドライブボス）の導入を行い、送迎計画の業務負担軽減に繋がっている。
- ・常勤看護師の採用をした。
- ・各事業所に、毎月訪問を行いCMとの意見交換やDSのパンフレット作成したうえで新規依頼の営業を行い新規の事業所の開拓に繋がった。



藤井寺デイサービスセンター

移動時のリスクについて共有した事例

《基本情報》 A様 100歳 女性 要介護2 息子同居 3階建

・既往歴：アルツハイマー型認知症・高度骨粗鬆症・圧迫骨折・甲状腺機能低下症・虚血性心疾患うっ血性心不全・認知症日常生活自立度Ⅳ・寝たきり度B2

《経過》

- ・2014年頃より認知症症状が徐々に出始め、2020年冬に転倒右大腿骨骨折、入院となる。
- ・2022年春に老健より退所。寝たきりとなり介護に対して拒否があり、食事もため込み嚥下も悪い状態であった。リハビリ、入浴、家族の介護負担軽減の為週4日で利用開始した。

《取り組み内容》

- ・契約時送迎2人対応で抱え込み、階段の昇降行い1階まで移動し車椅子移乗。介護者、利用者共にリスクあり、他施設ケアマネージャーに依頼し職員、ケアマネージャー、家族にて話し合いの場を作って頂く。

《考察》

- ・自宅にて移動時のリスク、本人の負担についての話し合いを実施。
- ・家族、ケアマネージャー共に理解され本人の居室を1階に変更。
- ・以降の利用時は1人介助にて双方に負担なく利用される。



ヘルパーステーションみささぎ

■実績評価

- ・月平均 1475.9時間
- ・実人数平均 155人
- ・身体・身体生活割合82.9% 年間通しおおよそ達成
- ・要介護4、5割合：34.7%
- ・月平均は達成できず、身体介護の割合と夜間早朝は増加。毎月の終了者も多く、新規獲得するためCMへ細かい変化の報告や相談を続ける。

■状況

- ・パート職：5月・6月／1名ずつ入職
- ・正規職員：11月／1名退職
- ・産休：正規1名、パート1名 2名は妊娠が分かった時点で事務仕事に変更
- ・スマホで情報交換をリアルタイムで行い、ケアカルテ記録確認翌日午前中に完了。ケアカルテとLINEWORKSを使い事務仕事を効率化し、情報交換や周知に時間が使うことができた。
- ・概ね希望した休みは有休含め取得できた。
- ・精神障害があるひとり親、乳児子育て中の2名へ障害サービス家事支援、母親が育児できず孫を養育中の精神障害1名へ保育園送り迎えの育児支援で訪問中。



PTによる体位変換の研修



PTによる体位変換の研修



子育て支援研修の様子

ヘルパーステーションみささぎ

子育て応援ヘルパーの取り組み

《基本情報》

- ・子育て応援ヘルパーを3名が利用している。
- ・Oさんがみささぎ会を選んだ理由は、有資格者だから安心、藤井寺特養が家から近かった、他2名はつどいの広場知人紹介など。藤井寺市委託を4月に受け、初回依頼はR6.10月。1名は30時間を使い切り終了、現在2名訪問中。

《対応》

- ・全体研修として4月赤ちゃん人形をレンタルし沐浴体験、8月に藤井寺市子育て支援課が来所し子育て支援についての研修、2月に助産師講師によるマタニティー期研修を実施。乳幼児の救急時対応や起こりやすい事故についての研修を数名受講し、周知研修が済んだ状態である。

《経過》

- ・子どもをあやしながらメニューを一緒に考えたり、調理、簡単な掃除支援を行う。生後5か月ごろ近所の方に『泣いてるね』と声をかけられ、泣かさないようにしないといけないと感じてしまい辛くなりヘルパーを依頼した。今振り返ると自分は疲れてたのかな？泣かさないようにするのは不可能だし、赤ちゃんだから泣くよね、と今は理解できている。あれもこれもしないと、と気持ちだけが焦っていたが『ヘルパーさんが来てくれた時にしよう』と考えるようになり気持ちの余裕ができた。今日は2時間予定のところ1時間や1時間30分でいいなという日もあり、柔軟に対応してもらえたら嬉しい、と希望を聞く事が出来た。

《考察》

- ・今後も、産後や心身ともに不安定な子育て世帯へ手助けになれるよう依頼を受けていく。母子共に表情など観察しながら話を聴き、支援内容と記録に残し共有する。積極的に研修を受け質の高いサービスを提供したい。



高齢者ケアセンター つどうホール

特別養護老人ホーム
つどうホール

生活支援部介護課
看護課
訓練課
栄養課

デイサービスセンター
つどうホール

グループホーム
つどうホール

ケアプランセンター
みささぎ

生活支援部 介護課

特別養護老人ホームつどうホール

■実績評価 定員数：特養50名 SS：17名（障がい2名）

- ・稼働率（特養+SS） 目標 100% ➡ 実績100.4%
- ・特養退所者19名（ターミナル11名、急変5名、療養型転院3名）。去年に比べ退所者が5名多くベットコントロールに苦戦したが、事前に待機者の情報をまめに把握していたので、迅速にスムーズに案内をする事ができ、実績を確保することができた。

■サービス評価

地域とのつながり強化

- ・今年度は地域の方から、交流やお祭りへの参加のお誘いを頂けるようになった。藤井寺幼稚園の運動会予行演習への参加や、例年行われる布団太鼓に参加することができた。大人数での参加は難しかったが、地元に住んでいた方を中心に参加して頂いた。普段は限られた面会時間の中でしか会うことができない家族や親族、友人などと会うことができてとても喜ばれていた。今後も引き続き地域の催しには積極的に参加していく。

■新しい行事への挑戦

- ・ここ数年はコロナウイルスの影響でフロアごとに実施する行事が多く、同じような行事ばかりでマンネリ化していたのが大きな課題であった。今年度はフロアをまたいでの行事や、デイサービスや機能訓練室を使って全体で行う行事を実施。特に6月は機能訓練室を活用して特養・GH合同のミニ運動会を実施した。車イスの方や認知症の方でも参加できる種目を企画担当者が考え実行した。参加された方も昔を思い出したのか玉入れや飴食い競争では片栗粉まみれになって大笑いされていた。ハチマキや赤白帽子をかぶって大盛り上がりだった。次年度は喫茶の復活やアロマハンドトリートメントなども取り組みとして組み込んでいきたい。



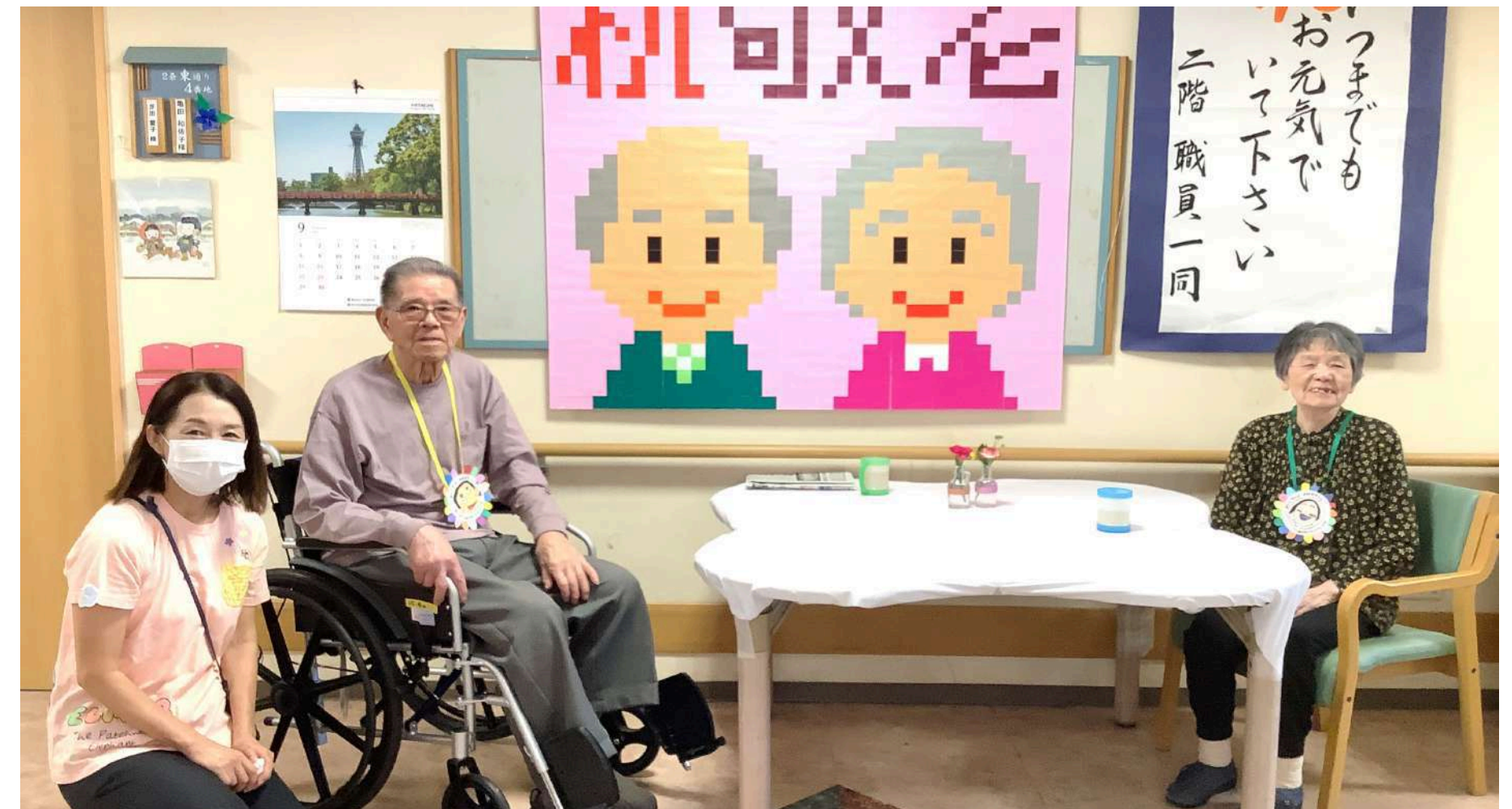
大運動会の様子



大運動会の様子



地域交流の様子



地域交流の様子

家族と本人の思いのターミナルケア

《基本情報》

- ・ Y様 男性91歳 要介護4 認知症自立度：Ⅲa 障害自立度：B2
- ・ 奥様と二人暮らしで、つどうホールのデイサービスやショートステイを利用しながら在宅生活を続けていたが、お互い高齢になったこともあり令和4年に有料老人ホームへ入居。その間に骨折などでADLが低下。本人・家族の希望もあり令和6年8月に特養入所となる。体調不良なく経過していたが、11月に誤嚥性肺炎で入院される。

《経過》

- ・ 入院中に喀痰吸引が必要な状態になり経口摂取が困難になる。病院では持続点滴を実施していた。ご本人は点滴を抜いてしまうこともあり、ミトンで拘束されていた。キーパーソンである家族がその様子を見て「これからも口からご飯が食べられないのであれば、つどうホールに連れて帰りたい」と希望。退院前に施設管理医にも相談しターミナル対応であればと退院を許可。12月にターミナル対応で退院。当日に施設管理医から、家族へ今の状態と絶飲食で口腔内の清潔保持しかできないことを丁寧に説明。家族もその対応を了承される。施設に戻られてからは、遠方の方を含めたくさんの方が面会に来て下さり、ご本人も覚えていたのか一人ひとり名前を呼んでいた。
- ・ ムセもなく吸引も必要としない日が数日続いた時に、家族から「本人が『水でもいいから口に入りたい』と希望している」と相談があった。施設管理医に確認し、氷でムセなければアイスクリームを試してみようと提案。すぐに家族もアイスクリームや氷を準備して下さり、ご本人も口にされて大変喜ばれていた。退院した9日目に永眠された。永眠後、家族より「本人は食べることが好きだったので、少しでもアイスクリームとか食べさせてあげることができて良かったです」というお言葉を頂いた。

《考察》

- ・ 本来であれば持続点滴が必要かつ吸引が必要な状態であれば療養型への転院を勧めることが多いが、今回は家族の「つどうホールへ帰りたい」という強い気持ちがあった。施設管理医も何度も家族と話し、段階を追って口にできるものから口にすることを許可してくれた。フロアのスタッフも家族の面会時間以外でもこまめに訪室し、皮膚トラブルにならないよう定期的に体位変換をしてくれたため、皮膚トラブルなく最期を迎えることができた。本人や家族の希望を尊重する事ができたターミナル事例だった。

■実績評価 定員数：特養50名 SS：17名（障がい2名）

・稼働率（特養+SS） 目標 100% → 実績100.4%

・目標は達成できたが、特養入院者の退院調整が思うようにいかず、6月の稼働率（95.8%）が大きく下がる事があったが、7月からは外部のケアマネ事業所への積極的な新規獲得で年間目標を達成できた。

・今後も自法人のケアマネだけではなく、外部のケアマネ事業所に空き情報を積極的にアピールし、稼働率の安定に努めていく。

■サービス評価

積極的な緊急ショートステイの受け入れ

・例年に比べ、介護をされている家族の体調不良による緊急ショートステイの依頼が多く、積極的に受け入れた。緊急であるがゆえ、現場スタッフとの情報共有に余裕がない時は、事故が起きないための最優先事項だけを共有した。緊急の受け入れは家族だけでなく、担当ケアマネの信頼獲得にも繋がった。

ケアマネとの密な情報交換

・ケアマネが安心してショートステイを依頼できるように、ケアマネとは些細なことでも報告を行った。他法人のケアマネとは電話連絡にて、自法人のケアマネとはLINEWORKSを通じて、できるだけ迅速に情報交換を行った。ショートステイ利用中に、行事やレクリエーションに参加されている利用者の写真を、ケアマネを通じて家族に見てもらう事で安心感を感じて頂くようにも努めた。

業務改善

・ショートステイの業務内容を改めて見直した。特に書類関係は無駄な作業が多く、ケアカルテの機能を活用することで、書類を省いたり簡略化することができた。業務改善については引き続き現場職員と意見交換しながら、さらに改善に努めていく。

クレームで失いかけた信頼関係を再構築できた事例

《基本情報》

- ・ A様 男性 要介護3 妻・長男と同居
- ・ レビー小体型認知症でパーキンソン症状見られ、身体の動きが一日の中でも変動が大きい。発語が不明瞭な部分があり、その内容も場面に合っていないことも多い。日常生活全般に介助が必要な状態だが、妻が在宅で献身的な介護を行っていた。本人が意思疎通困難な場面もあり、それに対して妻も思うようにいかずに強く当たることもあった。

《経過》

- ・ 妻の休息目的で定期的にショートステイ利用。見守りが必要な方で、夜間には幻視のような言動がある。状況説明するが納得されないことも多く、対応に苦慮する場面が時折見られた。日中にも理解困難な言動見られ、急な立ち上がりによって転倒されてしまう事故も起きたこともある。
- ・ その中で家族よりクレームを受ける事態が起きる。衣類の一部を誤って脱色してしまうことがあり、しかもその衣類をそのまま着て帰ってしまったことに対し、妻からケアマネを通じて報告を受ける。すぐに自宅へ訪問し謝罪。その際に、以前に起きたアクシデントの時から、少し不信感を抱かれていたことも聞かされる。
- ・ その後は担当ケアマネとも頻繁に情報交換を行い、ちょっとした変化や気づきについても情報共有を行った。その中でショートステイから帰宅すると、本人が周りの利用者や対応する職員について不満を口にされることがあったようで、妻も心配していたとのことだった。残念ながら利用されるフロアの利用者や職員との相性が良くないのではないか？といった課題が見えてきた。本人のリスクを軽減させる為に利用されるフロアを固定していたが、思い切って変更したり、周りの利用者と過ごしやすいように席の配置も考え直した。すると本人の表情・言動に明らかに穏やかに変化が見られ、以前のような苦慮する場面も減った。

《考察》

- ・ ショートステイの利用のほとんどは家族の都合によるもので、本人は大きな不安を感じながら利用される。自宅とは違う不慣れで事故が起きやすい環境のなかで、いかに事故を起こさないか？リスク再優先に職員は注意がいきがちである。今回の事例のように、利用者や職員の「人の環境」を改善する事で、本人の不安やリスクが軽減することを改めて学んだ。本人が実際にショートステイ利用中に妻に来苑してもらい、本人の様子や施設の雰囲気を見てもらった。そのことで妻自身の安心感にもつながった。妻からも「以前はショートから帰ってきたら少し様子がおかしい時もあったが、今は穏やかな表情で帰ってきています。これからもつどうホールでお願いしたい」との言葉を頂けた。現在も毎月定期的にショートを利用頂いている。

■実績評価

- ・ターミナルケア実施者

R4年 7名⇒R5年 12名⇒R6年 11名（特養10名, GH1名）

- ・入院者（特養、GH）

R4年 28名⇒R5年 26名⇒R6年 19名

- ・コロナクラスター件数

R4年 3件⇒R5年 2件⇒R6年 1件

- ・医療報酬

R4年 約16万点 ⇒ R5年 約15万点 ⇒ R6年 約14.4万点

■サービス評価

ターミナルケアの実施

・今年度は家族が希望した11名の方のターミナルケアを実施。主治医や介護士、栄養士との間に入ってスムーズな連携に努めた。介護士が中心となって、利用者がホームで楽しく生活されていた時の写真や好きな音楽などを流し、出来る限り居室内にその人らしさを演出した。

感染症対策

・12/15～12/31 17日間 GHと2F特養でコロナクラスターとインフルエンザが流行した。コロナ感染者25名（利用者18名、職員7名）、インフルエンザ感染者9名（職員9名）。同時期にコロナとインフルエンザが流行したが、検査キットや治療薬を早目に準備しておいたことと、これまでの経験から冷静に対応できたことが、早期の収束につながった。

褥瘡予防対策

・褥瘡リスクの高い方に対して、体圧測定器と高機能のベッドマットの使用を積極的に行った。また介護士と体位変換や排泄介助の見直しも行った。施設内のポジショニングチームに参加し、法人内の事例発表会（ベスチャレ）で褥瘡予防の取り組み発表にも協力した。

■サービス評価

食事提供サービス

・年間を通して季節に応じた行事食を実施することができた。おやつの時間帯に、好きな飲み物を選んで頂く企画を不定期で実施。食材費の高騰により、使用する食材に制限があり、これまで以上に献立に頭を悩ませる1年だった。

栄養管理

- ・ミールラウンドの実施により栄養状態が高リスクの方に限らず、入所者全員の日々の食事状況を観察する機会が増えた。
- ・酵素を使用して刻まない「やわらか食」の提供を目指していたが、なかなか刻まずに提供できるほどやわらかくならず、食事形態の名称を「やわらか食→キザミ食」「やわらかキザミ食→極キザミ食」に戻した。
- ・食材費高騰により生野菜・生果物の使用が困難となり、ビタミンC・食物繊維の給与量が目標量を下回った。

衛生管理

- ・食器消毒保管庫入れ替えを実施。
- ・コロナ・インフルエンザの発症はあったが、これまでの経験やマニュアルの活用で問題なく対応できた。



《正月祝善》



《節分》



《ひな祭り》



《敬老祝賀会》

デイサービスセンター つどうホール

■実績評価 定員数：50名

- ・ 1日平均利用者 目標42名 → 実績42.8名
- ・ 月平均実利用者数 130名（R5年度）⇒135名
- ・ 年間新規利用者数 39名（R5年度）⇒54名
- ・ 実績目標達成。目標を達成する為、可能な限り直接ケアマネと会い、利用者の様子を丁寧に伝える事で、ケアマネとの関係性を構築できるよう努めた。体験利用の依頼に対して迅速に受け入れを行い、利用時間・送迎時間については出来る限り利用者や家族の意向を尊重した。現在、曜日による利用者数に差があるため、利用者数の少ない曜日に対して行事による臨時利用を促していく。

■サービス評価

新型コロナウイルス感染予防

- ・ 利用時のマスク着用。カラオケは1曲ごとにマイク消毒、送迎終わりの車内消毒、業務後の机の消毒は継続して行った。今年度はクラスター発生は0だった。

認知症プログラムの実施継続

- ・ 認知症自立支援プロジェクト職員と協力し、デュアルタスク活動の実施を継続できた。プロジェクト職員が作成した脳トレの冊子を空いている時間に利用者にお配りし、取り組んで頂いた。

利用者に合ったアクティビティ行事の再開

- ・ 誕生会、母・父の日、夏祭り、敬老、運動会、忘年会等、毎月利用者に楽しんで頂ける行事を行う事ができた。季節ごとにフロアの飾り付けを変え、作成は利用者と一緒に行った。

デイサービスセンター つどうホール

快適な入浴の実施

・入浴は毎月『変わり風呂』を実施。なかでもヒノキ、香りの良い柑橘系風呂、緑茶風呂、コーヒー風呂、米ぬか風呂は、見た目や匂いが利用者に好評であった。入浴に強い拒否のある利用者に対して、時間の変更や個別対応を実施した。

リハビリテーションの充実

・理学療法士の身体機能の評価をもとに「移動時は車イスでなく歩行器を使用する」「車イスから木椅子に移乗する」等、サービス利用中での残存機能活用を強く意識した。利用者が楽しく飽きない為に、個別リハビリだけでなく集団体操やバランストレーニングも実施。リハビリに積極的な利用者に対しては自宅でできる自主トレーニングを提案。リハビリのモチベーションを継続するため為に、自宅での取り組みや進捗状況をデイご利用時に確認している。つどうホールトレーニング倶楽部も週1回実施。新規利用者獲得にも繋がっている。



デイサービスセンター つどうホール

クラブ活動の充実

- ・以前から正規職員が中心になって各々のクラブ活動を担当している。現在のクラブ活動は園芸、制作、絵画、書道、麻雀、シネマ、トレーニングの7つ。
- ・**園芸クラブ**…デイフロアから機能訓練室までの廊下から見える庭の手入れ、畑の手入れ、畑で出来た作物でおやつ作り等を行った。
- ・**制作クラブ**…各月毎にその季節にあった作品を考え、利用者と一緒に作り楽しんで頂けた。
- ・**絵画クラブ**…各月毎のイラストの見本を見ながら、利用者と一緒に描いた。作品は利用者のモチベーションアップの為にデイフロアに掲示した。
- ・**書道クラブ**…各月毎の書字の見本を見ながら、利用者で書いた。デイフロアに掲示する際に、利用者が好きな色の台紙を選んで頂き掲示した。
- ・**麻雀クラブ**…男性の利用者に大人気で、日によっては2卓準備する日がある。手積みが難しい利用者の為に電動麻雀卓も購入。新規利用者獲得にも繋がっている。
- ・**シネマクラブ**…毎月昭和時代の映画を放映。コメディや時代劇等、幅広いジャンルの映画を上映する事で、たくさんの利用者に楽しんで頂いている。
- ・**トレーニング倶楽部**…令和5年度から継続して実施。実施内容を法人の研究発表会（ベスチャレ）で実践発表した。



グループホーム つどうホール

■実績評価 定員数9名

・稼働率 目標100% → 実績99.6%

・入院者2名（内1名はコロナで入院）、ターミナルケアによる永眠1名。グループホーム入居希望の方が数名いるので、入院ベットに対してショートステイ利用をスムーズに提案でき、実績の安定に繋がっている。

■サービス評価

おやつ作りと外出機会の確保

・今年度は季節の行事や食事会に加えて、毎月のおやつ作りを実施。利用者個々の残存機能に合わせて参加して頂き、楽しみながら認知機能の活用を図った。今後はスタッフの認知機能の観察視点もより深められるよう、内部研修等で知識や技術の統一を図る。

・コロナも少し落ち着きがみられたので、誕生月に外食を実施。メニューで悩んでいる様子や、他の利用者やスタッフと相談しながらメニューを決めている様子は、微笑ましい光景だった。今後はより外出や外食の機会を積極的に確保していきたい。

身体機能の維持

・介護度3以上の方が1年間で4割から6割に増え、介助や見守りを実施する時間が増えてきた。これ以上介護度が上がらないよう身体機能の維持を目標に、スタッフ間での介助・見守り方法の統一を図った。利用者への声掛けも、できるだけポジティブで前向きな声掛けを意識する事で、利用者自身の意欲の向上に努めた。引き続き過剰な介護は避け、身体機能の維持に努めていく。

地域との交流と関係作り

・昨年に引き続き、運営推進会議を2ヶ月に1回開催できた。地域住民や市役所の関係者等に参加頂き、グループホームでの行事を中心に報告した。地域との交流では、藤井寺幼稚園の運動会の予行練習に参加した。今後も近隣の幼稚園や小学校との交流機会を増やし、地域との顔の見える関係性を作っていきたい。

グループホーム つどうホール

役割を通じた自立支援事例

《基本情報》

- ・ N様 98歳 女性 要介護3 認知症自立度：Ⅲa 障害自立度：A1 アルツハイマー型認知症（中等度）
- ・ 身の回りの事は介助者の見守り・一部介助のもと可能。性格は内向的で、自発的な発言や行動は少ない。

《経過》

・ 入所して4ヶ月目のある日、ふと立ち上がられ「ご飯の支度をしなくっちゃ」と仰られる。普段自発的な発言の少ないN様だが、主婦をされていた記憶が想起されたと思われる。お米研ぎをお願いすると、想像以上に手順を理解されており、依頼したお米の量も忘れず記憶されていた。この何気ない一言からN様の役割を通じての自立支援が始まった。お米研ぎの作業の間隔が空いたり、時間を決めずにその日の様子で行っていると、水道の使用方法や作業手順の理解にバラツキが見られた。本人の混乱を少しでも改善する為に、お米研ぎは毎日実施すること、実施時間と手順を統一することとした。またN様自身が前向きに意欲的にお米研ぎを行えるように、スタッフの声掛けはできるだけ行わず、N様が手順で迷われた場合だけ、ヒントを出してご自身で考えて頂くよう働きかけた。水道レバーの上げ下げを迷う、お米が流れてしまう、水加減が少なかったりすることがあったが、日が経つにつれ、作業自体が正確でスムーズになってきた。現在はN様のお米研ぎは日課として定着しつつあり、美味しそうにご飯が炊けた事を伝えると、とても嬉しそうな笑顔で喜ばれている。

《考察》

- ・ 次年度はN様だけでなく、全介助の方も含め、利用者全員に対して毎日の日課を作り、役割を持つことで、自信の回復と認知症の進行予防を図っていききたい。



ケアプランセンター みささぎ

■実績評価

- ・ 月平均件数 目標 260件 → 実績 234件
- ・ R6.3月にケアマネ1名退職に伴い、他事業所への25件プラン持ち出しにより実績は減少した。R7.1月に他事業所閉鎖に伴い13件のプランの引継ぎを受けるも、利用者の体調不良や施設入所等により大幅な実績の増加には繋がらなかった。新規は月平均5件獲得していた。

■サービス評価

業務改善について

- ・ 要支援の方の定期自宅訪問頻度を法人基準の毎月訪問から、介護保険制度基準の3か月毎の訪問に変更。
- ・ 要支援の方のアセスメントシートを藤井寺市の書式と法人独自のアセスメントシートの2つを作成していたが、法人独自のシートの作成廃止した。
- ・ 特定のケアマネがケアマネ全員分の毎月の提供票を一括印刷・チェックしていたが、業務効率が悪かったため、ケアマネ各自が責任を持って自分の担当ケース分の提供表を印刷・チェックするようにした。

つどうホール全部署の運営適正化

- ・ 今年度もケアプランセンターが中心となって、つどうホール全部署の書類チェックを実施。ケアプランセンターについては、管理者がケアマネ8名の書類を確認した。書類確認だけでなく個別面談を通じて、書類作成手順や制度の理解についても確認した。管理者が確認した内容を各部署やケアマネ個人にフィードバックした後、ケアマネ全員に個別のフィードバック内容を開示した。全部署大きな不備はなく、介護保険制度について改めて確認する良い機会となった。
- ・ つどうホール全部署と8名のケアマネの個別の書類チェックは時間も掛かり確認作業の負担も大きいですが、大阪府や藤井寺市の実地指導が定期的に実施されないなかで、適切な運営で利用者にご迷惑を掛けないためにも今後も毎年実施していく。

ケアプランセンター みささぎ

役割を通じた自立支援事例

《基本情報》

・N様 53歳 女性 要介護3

認知症自立度：自立 障害自立度：A2

サービス利用状況：訪問介護、訪問看護（リハビリ）、通所リハ、福祉用具貸与、訪問マッサージ（医療保険）、ガイドヘルパー（障がい）

・病歴：脳梗塞（R2年）、高血圧症

・家族状況：娘2人と3人暮らし。キーパーソンの長女が本人の身の回りの事をしている。次女は高校1年生。近くに弟がいるが、仕事や自身の家庭もあり常時の協力は難しい。

・ADL：脳梗塞の後遺症で右上下肢に麻痺が残る。高次脳機能障害、感覚機能障害もみられる。移動は車いすが必要だが、リハビリの継続により、自宅内はある程度伝い歩きが可能になった。調理も下ごしらえが出来るようになっているが、後遺症により以前のように一人で全て行う事が出来ない状態は続いている。

《経過》

・本人より『長女が大学卒業後、海外へ行く事になった。昔から海外で仕事をするのが夢で、自分のせいで夢を諦めさせたくない。ただ、長女が私の身の回りの事を全て対応してくれていたからどうなるか不安で・・・』と話あり。

・本人は年齢も若く、自分で判断決断する力を持ち合わせているので、ケアマネから積極的にサービスを提案するのではなく、一度本人に「自分で出来る事とできない事、何が困るのか？」を自分で考える必要がある」ことを伝える。

・本人『少しずつ考えていきたい』と言われる。

・これまで長女に助けてもらっていた ①高齢者施設に入所している実母への面会の送迎（⇒タクシーの手配含め自分で行えるようになる）②買い物（⇒ネット注文活用）③外出時の車いすの介助（⇒ガイドヘルパー利用）④銀行のお金の引き出し（⇒ネットバンク活用）は、半年かけてケアマネや関係機関のスタッフの協力で、本人自身でできる目途が立った。

・本人の不安が一つずつ解消されていくにつれ、「できた」「行けた」「何とかかなりそう」「しんどい時はヘルパーさんに力を借りる」といった、前向きな言動や自信が見られようになった。

《考察》

・本人は元々、不安を感じると感情が不安定になりやすい方なので、ご自身で課題を整理し、解決していくようなアプローチに不安を感じていた。本人が困るであろう課題や家族の不安に対して、ケアマネはこれまでの経験値から予測してサービス調整をしがちである。今回のケースは年齢も若く、身体機能も認知機能も残されていたことから、ケアマネや関係者がご本人の力を信じながら寄り添えた事が良かった。

高齢者ケアセンター 大仙もずの音

特別養護老人ホーム
大仙もずの音

生活支援部介護課

看護課

訓練課

栄養課

大仙もずの音
デイサービスセンター

大仙もずの音
ケアプランセンター

■実績結果 定員数：特養80名 SS：20 名

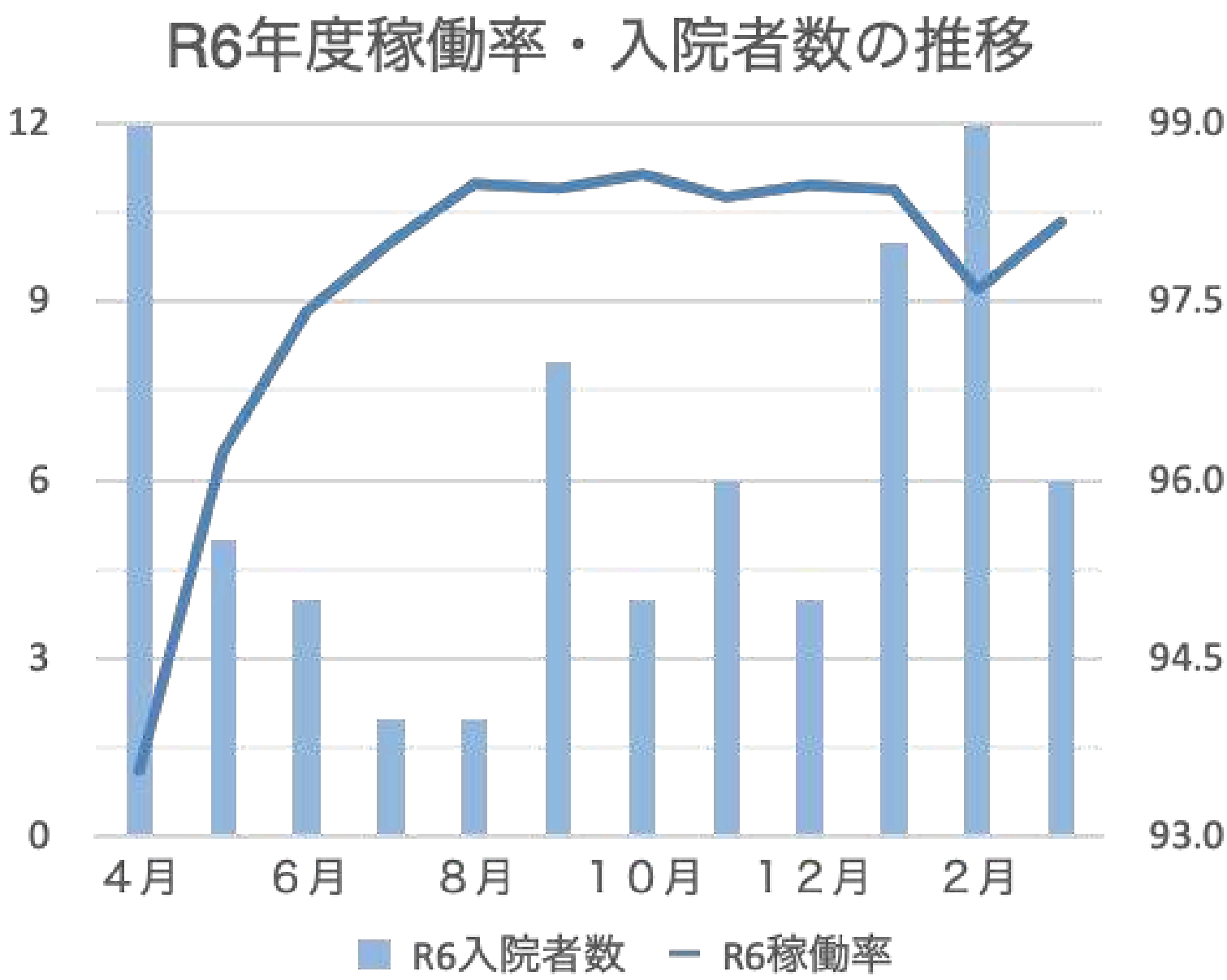
- ・稼働率（特養+SS） 目標 99.5% → 実績97.9%
- ・年間稼働率は97.9%で目標を未達成
- ・考えられる要因は下記が挙げられる

- ① 特養利用者の重度化に伴い、R6年度の入院者数は平均値に比べ170%増加し、ショートステイで空床を埋めきることが出来なかったこと。
- ② 現在、サ高住や有料老人ホームなどの入所施設の急増により、入所候補者は年々減少しており、特養入所者の決定に時間を要したこと。

実績の安定のためには、当然のことながらショートステイの実人数を増加させること、特養の待機者数の増加が必要であり、営業スタイルの見直しが喫緊の課題である。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
過去5年間 平均入院者数	4.1	3.6	3.1	3.4	2.9	4.1	2.7	2.9	5.3	4.9	3.4	3.4	44
R6入院者数	12	5	4	2	2	8	4	6	4	10	12	6	75
R6稼働率	93.6	96.2	97.4	98.0	98.5	98.5	98.6	98.4	98.5	98.4	97.6	98.2	97.9

年間入院者数と稼働率

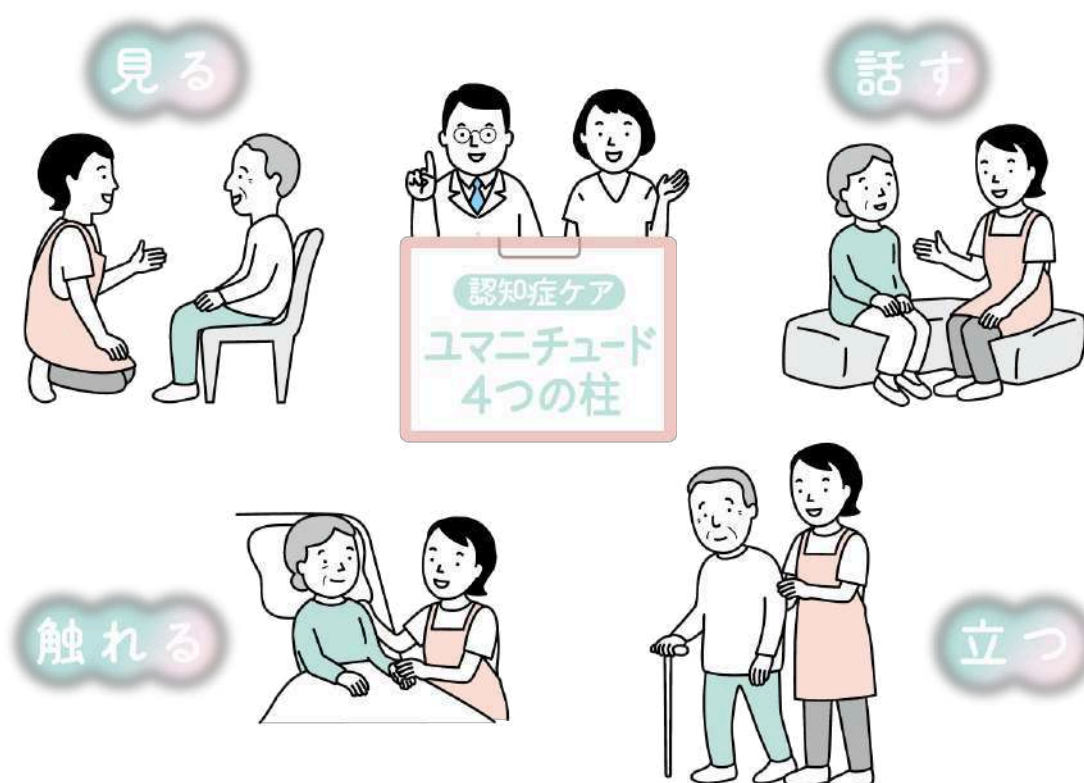


R6年度稼働率・入院者数の推移

■サービス評価

認知症理解やユマニチュード研修の実施

- ・ 期日： 4日間研修（10/31・11/1・11/5・11/6）
- ・ 対象： 特養3階介護士を中心とした選抜12名
- ・ 4日間研修ではユマニチュードケアの理念学習・座学・実技・現場実践を行った。ユマニチュードを用いて実際に利用者への実践を行った結果、普段歩行されていない利用者が職員と一緒に歩こうとされたり、職員の手を取って喜んで頂けたりと利用者自身の変化が目に見えてきたことで、ユマニチュードの必要性を実感できた。
- ・ 今後の取り組み：参加した3階フロアでは、ユマニチュードへの意識が高まったが、目標を掲げて全体での取り組みなどが出来ていない。次年度はユマニチュード推進委員会を作り特養全体・施設全体で取り組んでいく。



研修を通じたサービスの質の向上

- ・排泄ケア研修などに参加した。今年度は参加者を公募制にしたことで、自主的に興味のある研修に参加できた。研修後に他職員への伝達はフロア会議等で行えているが、伝達のみで終わってしまい、取り組みやその検証まで取り組むことができなかった。
- ・役職者による内部学習会を計画していたが、9月排泄介助（5階山本）の1回のみで継続が出来ていない。今度は内部学習会の講師をリーダー職員が担当するように計画していく。

BPSDが強い利用者を対象とした事例検討・カンファレンスを実施

- ・リーダー会議で毎月実施。介護保険改定により新たな加算要件に加わった「認知症ワークシート」を活用し課題分析や計画立案を試みた。利用者の普段の訴えの原因を考える一つの手段になっている。精神安定剤の過剰投与が課題として挙がり、内服投与や投与後の評価などの過程を見直し仕組化した

季節にあった身だしなみ／生活環境の整理整頓

- ・衣替えは、おたよりや近況報告時に家族へ連絡し、リーダー会議で進捗状況の確認を行い実施できている。
- ・衣服管理方法（入浴袋）を見直し、冬季のパッチ管理札を作成し、漏れなく着用できるように仕組化した。
- ・従前入浴袋はランドリー職員が用意していたが、フロア職員が用意するように変更し、衣類の交換を確実に実施できている。
- ・例年、家族より衣類関係の苦情や意見があったが、見直し以降苦情などはなかった。



生活支援部 介護課

特別養護老人ホーム 大仙もずの音

利用者や家族の意見を反映させたケア内容

- ・ケアプラン更新時に事前に家族に聞き取りができたのは2件のみであった。日程調整が上手くできなかった。対面のみならず電話やオンラインも今後視野に入れていく。
- ・家族交流会を5年ぶりに再会できた。11～3月で計5回実施。38家族・47名の家族に参加して頂けた。施設内の見学や日頃の取り組み報告・一緒に掃除などを実施した。
- ・施設見学を行うことで設備への理解が深まった。特に風呂場やテラスの認知が低かった。家族が参加していないイベントや普段の様子を、画像や座談会を通じて伝えることができた。座談会や大掃除を通じて、家族同士のつながりができ、LINE交換される方もいた。
- ・全体を通じて、家族が普段言いづらかった要望を聞き取り実現でき（家族が行う歩行練習等）、1名が洗濯ボランティア登録されるなど新たな関係性作りのきっかけとなった。

利用者や家族が望む看取りケアの実現

- ・看取りケアマニュアルをもとに、利用者の状態変化に応じたケアを実践した。
- ・10月に管理医師が変更となり、施設での看取りケアにも十分に理解がある医師であり、3名の利用者を看取った。



業務や役割を可視化による働きやすい職場環境の実現へ

- ・フロアリーダーやサブリーダー、行事担当などの係（役割）を統一することで、異動しても同じ業務内容で行うこと出来るようになった。誕生会等の頻繁に行う行事計画書のフォーマットを作成した結果、計画担当の負担を軽減することが出来た。
- ・希望休把握ノートをLINEWORKSで作成し、いつでも休み希望を把握出来るようになり職員の余暇の充実に貢献できた。

働きやすい職場環境の実現

- ① 見守りなどの負担軽減を図るための、シルエットセンサーを導入することが出来なかった。令和7年度は見守りセンサー導入委員会を立ち上げ、導入を完結する。
- ② 10月よりエアマットを2台から15台に増台した。職員から、夜勤職員の負担軽減に大きく貢献できている等の肯定的な意見が沢山出ている。また褥瘡予防や睡眠の質向上に資するといったことを説明し、利用者よりレンタル費用を徴収し運用できている。
- ③ 1年目職員向けに「介護技能チェックシート」を用いて、技能習熟後を定点評価した。技能を確認することで、研修期間の終了、延長などの判断基準として活用でき、大きな事故なく新人初職員の自立をサポートできた。
- ④ LINEWORKSを活用することで、紙媒体で行っていた希望公休の管理をLINEWORKS内ノート機能を活用することでペーパーレス化をすることができた。業務改善の評価・アンケート等もLINEWORKSの機能を活用し効率化できた。
- ⑤ 週休3日シミュレーションの実施
 - ・ 期間：10月 1ヶ月間 対象：特養6階常勤職員のみ
 - ・ 10時間の夜勤は肉体的も精神的にも楽になるといった意見が多い一方で、日勤帯の10時間勤務は、集中力が持続できない、疲労感が翌日まで残るといったネガティブな意見が圧倒数を締め、今回の導入は見送ることとした。

次年度の課題

- ・稼働率の低下は収入減の結びつき、人員の削減やサービスの質を招く恐れがあり得る。働きやすい職場環境やサービスの質の維持するためにも稼働率が安定できる仕組み作りが必要である。
- ・外国人やシニア世代・ダブルワークなど働く人や働き方の多様化が更に進展しており、その人にあった育成計画や役割を担ってもらうことで、あらゆる人材が活躍できる職場づくりを行う。



看取り対応の事例

《基本情報》

H様 看取り対応期間：11/18～11/28

《経過》

- ・10/28食思不良・SPO2低下により入院。病院では経口摂取がほぼできず点滴が必要な状態であったが、家族の希望により看取り対応として受入した。
- ・施設では、大好きなおしるこを食べていただけ、できるだけ離床し馴染みの職員や利用者と過ごしなが、入所以来10年余り過ごされた居室内で11/28に永眠される。家族からも大仙もずの音に帰って、皆さんと過ごしなが見送ることが出来てよかったという言葉がいただけた。



■サービス評価

・目標を達成できなかったが、前年比は微増した。カルテ記載漏れを防ぐことや、ロングショート利用者の速やかな主治医変更などを行うことで増収につながったといえる。

■具体的な取り組み

誤嚥性肺炎による入院者を減らす

- ・ R5年度入院者数 肺炎5名・誤嚥性肺炎2名
- ・ R6年度入院者数 肺炎13名・誤嚥性肺炎8名
- ・ 早期発見・早期治療（早期対応）を重視。昨年度までの体調異常者対応方法では①発覚②施設医報告・施設医指示③受診という手順を経ていたが、施設医指示での採血や検尿実施後の結果報告までには時間を要していた。ゆえに、入院数を減らすことには繋がらないかもしれないが、今年度からは①発覚②受診という手順を取ることで速やかな早期治療へと繋げることを心掛けた。今後とも早期発見・早期治療（早期対応）に努めていきたい。
- ・ 昨年度と比較し入院者数増加傾向である。背景としては長期入所中の利用者の高齢化や医療度の高い疾患をもつ新規利用者の増加による感染リスクの上昇がある。感染流行期においては、昨年度と比較しクラスターの発生件数は減少しており、より入院者数の増加の懸念があったが、その点は防ぐことができたと考えられる。
- ・ 誤嚥性肺炎の予防として重視されることの一つとして口腔ケアが挙げられる。効果的な方法としては毎食前の口腔ケアの実施である。口腔内細菌の減少・乾燥予防のため実施できないか検討していく。



スキンケア方法の見直し・皮膚トラブルの減少

- ・今年度より保湿剤（ボディクリーム）を施設用物品として購入し常備。主に入浴後に塗布することで乾燥を防ぎ、皮膚トラブル予防を図った。結果としては改善がみられ、皮膚トラブル発生の減少を実感する声が各職員からも聞き取ることができた。保湿剤のみで対応が困難な場合は別途軟膏薬を塗布することで対応している。一時的な対応とはならないよう今後とも保湿剤塗布の対応が継続できるよう取り組んでいく必要がある。
- ・施設内での対応が困難な場合は早期に皮膚科への受診を勧めている。主に今年度は大仙病院（皮膚科）受診を開拓することができた。日曜日以外の午前中に受診可能・200床以下のため紹介状は不必要・予約なしで当日の受診も可能であるため速やかな受診が可能。大仙病院医師からの診断や情報提供も明確化されており、受診後の処置対応も円滑に可能である（家族の希望があれば希望先の受診先を選択）。今後とも積極的に利用していきたい。
- ・褥瘡発生が2件あり。改善点を抽出し、令和6年度9月の医務会議にて皮膚トラブル発見時は速やかにカンファレンスを実施することや招集をするといった基準を明確化した。他にもエアマットの購入や導入、対策班の設立といった対応もあり、以降、施設内での褥瘡の発生はみられていない。



フットケアの継続・蜂窩織炎等の予防

- ・ 爪切りや鑷の物品の補充をすることで、より効果的な処置の実施が可能となった。
- ・ 白癬様の症状がある利用者に対しては、看護師処置の実施や介護士が眠前に塗布し対応。
- ・ 看護師・介護士双方の観察機会を設けることにも繋げることができた。観察時点で対応が困難である利用者に対しては早期の受診を勧めている。
- ・ 課題点として業務都合による処置業務担当者の偏りが挙げられる。直接観察し処置する看護師に偏りが発生することで各看護師間での認識・意識の差にずれが生じる要因となる。改善のため、各々が意識して処置部の現状態の情報共有をし、観察実施日を設定するといった対応を実施している。



■サービス評価

節目のお祝いに食べたいものを提供

・介護士、調理師、栄養士が共同しての提供は行うことができていない。今までと同様に誕生日会において利用者からの要望を取り入れたケーキの提供は行えたが、思い出の味や食事の提供は行うことができなかった。来年度は利用者の希望を探る機会を増やし、この取り組みを行えるように努めていく。

ムース食・やわらか食の提供方法を検討

・残食調査は継続して実施できていたが、嗜好調査やムース食の評価を行うことができなかった。ムース食の提供方法に関しては、日々の調理の中で食材の切り方や盛り付け方法を変更し、変化をもたせることができた。今後は味付け方法も工夫できるよう、日々できるところから改善に取り組んでいく。



ワッフル目前調理



フレンチトースト目前調理

■サービス評価

新しいメニューの開発

・以前から取り組んできたご当地メニューの提供も、47都道府県制覇することができ、新たなメニューを取り入れることができた。また、今年度はデイサービスにおいて新たなメニューでの食事会、おやつレクを行うことができ、提供できる調理の幅を広げることができた。これからも楽しんでいただける給食提供に取り組んでいきたい。

コスト削減

- ・出来るだけ廃棄を減らすために、直近での仕込みや正確な食数把握の仕組みを作成し取り組んでいる。それにより必要数での調理を行うことができ業務内容の改善にもつながっている。
- ・今後は現在使用中の食材価格の見直しを定期的に行い、よりコスト削減に取り組んでいく。

ご当地メニュー LINE UP



三重県：天巻き



秋田県：横手焼きそば

大仙もずの音 デイサービスセンター

■実績評価 定員数：45名

- ・稼働率 目標80% ⇒ 実績 78.4%
- ・1日平均利用者数 目標 40名 ⇒ 実績 35.2名
- ・上半期：34.5名/日（実人数107名/月 1.97日／週あたり利用日数）
- ・下半期：36.0名/日（実人数107名/月 2.01日／週あたり利用日数）

■サービス評価

- ・年間目標は未達成。上半期は新規利用者が10名、中止者が計11名と実績の低値が続いた。
- ・下半期、平均利用者数は増加したが、中止者が23名。新規利用者が20名。
- ・実人数の増加はないが、下半期は既存利用者の利用回数の微増が見られた。
- ・体験利用から契約に繋がった方30名の内、27名は継続利用されている。（永眠が1名、在宅生活困難に伴う終了者が2名）
- ・デイサービスに慣れるまでの2～3ヵ月は、職員は意識的に関わり、利用者の不安解消に努めた。

■サービス評価

アクティビティの充実

- ・利用者がやりたいことを自身で選択して実施できる環境整備は未達成。
- ・2月より、お楽しみレクリエーションとのネーミング新たなゲームを実施。
- ・給食部との調理レクは年間9回実施できた。
- ・5月：目前調理（お好み焼き）、7月：ビアガーデン
8月：夏まつり（たこ焼き、ベビーカステラ）
- ・10月：目前調理（餃子）、11月：おにぎりバイキング
12月：忘年会（お鍋）
- ・1月：新年会（すき焼き） 2月：おやつレク（クレープ）、
3月：おやつレク（フレンチトースト）
- ・小学生との世代間交流が実施出来た。
- ・大仙小学校3年生の訪問（オペレッタ披露）
- ・地域のピアノ教室生徒によるクリスマス演奏会

大仙もずの音 デイサービスセンター

■サービス評価

リハビリテーションの充実

・リハビリ特化プログラム（いきいき長生きリハビリクラブ）は継続できた。12月～開催日を段階的に増やし、利用者の満足度アップに繋がった。

- ・4月～11月 木金 開催/週
- ・12月～月木金 開催/週
- ・2月～月火木金 開催/週
- ・年間参加者：391名

認知症予防活動の実施継続

- ・認知症予防プロジェクトと共同して潤脳活動、歩容活動を継続することができた。
- ・歩容活動者数 4月時点の14名 → 年度末20名まで増加

業務改善

- ・昼食準備ボランティアや喫茶補助ボランティアにお越しいただいたが、定着までに至らず。



大仙もずの音 デイサービスセンター

利用者獲得と運営改善に向けての事例

利用者獲得のためのミーティング

・毎月、運営ミーティング（生活相談員・介護士・施設長の3名）を実施。利用者の獲得に繋がる事、業務改善についての検討を行った。大仙もずの音デイサービスは、ニーズ対応型ごちゃまぜデイサービスであることを再認識し、利用者の様々なニーズに答えていく為に取り組んだ。

ライフスタイルに合わせた希望利用時間に対応

・「入浴して昼食を食べたら帰りたい」「昼から入浴だけしたい」等、短時間利用のニーズに対応していく為に、2人のドライバー担当職員の休憩時間を11時～12時、11時半～12時半の時間差で設けた。ドライバー職員の不在になる時間帯が減り、昼食時間帯の送迎にも対応しやすくなった。ケアマネジャーから短時間利用の依頼が来ても、速やかに「対応できます」と自信を持って返事が出来るようになった。

・短時間利用者の実績： 4月⇒6名 3月⇒10名

喫茶コーナーの毎日営業

・喫茶担当職員の退職により、喫茶コーナーが営業できない日が続き、昼食後の憩いスペースとして喫茶を楽しみにしている方が多いため、営業がないことで不満が聞かれた。

・喫茶コーナーを担当するデイ職員を選任し、新たな喫茶担当職員と共に勤務調整を行い、毎日喫茶コーナーを営業することが出来るようになった。引き続き、喫茶コーナーで利用者が楽しく談笑される姿が続くように運営していく。



大仙もずの音 デイサービスセンター

利用者獲得と運営改善に向けての事例

デイサービスのパンフレットを作成

- 8月にデイサービスのパンフレットをリニューアルした。ケアマネジャーが持ち運びやすいサイズのパンフレットを作り、既存利用者のケアマネ事業所、過去に関係のあった事業所、住宅型有料老人ホームへの営業を実施。1日型でニーズ対応型ごちゃまぜデイサービスであること、短時間利用も可能である事、リハビリ特化プログラムを備えている事、特養ショートステイが併設で、入所に向けてのイメージがしやすい事をアピールした。
- 劇的に利用者の紹介が増えたとの効果は感じられないが、1日型のデイサービスで短時間利用が可能な事に対してのケアマネジャーの反応はまずまずであった。関わりが多く、ケアマネジャーの在籍も多い規模の大きな事業所への営業活動を地道に行い、今後も実績確保に努めていく。



大仙もずの音 ケアプランセンター

■実績結果

- ・目標 ケアプラン件数 120件/月
- ・自法人サービス：デイ 50% ショート 12%

・自法人サービスについては、年間平均デイサービス41.8%、ショートステイ9.2%で目標達成できず。その要因として、在宅サービス受給者が年々軽度化している傾向の中、デイサービスはより専門的なリハビリニーズが多く、リハビリマシン等といったハードが充実している事業所の希望が多かったことが挙げられる。ショートステイは、同じく軽度化している傾向があり、定期的なショートステイ利用をするほどの状況ではない利用者が増えてきている。

・そのような中、自施設デイサービスについては特化型リハビリの新たな実施に加え、半日利用の受け入れサービスの開始など、サービスの種類が拡大できた為、引き続き利用者獲得のためPRしていく。

■サービス目標

- ・多種多様のニーズに柔軟に対応ができるチーム作り
- ・地域との交流を図り、地域住民の相談窓口としての役割を担う。

■サービス目標

地域住民への協力・支援

・高齢者世帯、独居高齢者などは、自身の置かれている状況の理解がしにくく、地域住民からのSOS依頼も増えている。日頃から地域住民や民生委員のとの関わりをもち、相談しやすい関係作りに努める。

（評価）

・日頃から地域清掃や町内会行事・介護予防教室などに行ける限り参加し、地域住民の方々と顔が見える関係性の構築に努めた。結果、地域住民から直接相談を受けることに繋がっている。

・利用相談者については地域住民、家族、利用者本人など様々である。

大仙もずの音 ケアプランセンター

専門性を活かす

- ・生活環境等の多重課題を抱えている利用者が増加している。解決困難な課題に直面した際は、チーム全体で協力し課題に対しての解決策を検討し提案していく。

(評価)

- ・独居高齢者に対して家族からの支援が期待できない方、行方不明になり捜索が必要になった方などについて、今後どのような対応が必要なのか他部署を交えて話し合い対策立案に努めた。

各部署との連携

- ・新規、既存利用者に、各事業所の特色を紹介し、自法人サービスのメリットをアピールした上で自法人サービスの利用に繋がるよう連携を図っていく。

(対策)

在宅サービスパンフレットをリニューアル

- ・デイ、ショートともにポケットサイズのパンフレットの作成を行いケアマネが訪問時持ち出しやすい大きさとした。他のケアプランセンターや市役所、包括支援センターなどに置いてもらえるよう働きかけた。

デイサービスのリハビリサービスを強化

- ・ADLの維持のため運動を希望する高齢者も多く見られていることから運動にも力を入れていけるようリハビリ特化型の対応を増やしてもらいケアマネは訪問時などにPRを行った。

デイサービス短時間利用の対応

- ・基本1日型のデイであるが、短時間の要望も多くどうしても他の事業所への紹介となっていた。短時間対応の枠を増やしたことで自法人デイの利用に繋げることができた。

ショート利用時の機能訓練の実施について

- ・数日ショートステイを利用し自宅に帰るとADLの変化が見られていることもあった。そのためショート利用時の機能訓練のニーズも多く聞かれた。対応できる人数は限定されてはいるが、ショート利用中の個別リハビリを実施できるようになり、自施設ショートステイを紹介しやすくなった。

大仙もずの音 ケアプランセンター

本人と課題との向き合い方の事例

《基本情報》

- ・ H様 92歳男性 要支援2
- ・ 家族構成：奥様は10年程前に他界、子どもはいない。自身の兄弟は健在であるが繋がりがなく連絡先も不明。
- ・ 担当経緯：担当していたケアマネが退職に伴い管轄の包括支援センターより依頼が入る。自法人デイの利用者であったためR7.1～担当を引き受ける。
- ・ 病状：ペースメーカーあり。糖尿病のためインシュリン注射実施。大腸がんの既往歴がありストマ増設。インシュリン注射は自己接種可能。ストマ交換については自己管理ができていないこともありデイサービスや訪問看護からの支援を受けていた。



《課題》

- ① 自身で入退院の手続き、役所関係、新聞やヤクルト、宅配牛乳など利用されていたが自身で利用停止、再開の段取りはできない。また病院の受診の付き添いや手配も必要。
- ② 自身の兄弟とは疎遠、連絡先も不明。奥様は他界しており子どもはいない。奥様側の兄弟はいるが関係性が良くなく連絡のやり取りもしていない。
- ③ 上記②の状態であるため現在まで担当ケアマネが①の内容をすべて行っていた。
- ④ 担当ケアマネから引き継ぎにあたり、今後の担当ケアマネがすべて対応していくのは難しく、特に90歳を超えており何があるかわからないため亡くなった後をどのようにするつもりであるのかが課題であった。
- ⑤ 成年後見制度、死後事務委任等のお話しは担当ケアマネからもしてきたがご本人が拒否していたとのこと。担当交代にあたり改めてご本人に再度お話しをさせていただくことで同意を得ることができた。
- ⑥ また奥様側の義妹の連絡先は知っているということでご本人から一度連絡をしますと少し前進した。

大仙もずの音 ケアプランセンター

《支援開始から終結》R7.1～支援開始

- ・引き継ぎにより受診の段取り、インシュリン注射の備品の依頼など支援する。併せて義妹への連絡の確認をするがまだ連絡をしていないとの返答。

- ・1月下旬：訪問介護サービスでヘルパーが訪問。ご本人より体調不良の訴えがあるとのことで訪問看護の依頼を行い訪問。38度の熱発、呼吸状態良くなく喘鳴も見られたため救急車要請、かかりつけのR病院へ搬送され入院、肺炎との診断。

- ・2月初旬：血圧や意識レベルは問題ないがSPO2低下。医師より、「原因は不明、予後は不鮮明。現状態では人工呼吸器装着も検討する必要がある」と診断。翌日には肺炎が悪化しHCUへ移り、本日が山になる恐れがあると再度病院側より連絡が入る。亡くなられた場合、遺体の引き取り等はどのようにすればいいのかと病院側より相談あり。

- ・課題であった死後の対応は検討が進んでおらず、急遽NPO法人に相談、病院へ同行訪問しご本人と面談。意識は朦朧としている中であつたが、死後対応のすべてについて同意を得、キャッシュカードの暗証番号などを聞き取る。

- ・しかし、キャッシュカード番号不一致のため現金引き出せないまま、翌日ご本人が息を引き取った。支払い業務等が行えない為、NPO法人側が死後事務手続きを受けることは困難となる。唯一の連絡先であつた義妹との連絡もとれず、最終的に病院側が市役所に連絡。その後、2月半ば頃に義妹よりケアマネ宛に連絡が入る。市役所から連絡を受けお骨の引き取りを行った報告とお礼のお言葉を受ける。

《考察》

- ・担当変更してから1か月ほどでご本人が亡くなり、課題であつたことも今から本人と進めていくという段階であり、予測していたことがそのまま起きた事例であつた。身内がいらない、協力してもらえないといった方には成年後見制度等の必要性を早い段階から説明、進めていく必要があると改めて感じた。



堺市北第1地域 包括支援センター

堺市北第1地域包括支援センター

■サービス評価

総合相談アウトリーチの手法による相談対応の実施

- ・積極的に出前での介護相談事業「北区まちかどつながり相談室」を開催。
- ・イオン北花田店にて毎月1回開催。イオン薬局、社協、基幹型包括、かかりつけ法律専門家おれんじ、民生委員等と協働し、幅広い相談に対応。地域包括支援センターの周知啓発を行っている。「終活」についても啓発。堺市のエンディングノートの配布・開発も実施した。
- ・地域の高齢者の集いの場にも毎月10件程参加し、様々な啓発を行っている。年間121回参加。定期的に参加することで、相談目的でサロンに来る方も増えた。
- ・各校区のまつり等、地域の集合型大規模イベントにも参加し、地域の活動に協力するとともに、地域包括支援センターの存在を周知する活動を行うことができた。
- ・地域の民生委員や自治会役員、病院、薬局、郵便局など、様々な関係機関からの相談にも対応している。

権利擁護の推進（担当：社会福祉士）

- ・年間、26件の虐待事例に対応。
- ・虐待の早期発見、早期対応に繋げるため、北区のケアプランセンターへ働きかけを行った。今年度は虐待時の連携強化として、病院のソーシャルワーカー・訪問看護ステーションと交流会を開催した。早期の段階で相談してもらえるように効果が出ている。
- ・高齢者の集いの場に参加し、地域住民に対して特殊詐欺被害防止に向けた啓発を実施した。

介護予防の推進（担当：保健師）

- ・地域高齢者の集い場14か所に積極的に参加し、フレイル予防、健康教育等を実施した。
- ・北区の4つの地域包括と合同で「健活」を開催。商業施設において、血圧測定、フレイルチェックを実施した。今後も、月1回定期的に健康に関する啓発活動を行うことになった。

堺市北第1地域包括支援センター

■サービス評価

ケアマネジャーの後方支援（担当：主任ケアマネジャー）

- ・担当圏域のケアマネ勉強会・交流会を2回開催。
- ・担当圏域のケアマネジャーの資質向上を目的として、自立支援に向けたケアプラン勉強会を開催した。
- ・多職種事例検討会を北区全体で開催し、医療職との連携強化に努めた。

認知症サポーター養成講座の開催

- ・認知症の方を温かく支える地域づくりとして、認知症サポーター養成講座の開催に取り組んだ。老人福祉センターのほか、銀行でも開催した。また、小学生の内から認知症高齢者への関り方を学んでもらう取り組み「キッズサポーター養成講座」を3つの小学校で開催。次年度、最後の1校についても開催できるよう働きかけを行う予定。今年度開催で来た小学校については継続開催が決まっている。

「北区地域交流セミナー」を開催

- ・毎年、2つの区において、堺市の事業として開催。今年は北区の当番にあたり「健康講座」と「各種相談会」を実施。地域包括ブースとして、健康チェック、介護保険相談、エンディングノートの配布を行った。

生活困窮者レスキュー事業の普及促進

- ・圏域のケアマネ交流会、北区あんしんネットワーク会議において、生活困窮者レスキュー事業の普及啓発を行った。



まちかど
つながり相談室



まちかど
つながり相談室



五箇荘東校区の祭り



キッズサポーター
養成講座





■数値 (定員12名)

- ・年間目標 平均8.8名 (内従業員枠2名)
- ・月平均園児数 実績10.5名 従業員枠2名

■実績評価

- ・週7日開所する事はできなかったが、利用園児数は目標以上の実績を達成、4～8月は園児数8～9名だったが、9月には定員の12名が利用する。
- ・途中、認可型保育園への転園が1名あり利用中止となったが、その兄弟が1名利用したため定員12名を継続できた。実績を安定的に確保できた



🎄 クリスマス会の様子 🎁



🌰 おいもほりの様子 🍷



🧢 水遊びの様子 🧢



■サービス評価

大仙もずの音利用者との交流

- ・コロナも収束し、大仙もずの音利用者との交流をもてるようになり、ハロウィンや、芋掘り、クリスマスツリーの飾り付け行事、フロアへの散歩、テラスの園庭遊びの時間などで交流がもてた。

保護者保育参観を開催

- ・今年度は園が誇る給食を試食してもらい、子ども達の普段の給食の様子を見てもらった。1、2歳児は保護者の方とこどもが一緒に参加してもらえようクリスマス会を主催する。普段、送迎時間が違うためになかなか保護者同士の交流もなかったので交流できたことが保護者支援に繋がった。
- ・2歳児の卒園式を企画し、保護者の方にも保育園最後の姿を見ていただく事が出来、良い思い出作りが行えた。

保育環境の見直し

- ・子ども達の主体的な活動を促すため、コーナー遊びを取り入れ、成長段階に合わせた玩具の用意、手作りの玩具の取り入れを行った。
- ・午睡環境も成長に合わせたコットを取り入れ安心、安全に入眠できるように取り入れた。

豊富な食材・独自の献立による栄養バランスの取れた食事の提供

- ・子どもたちの食への意欲を促す声掛けや、しっかり戸外に出て活動することにより、子どもたちの食べたい欲求を満たせるように給食内容を管理栄養士、調理師、保育士で連携をとり考え、しっかり提供された量を食べきれるように取り組んだ。

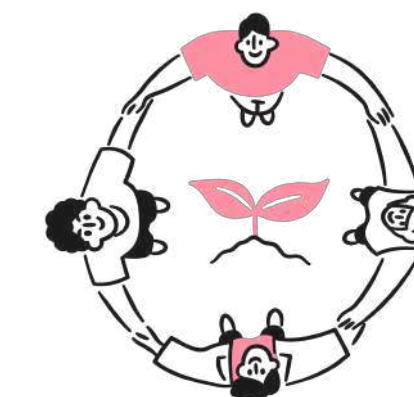
園長交代

- ・定年退職による年度途中での園長交代と職員の退職も重なったが円滑な新体制の移行を図りつつ保護者との信頼関係の構築に努めた。



03 Social Relation

ソーシャルリレーション事業



MISSION

ミッション

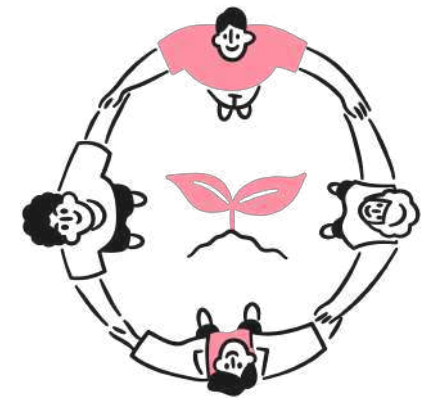
これまで培ってきた専門性と地域との関係性を土台とし、
制度の狭間にある課題に向き合い
地域におけるソーシャルワークの中核的な担い手として
地域共生社会の実現に向けた包括的な支援体制の一翼を担う

総合生活相談

- ・大阪しあわせネットワーク基金申請総額 478,975円
- ・子育て支援団体・保健所・SSW等児童関係の相談・支援が増加
※産後ヘルパー・こども食堂・ヤングケアラー研修等で子育て支援
団体との連携強化された為
- ・尽心庵入居者は5名入居（※相談は19件、全て他市）
- ・昨年度に続き、寄付物品（冷蔵庫・洗濯機・電子レンジ・衣類
等）が沢山集まった。



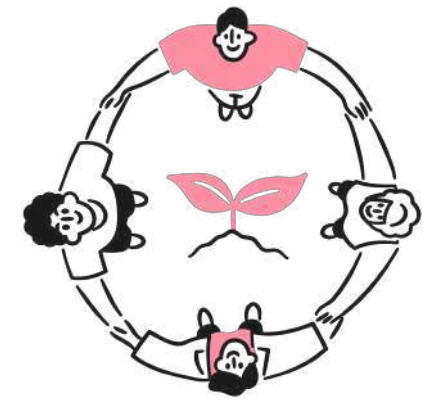
総合生活相談一覧①



NO	初回相談日	紹介経路	年齢	性別	世帯数	相談内容	対応	連携した関係機関	経済的援助 申請金額
1	4月3日	愛らいい	40代	女性	母子	引っ越し費用の工面	相談のみで終了	愛らいい	-
2	4月11日	本人	不祥	女性	独居	今月末に友人宅から出ないといけない	尽心庵入居希望なら面談⇒連絡なし	-	-
3	4月27日	娘	不祥	女性	独居	父のローン、家売却	尽心庵入居希望なら面談⇒連絡なし	-	-
4	5月4日	本人	20代	男性	独居	名古屋の自立支援施設から	尽心庵入居希望なら面談	名古屋市千種区CW	-
5	5月20日	堺市保健医療課	60代	男性	夫婦	ブレーカーの設備劣化	担当CMと相談、修理を依頼	担当CM、堺市保健医療課	-
6	7月12日	大阪府社協	60代	男性	独居	物品提供の依頼（冷蔵庫・トースター・レンジ）	チェーンソー充電中に全焼。7/20引っ越し、何も無い為家電を提供した	大阪府社会福祉協議会	-
7	7月17日	医療法人五月会	10代	男性	独居	今晚泊めて欲しいと依頼あり。ネットゲームを通じて知り合った大阪の知人宅へ来られたが、保護者対応できず。	児相と連携しながら尽心庵入所。母親とも話をした後、尽心庵での対応はできないと判断、実家へ戻る調整をした。	都城児童相談所 大阪府中央こども家庭センター 藤井寺市子育て支援課 羽曳野警察	20,748円
8	7月18日	社会貢献支援員	不祥	女性	母子 2歳、10歳	堺市北区DV、転居後の支援	炊飯器、鍋、こども服等物品提供	社会貢献支援員	-
9	7月31日	ケアマネ	80代	女性	独居	退院後生活費が不足している、またコインランドリー費用が高い	洗濯機提供、食材支援、施設検討	居宅介護支援事業所 藤井寺市包括支援センター 藤井寺市生活支援課	89,383円
10	8月9日	藤井寺市社会福祉協議会	60代	男性	独居	再困窮、生活保護申請の間まで支援	ライフライン支援、食材支援	藤井寺市役所 藤井寺市社会福祉協議会	1回目 37,000円 2回目 12,000円
11	8月31日	子育て支援リーフ	40代	女性	4人	下の子が病児、母親が復職を望んでおり、支援が必要	10月末から復職希望、各団体と訪問の日程調整中、10月4日面談予定 宅食弁当。月曜日藤特・火曜日、しあわせ循環食堂、配達 は子育て支援団体リーフが対応	藤井寺保健所 藤井寺子育て支援課 松原市NPOやんちゃま 藤井寺市子育て団体	-
※ 12	9月2日	サポート八尾	60代	男性	独居	パスポート切れ、国に帰る手続きはサポート八尾がするので、1泊泊めて欲しい	尽心庵、食事の提供	サポート八尾	5,000円
13	9月5日	堺市子育て支援課	30代	女性	3人 0歳・2歳	DV、シェルター保護⇒堺市〇区へ転居するので必要な備品等提供して欲しい	家電、調理器具等提供	堺市子育て支援課	-
14	9月10日	藤井寺市社会福祉協議会	60代	女性	夫婦	夫（70代）が入院中、退院後在宅生活を望んでおり環境的に引っ越しが必要だが費用がない	9/11藤井寺社会福祉協議会で面談 居住支援法人どうみょうじ高殿苑とも連携 後日面談後、ご自身で探すこととなる	藤井寺市市議会議員 藤井寺市社会福祉協議会 どうみょうじ高殿苑	-
15	9月13日	社会貢献支援員	不祥	女性		キレイなオーブントースターないか問い合わせあり	現在ストックなし		-

※尽心庵利用

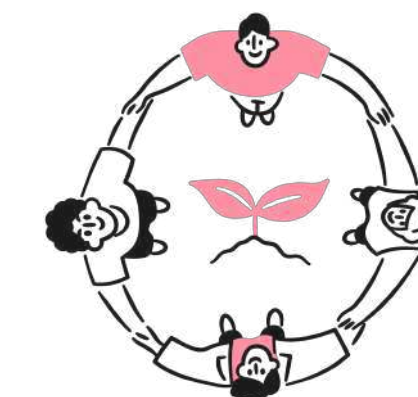
総合生活相談一覧②



NO	初回相談日	紹介経路	年齢	性別	世帯数	相談内容	対応	連携した関係機関	経済的援助 申請金額
16	9月13日	柏原市社会福祉協議会	30代	男性		両親との折り合いが悪く友人宅を転々としている。 鬱を患っており就労できないと判断されれば生活保護	利用無し	柏原市社会福祉協議会	-
17	9月24日	介護支援専門員				母が転居するので必要な家電が あれば使ってください	11月11日 家電等取りに行く	ケアプランセンターみささぎ	-
18	9月25日	藤井寺市生活支援課	50代	男性	独居	以前生活保護受給、3年半働いたが今月退職。家賃滞 納等あり支援希望	9/30面談、家賃・ライフライン・食料等支援	藤井寺市生活支援課 藤井寺市社会福祉協議会	96,000円
19	9月25日	柏原市社会福祉協議会	30代	男性	独居	派遣の仕事が終わり社宅から出ないといけなくなった が所持金なし。尽心庵利用希望	9/27AM～尽心庵利用予定⇒来られず、連絡つかず	柏原市社会福祉協議会	-
20	10月3日	泉南市包括支援センター	70代	女性	3人	息子からのDV	選択肢のひとつに尽心庵		-
※ 21	10月24日	ステップ堺	40代	男性	3人	本人が父親に虐待	10/26～尽心庵入居	ステップ堺	12,000円
※ 22	11月7日	柏原市社会福祉協議会	50代	男性	独居	家賃滞納・仕事は継続	11月13日～尽心庵入居	柏原市社会福祉協議会	100,000円
23	12月3日	藤井寺主任児童相談員	不祥	不明	夫婦	東藤井寺の火事・子育て支援	区長に確認、支援の必要性なし	民生委員児童委員 区長	-
24	12月3日	藤井寺保健所	30代	女性	4人	きょうだい児のいる家庭	相談のみで終了	藤井寺保健所 やんちゃまふぁみりー	-
25	12月9日	羽曳野市役所	不明	男性	4人	年末年始の居場所	生活支援課西田 身の安全	羽曳野市役所	-
26	12月11日	藤井寺市社会福祉協議会	50代	男性	独居	ライフライン滞納・食材	食材支援・ライフライン復旧	藤井寺市社会福祉協議会	43,844円
27	12月13日	藤井寺市役所	不明	男性	独居	100円、ガス止まる、社協アルファカカ米	相談のみで終了	藤井寺社協 藤井寺市生活支援課	-
28	12月19日	ご近所				ポット寄付	ポット受取	ご近所住人	-
29	12月22日	北第1包括				寄付物品受取	寄付物品受取	北第1包括支援センター	-
30	12月23日	藤井寺包括	不祥	不明	夫婦	騒音	助言のみ	藤井寺市包括支援センター	-

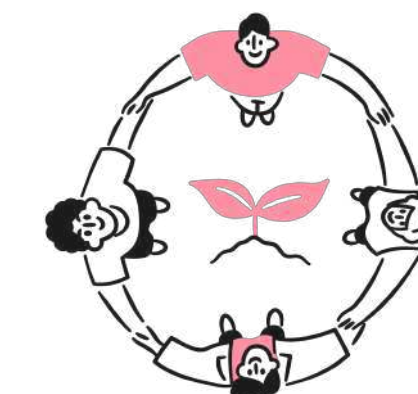
※尽心庵利用

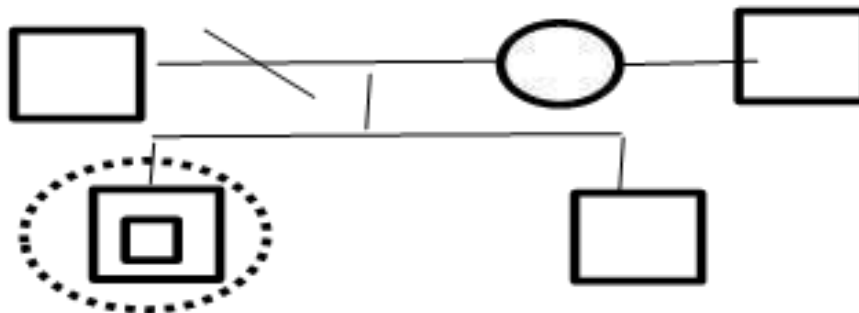
総合生活相談一覧③



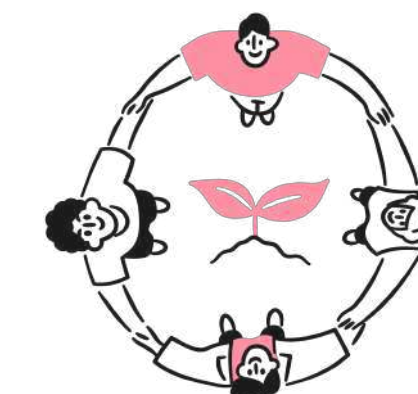
NO	初回相談日	紹介経路	年齢	性別	世帯数	相談内容	対応	連携した関係機関	経済的援助 申請金額
31	1月6日	大阪府居住企画課	不明	女性	友人宅	生保の友人宅に居候	尽心庵男性入居者がいる為断る	大阪府居住企画課	-
32	1月17日	柏原市社会福祉協議会	不明	不明	不祥	尽心庵の相談	緊急性がでた場合連絡入る予定	柏原市社会福祉協議会	-
33	1月22日	社会貢献支援員	不祥	不明	不祥	冷蔵庫を渡したい	準備のみ	社会貢献支援員	-
34	2月6日	ステップ堺	50代	男性	独居	尽心庵の相談	強制退去・尽心庵入居	ステップ堺	86,480円
35	2月12日	社会貢献支援員	30代	女性	3人	経済的困窮・就労サポート	SSW・母子 3月4日面談、就労サポート等	SSW	支援属中
36	2月12日	泉佐野市包括	50代	男性	単身	家電等	冷蔵庫・ガスコンロ・炊飯器・掃除機お渡し	泉佐野市包括	-
37	2月20日	大阪府社会福祉協議会	不祥	不祥	5人	強制退去・尽心庵相談	河内長野の為間接支援不可	大阪市社会福祉協議会	-
38	2月27日	社会貢献支援員	不祥	不祥	不祥	オープントースター	つどうホールにある事を伝える	社会貢献支援員	-
39	2月28日	松原市役所福祉総務課	男性	50代	2人	強制退去・尽心庵相談 精神疾患有（大声等）	受入れできないと判断	松原市社会福祉協議会	-
40	3月3日	聖徳会	男性	50代	2人	強制退去・上記	受入れできないと判断	聖徳会	-
41	3月4日	悲田院	男性	10代	知人宅	高卒後18歳友人宅転々	児童自立援助ホーム提案のみ	悲田院	-
42	3月5日	本人	不祥	男性	独居	仙台、ADHD、生活保護受給者、ごみ捨てできない	ケースワーカーに相談するよう伝えた。	-	-
43	3月9日	本人	60代	女性	親子	尽心庵の相談	香芝市からの相談、男性が入居中の為対応できない	香芝市役所	-
44	3月24日	藤井寺市社会福祉協議会	60代	男性	独居	火災で住まいが失われた方	所持金10万円以上、銀行にもお金あり、友人のサポートも受けている為支援なし	藤井寺市社会福祉協議会	-
45	3月24日	藤井寺市役所生活支援課	60代	男性	独居	生活保護申請、重度の糖尿病	内服薬と食材支援（健康サポート）	藤井寺市生活支援課 藤井寺市社会福祉協議会	18,359円

総合生活相談事例 NO.7 尽心庵



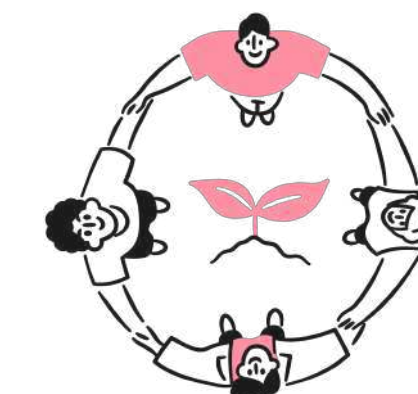
NO.1	宮崎県からSNSの知人を頼って一人で大阪に来た未成年の支援					地域	宮崎県
主な対象者	性別	世帯の特徴	☐ 高齢	☒ 児童	☐ 母子・寡婦	☐ 身体障がい	☐ 知的障がい
	男性		☐ 精神障がい	☐ 外国籍	☐ ホームレス		
	年代		☒ 虐待	☐ DV	☐ 引きこもり	☐ 病気	☐ アルコール依存
	10代		☐ 認知症	☐ 介護認定			
	世帯		☐ 多重債務	☐ 各種滞納	☒ 無収入	☒ 不就労	☐ 生活保護
	独居		☐ その他（）				
紹介経路	東大阪市にある医療法人						
相談内容	令和6年7月、東大阪の医療法人から19時連絡あり、「一晩だけ未成年の子の行き場所がないので泊めて欲しい。明日、そちらに上司と伺います。」と言われ、依頼先が医療法人だった為、受け入れる。ただ、翌日対応が変わり、「私たちは未成年の事は分からない。後はお願いします。」と言ってその後連絡なし。確認した結果、医療法人の子がゲームを通じて対象者と繋がり、数日間病院で保護していたが、対応できなかった為尽心庵に連絡してきた。					家族関連図 	
対応相談・支援内容	○尽心庵利用・食事提供 ・宮崎県の児童相談所、大阪府中央こども家庭センターに連絡。今後の方針等決まり、周りにサポートできる機関があれば尽心庵の利用継続を考えたが困難であった。また、親権者の母ともコンタクトをとったが、引き取る等は考えておらず「住み込みできる仕事は見つかれば・・・」と関わりを拒否。 ・大阪府中央こども家庭センターには、本人を連れて面談したが、大阪府中央こども家庭センターができる事は、本人が宮崎県に帰る意向を示した場合のみ、公費で連れて行く事ができる。それ以外は何もできない。今後は、みささぎ会と母、本人で話をして下さいと言われた為、このまま尽心庵にいても本人の為にはならないと判断。 ・主が宮崎県の児相である為、連携がとれない。自立支援や子育て支援課、警察に相談した結果、一時保護が望ましいと判断する。本人に説明後大阪府中央子ども家庭センターの職員が迎えに来て一時保護施設入所となった。						
社会資源の活用	生活困窮者レスキュー事業、無料低額宿泊所「尽心庵」						
経済的援助	20,748円						
連携機関	みささぎ会CSW 宮崎県の児童相談所・大阪府中央こども家庭センター・藤井寺市自立支援窓口・藤井寺市子育て支援課 羽曳野警察						
主支援施設	みささぎ会				主担当CSW	瀧本 直志	

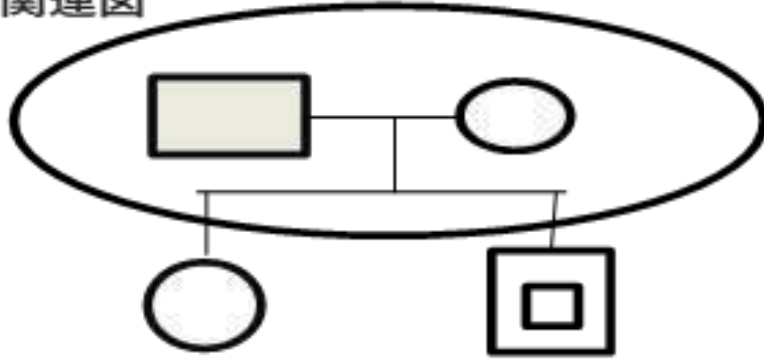
総合生活相談事例 NO.12 尽心庵



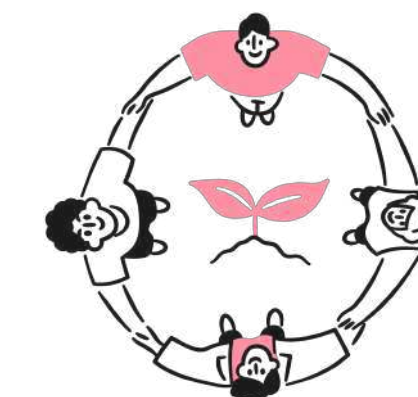
	就労ビザが切れているフィリピン国籍の男性受入れ						地域	北九州
主な対象者	性別	世帯の特徴	☐ 高齢	☐ 児童	☐ 母子・寡婦	☐ 身体障がい	☐ 知的障がい	
	男性		☐ 精神障がい	☒ 外国籍	☐ ホームレス			
	年代		☐ 虐待	☐ DV	☐ 引きこもり	☐ 病気	☐ アルコール依存	
	60代		☐ 認知症	☐ 介護認定				
	世帯		☐ 多重債務	☐ 各種滞納	☐ 無収入	☐ 不就労	☐ 生活保護	
	独居		☐ その他（）					
紹介経路	サポート八尾							
相談内容	北九州の団体からサポート八尾に就労ビザが切れた男性のサポート（領事館での手続き）の依頼が入り、その間無料低額宿泊所心尽庵の利用を希望される。					家族関連図 		
対応相談・支援内容	○尽心庵利用（1泊）・食事提供（夕食・朝食） ・サポート八尾担当者より、領事館での手続きは難航したが親切な方が協力してくれ何とか無事に関西国際空港まで送ることができたと報告あり。							
社会資源の活用	大阪しあわせネットワーク、無料低額宿泊所「尽心庵」							
経済的援助	5,000円							
連携機関	サポート八尾　CSW・北九州NPO							
主支援施設	みささぎ会				主担当CSW	湊本　直志		

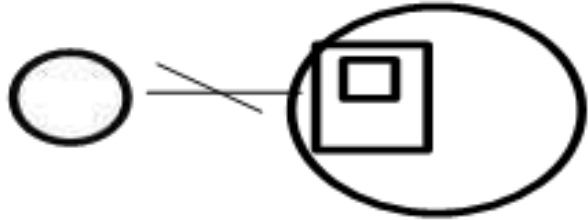
総合生活相談事例 NO.21 尽心庵



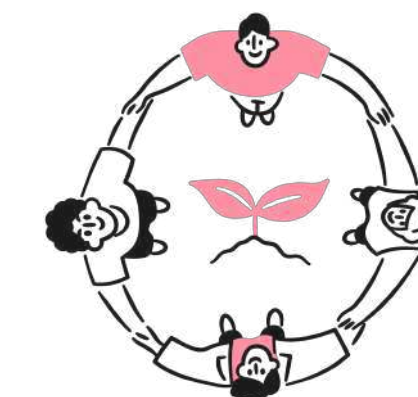
	父親と口論になり警察より離れるよう言われ住まいがない男性の支援						地域	堺市
主な対象者	性別	世帯の特徴	☐ 高齢	☐ 児童	☐ 母子・寡婦	☐ 身体障がい	☐ 知的障がい	
	男性		☐ 精神障がい	☐ 外国籍	☐ ホームレス			
	年代		☒ 虐待	☐ DV	☐ 引きこもり	☐ 病気	☐ アルコール依存	
	40代		☐ 認知症	☐ 介護認定				
	世帯		☐ 多重債務	☐ 各種滞納	☒ 無収入	☐ 不就労	☐ 生活保護	
	同居		☐ その他（）					
紹介経路	堺社協福祉協議会「ステップ堺」より、TELあり。尽心庵の入居相談有り。							
相談内容	5年前に父母と同居後、父との折り合いが悪く、その度にお互いが警察通報する等繰り返されていた。10月15日本人が家で、〇〇区役所の相談来所、10月16日ステップ・堺に繋がる。10月22日居住支援法人の紹介で堺区の物件申込を行い入居予定。入居後生活保護申請。10月24日堺市社会福祉協議会「ステップ堺」より電話で入居相談される。						家族関連図 	
対応相談・支援内容	10月26日（土）尽心庵で面談後（本人、堺社協福祉協議会「ステップ堺」）尽心庵に入居される。転居先に必要な物品のリストを依頼する。食事は毎回施設まで取りに来てもらう事にした。 10月28日（月）本人の希望は家に帰りたい。家族なので仲の良い時も悪い時もある。父親から家にお金を入れる様に言われバイトの半分を取られたので仕事をする気力がなくなったと長話しされる。接近禁止命令等詳しくはわからないが、堺でいろんな方が生活保護の申請や引っ越し後の物品支援などで動いてくれているので、今後も近くで相談に乗ってくれる方の意見は尊重した方が良くいと助言する。10月31日（木）無事堺市の物件が決まり退去となる。 今後はステップ堺や〇〇〇の職員が継続的にサポートする。退所時、「精神的に安定した」と話される。							
社会資源の活用	大阪しあわせネットワーク事業・無料低額宿泊所「尽心庵」							
経済的援助	12,000円（家賃・食費）、所持金は転居費用で必要な為							
連携機関	ステップ堺							
主支援施設	みささぎ会				主担当CSW	淵本 直志		

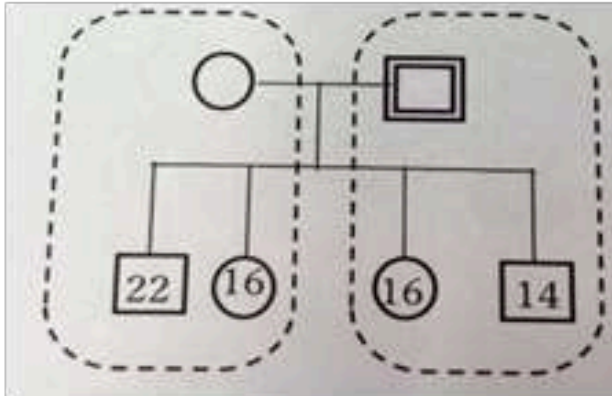
総合生活相談事例 NO.22 尽心庵



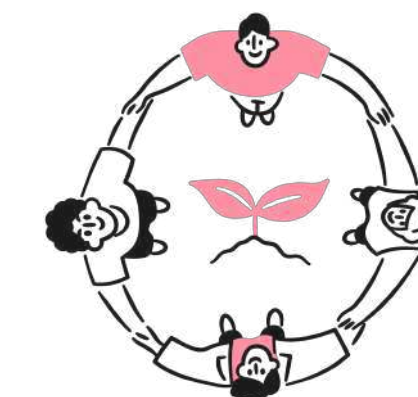
NO.4	借金の返済で家賃を滞納した為アパートを強制退去となった方の支援						地域	柏原市
主な対象者	性別	世帯の特徴	☐ 高齢	☐ 児童	☐ 母子・寡婦	☐ 身体障がい	☐ 知的障がい	
	男性		☐ 精神障がい	☐ 外国籍	☒ ホームレス			
	年代		☐ 虐待	☐ DV	☐ 引きこもり	☐ 病気	☐ アルコール依存	
	50代		☐ 認知症	☐ 介護認定				
	世帯		☐ 多重債務	☒ 各種滞納	☐ 無収入	☐ 不就労	☐ 生活保護	
	独居		☐ その他（）					
紹介経路	柏原市社会福祉協議会							
相談内容	・ 借金返済の為家賃を滞納していたが、強制退去となる予定。仕事は続けたいので、近くで住める尽心庵を利用したい。						家族関連図 	
対応 相談・支援 内容	11月13日～無料低額宿泊所利用、現在も支援継続中							
社会資源の 活用	大阪しあわせネットワーク事業・無料低額宿泊所「尽心庵」							
経済的援助	支援継続中							
連携機関	柏原市社会福祉協議会							
主支援施設	みささぎ会				主担当CSW	湊本 直志		

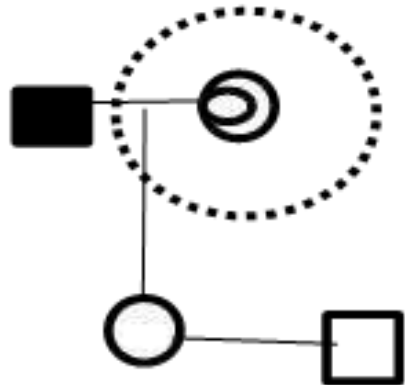
総合生活相談事例 NO.34 尽心庵



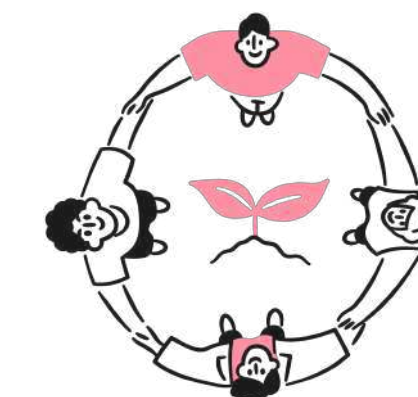
	借金の返済で家賃を滞納した為アパートを強制退去となった方の支援						地域	堺市
主な対象者	性別	世帯の特徴	☐ 高齢	☐ 児童	☐ 母子・寡婦	☐ 身体障がい	☐ 知的障がい	
	男性		☐ 精神障がい	☐ 外国籍	☒ ホームレス			
	年代		☐ 虐待	☐ DV	☐ 引きこもり	☐ 病気	☐ アルコール依存	
	50代		☐ 認知症	☐ 介護認定				
	世帯		☐ 多重債務	☒ 各種滞納	☐ 無収入	☐ 不就労	☐ 生活保護	
	独居		☐ その他（）					
紹介経路	ステップ堺							
相談内容	・ 借金返済の為家賃を滞納していたが、強制退去となる予定。尽心庵に入居しながら、就労したい。					家族関連図		
対応 相談・支援 内容	2月8日～無料低額宿泊所利用、現在支援継続中							
社会資源の 活用	大阪しあわせネットワーク事業・無料低額宿泊所「尽心庵」							
経済的援助	86,480円							
連携機関	ステップ堺							
主支援施設	みささぎ会				主担当CSW	淵本 直志		

総合生活相談事例 NO.9



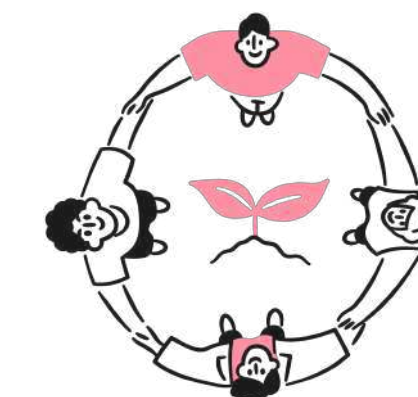
	入院や糖尿病の治療等で出費が多くなり、生活困窮した独居高齢者の支援					地域	藤井寺市
主な対象者	性別	世帯の特 徴	☒ 高齢	☐ 児童	☐ 母子・寡婦	☐ 身体障がい	☐ 知的障がい
	女性		☐ 精神障がい	☐ 外国籍	☐ ホームレス		
	年代		☐ 虐待	☐ DV	☐ 引きこもり	☐ 病気	☐ アルコール依存
	80代		☐ 認知症	☒ 介護認定			
	世帯		☐ 多重債務	☐ 各種滞納	☐ 無収入	☐ 不就労	☐ 生活保護
	独居		☐ その他（ ）				
紹介経路	居宅介護支援専門員						
相談内容	担当のCMから相談あり、生活支援課や社会福祉協議会、包括支援センターに相談したが対応策がなく、社会福祉協議会で食材を5日分だけ貰った。年金が約11万円/月で支出も同じ位である。現在、所持金が2,000円程で8月15日まで生活ができない。娘との関係も悪く、カードローンの返済も娘がしているのでこれ以上の支援は望めない。						
対応 相談・支援 内容	年金が入り生活が安定するまでは食材、日用品の支援。※ガスが使えない為、配食サービスを利用した。（糖尿病）洗濯機の部品が破損していたが、古い為ホームセンターでは部品がなく、大仙もずの音にあった洗濯機を届けた。当初、8月15日までの支援予定であったが知人から借りていたお金の返済などもあり10月14日まで宅食支援を延長した。						
社会資源の 活用	大阪しあわせネットワーク						
経済的援助	家電、生活必需品の支援、食事の支援						
連携機関	担当CM、社会貢献支援員、藤井寺市社会福祉協議会、藤井寺市地域包括支援センター						
主支援施設	みささぎ会				主担当CSW	淵本 直志	

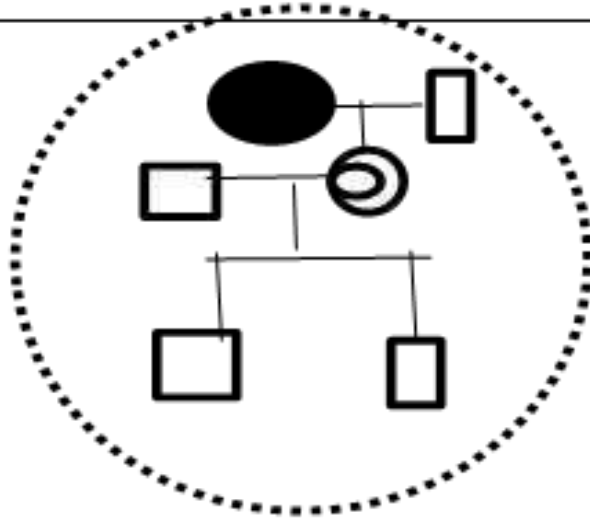
総合生活相談事例 NO.10



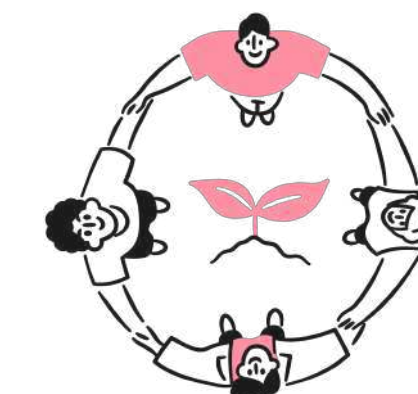
	目の状態が悪化し失業、生活困窮した独居男性の支援						地域	藤井寺市
主な対象者	性別	世帯の特 徴	☒ 高齢	☐ 児童	☐ 母子・寡婦	☒ 身体障がい	☐ 知的障がい	
	男性		☐ 精神障がい	☐ 外国籍	☐ ホームレス			
	年代		☐ 虐待	☐ DV	☐ 引きこもり	☐ 病気	☐ アルコール依存	
	60代		☐ 認知症	☐ 介護認定				
	世帯		☒ 多重債務	☒ 各種滞納	☐ 無収入	☐ 不就労	☒ 生活保護	
	独居		☐ その他（ ）					
紹介経路	藤井寺市社会福祉協議会							
相談内容	R6.1月に目の状態が悪化し失業。ライフラインの支払いが滞り所持金も底をつく。生活保護申請しようとするも自宅を所有している事で申請自体が難しい。生活保護課から社会福祉協議会を紹介されたが、社会福祉協議会でのサポートに限界あり。							
対応 相談・支援 内容	R6.3.26 社会福祉協議会のCSWと自宅面接。これまでの経緯や自宅の状況、債務や支払いが滞っている内容を把握。定期的に受診し服用している薬が無くなるので、医療機関と一緒に受診する。 1回目・支払いが滞っているなかで緊急性が高いものに関しては経済支援を行う。食材支援等・家計相談、助言 2回目・家計相談、助言・今後の生活再建に向けてのカンファレンス（藤井寺市役所） ・生活保護受給開始までの間、滞納していたライフラインの支払いを支援							
社会資源の活用								
社会資源 の活用	大阪しあわせネットワーク（1回目37,000円・2回目12,000円）							
経済的援助	食材支援・ライフライン支援							
連携機関	藤井寺市社会福祉協議会、藤井寺市生活支援課							
主支援施設	みささぎ会				主担当CSW	山下 幸宏		

総合生活相談事例 NO.11



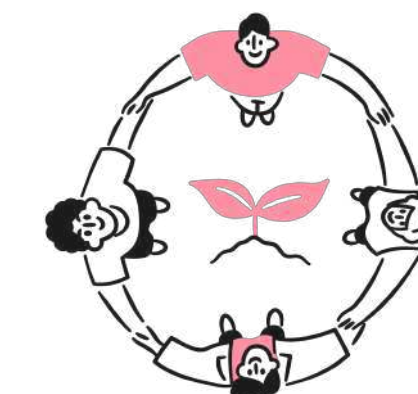
	病児のいる家庭の支援					地域	藤井寺市	
主な対象者	性別	世帯の特 徴	☐ 高齢	☒ 児童	☐ 母子・寡婦	☒ 身体障がい	☐ 知的障がい	
	女性		☐ 精神障がい	☐ 外国籍	☐ ホームレス			
	年代		☐ 虐待	☐ DV	☐ 引きこもり	☒ 病気	☐ アルコール依存	
	30代		☐ 認知症	☐ 介護認定				
	世帯		☐ 多重債務	☐ 各種滞納	☐ 無収入	☐ 不就労	☐ 生活保護	
	4 人		☐ その他（	）				
紹介経路	子育て支援団体リーフ							
相談内容	1 歳の病児がいる家庭で、夫は鬱を患っている。母親が復職を考えているので、サポート体制を構築したい。							
対応相談・支援内容	藤井寺保健所の保健師と面談。10月末～母親が仕事復帰する為、月・火の宅食（夕方）希望。 市内の子育て団体と連携して、毎週月・火にお弁当を届けている。 長男が参加できるようなイベントを案内。							
社会資源の活用	宅食							
経済的援助	母親の負担軽減							
連携機関	藤井寺保健所、子育て支援団体・NPOやんちゃまファミリー・藤井寺市子育て支援課							
主支援施設	みささぎ会				主担当CSW	淵本 直志		

総合生活相談事例 NO.14



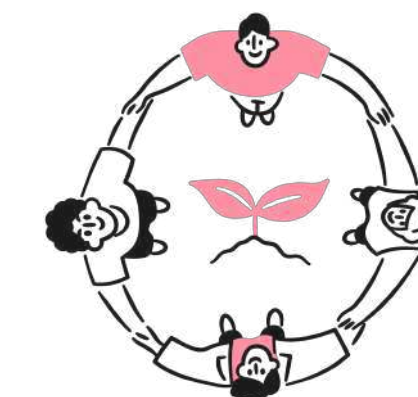
NO4	夫との同居を希望されている女性の支援						地域	藤井寺市
主な対象者	性別	世帯の特 徴	☒ 高齢	☐ 児童	☐ 母子・寡婦	☐ 身体障がい	☐ 知的障がい	
	女性		☐ 精神障がい	☐ 外国籍	☐ ホームレス			
	年代		☐ 虐待	☐ DV	☐ 引きこもり	☐ 病気	☐ アルコール依存	
	60代		☐ 認知症	☒ 介護認定				
	世帯		☐ 多重債務	☐ 各種滞納	☐ 無収入	☐ 不就労	☐ 生活保護	
	2人		☐ その他（ ）					
紹介経路	藤井寺市社会福祉協議会							
相談内容	現在、夫入院中。階段のないマンション3階に住んでいる。夫が、退院した時に階段昇降はできないので物件探しなどサポートして欲しい。							
対応相談・支援内容	・ 藤井寺市社会福祉協議会で市議会議員を交えて現状確認。 ・ 9月下旬に他の居住支援法人の職員と一緒に自宅訪問。 ・ 夫が要介護5、今後病院から老人保健施設に移る予定あり。また、年金額は多いが預貯金がない為12月15日の年金支給日に合わせて10月中頃から物件探しを行う予定。⇒自身で探すと支援拒否							
社会資源の活用	居住支援法人							
経済的援助	なし							
連携機関	藤井寺市市議会議員、藤井寺市社会福祉協議会、どうみょうじ高殿苑、夫担当CM、城山病院							
主支援施設	みささぎ会				主担当CSW	淵本 直志		

総合生活相談事例 NO.18



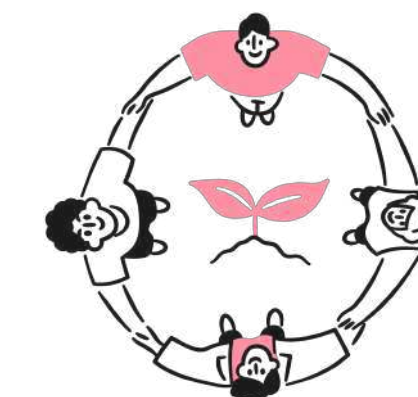
NO5	派遣切りとなり生活が困窮している50代男性の支援						地域	藤井寺市
主な対象者	性別	世帯の特 徴	☐ 高齢	☐ 児童	☐ 母子・寡婦	☐ 身体障がい	☐ 知的障がい	
	男性		☐ 精神障がい	☐ 外国籍	☐ ホームレス			
	年代		☐ 虐待	☐ DV	☐ 引きこもり	☐ 病気	☐ アルコール依存	
	50代		☐ 認知症	☐ 介護認定				
	世帯		☐ 多重債務	☒ 各種滞納	☐ 無収入	☒ 不就労	☐ 生活保護	
	独居		☐ その他（ ）					
紹介経路	藤井寺市生活支援課							
相談内容	以前生活保護受給されていたが、その後令和6年9月まで3年半派遣の仕事をしていた。臀部の腫瘍切除し治療の為仕事を休んでいたら契約更新されず。現在、家賃等滞納あり、支援を希望。母親は北海道在住で支援は望めない。							
対応相談・支援内容	・ 藤井寺市生活支援課で面談。家賃・ライフライン滞納分の支援を行う。日用品も不足している物を購入する。 ・ 10月に退職金と9月の給料が入るので生活再建は可能。現在ハローワークにも通われている。 ・ 藤井寺市社会福祉協議会で食材支援を行う。							
社会資源の活用	大阪しあわせネットワーク（96,000円）							
経済的援助	家賃2ヶ月分、電気、ガス滞納分。トイレットペーパーなどの日用品							
連携機関	藤井寺市生活支援課、藤井寺市社会福祉協議会							
主支援施設	みささぎ会				主担当CSW	淵本 直志		

総合生活相談事例 NO.26



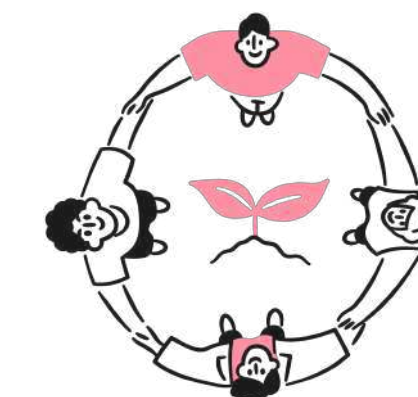
	3年半就労したが再困窮した元生活保護受給者の支援						地域	藤井寺市
主な対象者	性別	世帯の特 徴	☐ 高齢	☐ 児童	☐ 母子・寡婦	☐ 身体障がい	☐ 知的障がい	
	男性		☐ 精神障がい	☐ 外国籍	☐ ホームレス			
	年代		☐ 虐待	☐ DV	☐ 引きこもり	☐ 病気	☐ アルコール依存	
	50代		☐ 認知症	☐ 介護認定				
	世帯		☐ 多重債務	☒ 各種滞納	☐ 無収入	☐ 不就労	☐ 生活保護	
	独居		☐ その他（ ）					
紹介経路	藤井寺市社会福祉協議会							
相談内容	松原市に住んでいた。離婚後両親と同居するが亡くなる。以前は電気工事の仕事をしていたが、仕事が見つからず貯金を切り崩して生活を送る。電気が止まった為、本日藤井寺市社会福祉協議会に来所。							
対応相談・支援内容	9/30面談、家賃・ライフライン・食料等支援実施。9月分の給料と退職金が入った後に生活保護申請予定。 ※母親は北海道在住、息子への支援は困難。 ・ハローワークに行かれている事は確認するが、その後は連絡繋がらず支援終了とする。							
社会資源の活用	大阪しあわせネットワーク（43,844円）							
経済的援助	食材費、水光熱費、電話代等							
連携機関	藤井寺市生活支援課							
主支援施設	みささぎ会				主担当CSW	淵本 直志		

総合生活相談事例 NO.29



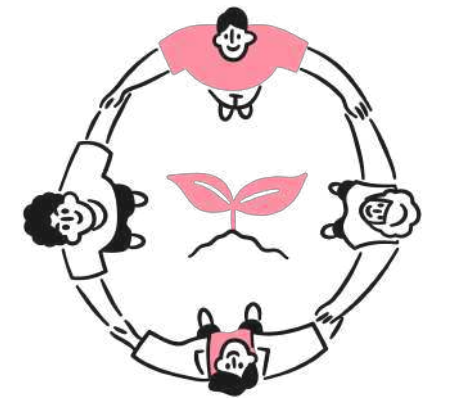
	乳幼児を抱えたDV被害女性の生活再建支援						地域	堺市
主な対象者	性別	世帯の特 徴	☐ 高齢	☐ 児童	☐ 母子・寡婦	☐ 身体障がい	☐ 知的障がい	
	女性		☐ 精神障がい	☐ 外国籍	☐ ホームレス			
	年代		☐ 虐待	☐ DV	☐ 引きこもり	☐ 病気	☐ アルコール依存	
	30代		☐ 認知症	☐ 介護認定				
	世帯		☐ 多重債務	☒ 各種滞納	☐ 無収入	☐ 不就労	☐ 生活保護	
	独居		☐ その他（					

総合生活相談事例 NO.35



NO8	シングルマザーの支援						地域	藤井寺市
主な対象者	性別	世帯の特 徴	☐ 高齢	☐ 児童	☐ 母子・寡婦	☐ 身体障がい	☐ 知的障がい	
	女性		☐ 精神障がい	☐ 外国籍	☐ ホームレス			
	年代		☐ 虐待	☐ DV	☐ 引きこもり	☐ 病気	☐ アルコール依存	
	30代		☐ 認知症	☐ 介護認定				
	世帯		☐ 多重債務	☐ 各種滞納	☐ 無収入	☐ 不就労	☐ 生活保護	
	3人		☐ その他（ ）					
紹介経路	SSW（スクールソーシャルワーカー）							
相談内容	社会貢献支援員を通じて、SSWの相談に乗って欲しいと依頼あり							
対応 相談・支援 内容	自宅訪問、就労サポート等現在支援中							
社会資源の 活用								
経済的援助								
連携機関	社会貢献支援員・SSW							
主支援施設	みささぎ会				主担当CSW	淵本 直志		

ソーシャルリレーション事業



■地域のニーズに応じた幅広い活動展開

- ・ 藤井寺市のこども食堂団体とも『デラチャレ』で連携、ふじいでら市民祭りに協働出店（バザー、試食会等）
- ・ 子育て連絡会を中心に、子育て応援冊子作成中
- ・ 買い物困難者支援：NPOスミカ、大阪いずみ市民生活協同組合、地区役員と協働でコープ買い物便開始（現在、毎週火曜日、10地区）
- ・ 出張福祉教育継続：藤井寺西小学校3・4年生対象
- ・ 地区清掃活動年2回実施
- ・ こども食堂坂の上のキッチン毎月実施。新に三井住友銀行・大阪教育大学等とコラボ開催
- ・ すき家とのコラボでは、新たにお仕事体験や朝ごはんの重要性に関するクイズ等実施
- ・ 8月に坂の上の小さなマルシェ開催、参加者200名程。就労支援b型の事業所・子育て団体、ダスキン、飯室珈琲焙煎所等と協働

- ・ 病児のいる家庭1世帯に配食開始。
（子育て支援団体リーフ・しあわせ循環食堂・やんちゃまファミリーと連携）
- ・ 藤井寺市母子寡婦福祉会食材受渡しへの協力（年6回開催、商品運搬・会場設営等）
- ・ いけネット！防災チームでは、防災テント、簡易トイレ等の組み立てを危機管理室の職員を交えて実施
- ・ 藤井寺市共同募金への参加
- ・ 民生委員と入所者交流会年5回、総会でのこども食堂について発表等に関わりが増えた
- ・ 西浦支援学校企業実習サポート（1名）
- ・ 脳トレ配布：毎月11地区+デイ利用者に配布（毎月約700部）
- ・ 介護予防教室12地区で開催（1地区年2回程）
- ・ 大阪大学との連携：生成AI回想法アプリへの協力（15名参加）

外部活動 講師派遣・発表



外部活動 講師派遣・発表

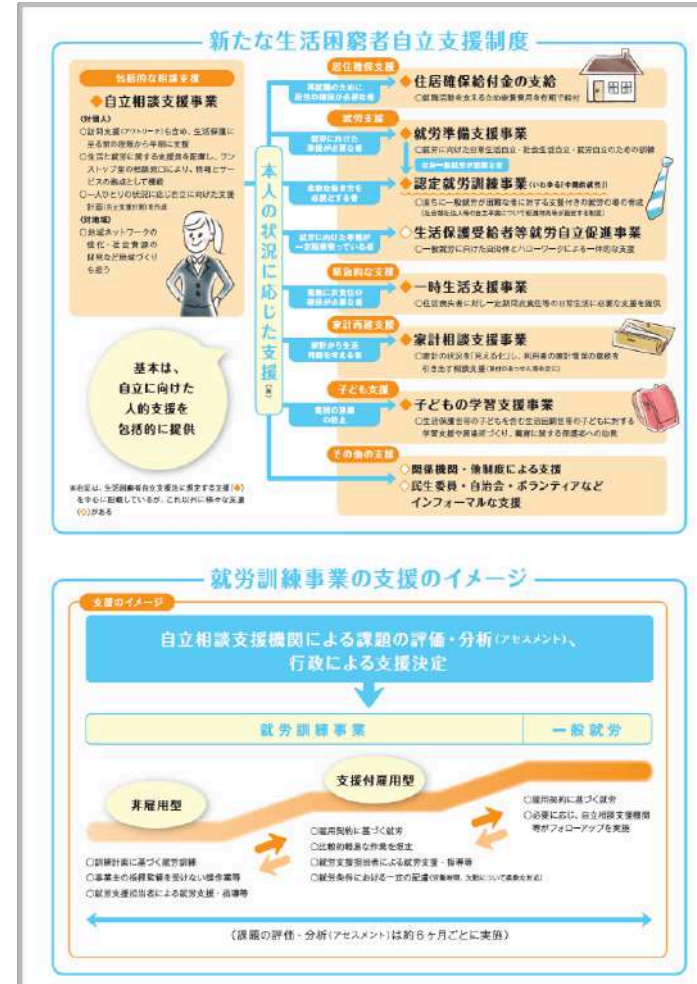
- ・大阪府富田林子ども家庭センター（大阪しあわせネットワークについて）
- ・令和6度大阪府生活困窮者自立支援制度人材養成研修（中間的就労について）
- ・令和6年度「高齢者福祉実践・研究大会」で『こども食堂から広がる支援の輪』を発表
- ・令和6年6月 藤井寺市民生委員総会『坂の上のキッチンについて』



民生委員交流会

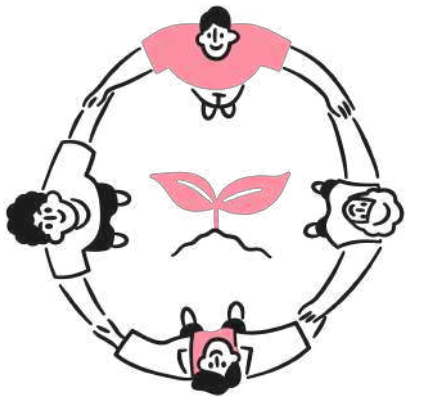


大阪府社会福祉大会



※大阪府生活困窮者自立支援制度の概要参照

居住支援法人登録



居住支援法人とは

- ・居住支援法人とは、住宅セーフティネット法に基づき、居住支援を行う法人として、都道府県が指定するもの
- ・都道府県は、住宅確保要配慮者の居住支援に係る新たな担い手として指定することが可能

※住宅確保要配慮者に対する賃貸住宅の供給促進に関する法律第40条に規定する法人

厚生労働省HP：居住支援法人制度の概要参考

居住支援法人に指定される法人

- ・社会福祉法人
- ・NPO法人、一般社団法人、一般財団法人
(公益社団法人・財団法人を含む)
- ・居住支援を目的とする会社等

居住支援法人の行う業務

- ・登録住宅の入居者への家賃債務保証
- ・住宅相談など賃貸住宅への円滑な入居に係る情報提供・相談
- ・見守りなど要配慮者への生活支援
- ・①～③に附帯する業務

※必ずしも1～4の全ての業務を行わなければならないものではない

居住支援のチラシ

**住まい探しの
お手伝いをします**

「身寄りがいない」「保証人がいない」など
住まいにお困りではありませんか？
社会福祉士、介護支援専門員などの専門職員が
住まい探しのお手伝いをします

私達のできる事

- ✓ 不動産店への同行
- ✓ 生活保護の同行
- ✓ 生活相談
- ✓ 定期的な見守り
- ✓ 必要なサービスの提供

対象の方の例

- ・高齢者
- ・障がいをお持ちの方
- ・生活保護受給の方
- ・外国人
- ・シングルマザーの方

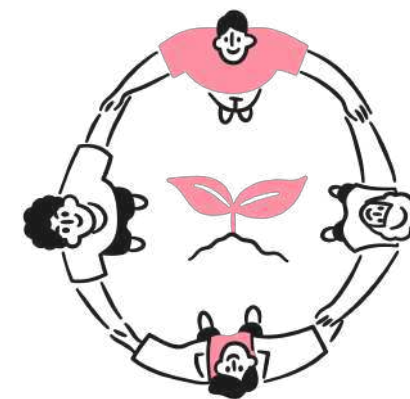
概要・連絡先

社会福祉法人みささぎ会 住所：藤井寺市藤井寺4-11-7
ソーシャルリレーション推進室 TEL：072-952-0008
担当：花井・瀬本 受付：平日9時～17時

制度スキーム



大阪DWAT（災害派遣福祉チーム）派遣による受賞



能登半島地震災害支援 大阪DWAT（災害派遣福祉チーム）派遣感謝状

派遣者：湊本直志（ソーシャルリレーション推進室長）

派遣期間：2024.3.10～3.14 5日間

派遣先：いしかわ総合スポーツセンター（1.5次避難所/金沢市内）

現地の様子と気付き

- ・発災から2ヶ月が経過しており、1.5次避難所の役割が次の行き先の調整から長期滞在拠点へと変化を遂げている最中であった。そのため生活面での困りごとの把握だけでなくセンター内での介護の必要性が高まっていた。
- ・被災者の情報管理を紙媒体で行っていたが、他府県からのリレー応援で切れ目のない支援を行うDWATの場合、紙媒体ではチームメンバーが一度に情報共有を行うことが難しいため、全国共通の被災用アセスメントシートなどに関する情報一元化ICTシステムの必要性を感じた。
- ・また奥能登はもともと高齢化が進んでいることやインフラ整備が不十分なエリアであることから復興までに長期間を要することは想像に難くない。今後、生活を取り戻していくためのソーシャルワーク活動が必要不可欠となるため、大阪からできる支援を検討していく。



地域関係機関との連携



藤井寺市社会福祉施設連絡会での活動（地域貢献委員会）

・藤井寺市社会福祉協議会を事務局とし、藤井寺市内の社会福祉法人がサービス種別の垣根を超え、地域福祉の向上のための意見交換会、生活困難者支援事例検討、研修会などを定期的の実施。ヤングケアラーなどについての研修を重点的に行った。

藤井寺こども子育て連絡会との連携

・こども子育て連絡会への加入によって、地域にだいふ認知され始めている。様々な団体とのコミュニケーションが生まれ、発展的な取り組みが生まれる環境作りができ始めている。



赤い羽根の共同募金

・毎年恒例となっている赤い羽根共同募金の街頭キャンペーン。今回もこども子育て連絡会のお子さんたちとも一緒に行った。福祉関係者の顔の見える関係が年々拡大している。



こども食堂間の連携

・藤井寺市社会福祉協議会が開催する地域福祉向上を目的に様々な関係者が集う「デラチャレ」のテーマがこども食堂となり、地域のこども食堂9団体の定例会があり、お互いの情報共有とこども食堂マップ作成を実施。



地域イベント交流



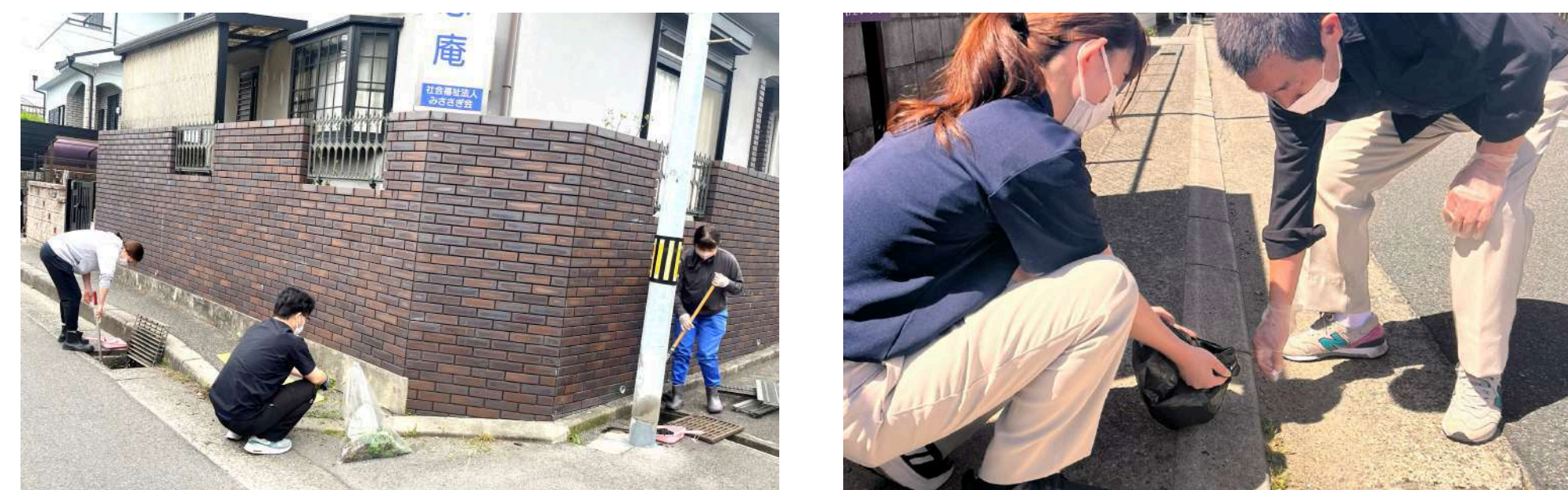
藤井寺市民祭り（11月）

- ・ パープルホール：大抽選会、税金クイズ、そろばんイベント、キッチンカー、体験型ブース、ダブルダッチショー＆大なわとび大会
- ・ 藤井寺市役所前ふれあい広場：魚つかみ取り、よしもと住みます芸人による健康IQチェック、朝市、60万えんぴったりつかんで数えよう！、警察車両展示ほか
- ・ 藤井寺駅北交流広場デラパーク：ライブイベント（ダンス・音楽）、駅前イルミネーション点灯式



地域清掃イベント

- ・ 年2回の地域清掃イベントに参加。ゲリラ豪雨も多いため、溝掃除はとても重要な取り組みである。おかげさまで地域の皆様ともすっかり顔馴染みになっている。



小学校での福祉教育

高齢者疑似体験、車いす体験、認知症への理解など
藤井寺西小学校と連携し福祉教育授業を実施した。

福祉授業を実施する背景

- ・核家族化、少子高齢化が進んでいる日本において、高齢者への理解や繋がりが減少している。
- ・その様な中でみささぎ会では、福祉授業として「高齢者疑似体験授業」や「視覚障がい者とは」といった、体験形式で理解をし、知識として蓄積させることを働きかける仕組みづくりをしている。



ブラインドウォーク体験



高齢者疑似体験



坂の上のキッチン こども食堂



- ・ 2024年度より毎月の開催に。
- ・ 参加スタッフはCSW、管理栄養士、調理師、特養、デイ、ヘルパー、事務、ケアマネなど多職種で運営。地域のボランティアさんの参加もより一層増えた。
- ・ 学年の違うこどもたちが遊びを通じて仲良くなり、また保護者同士の団欒の場となるなど、こどもから大人まで楽しく過ごせる場所になっているようだ。



防災カレー作り



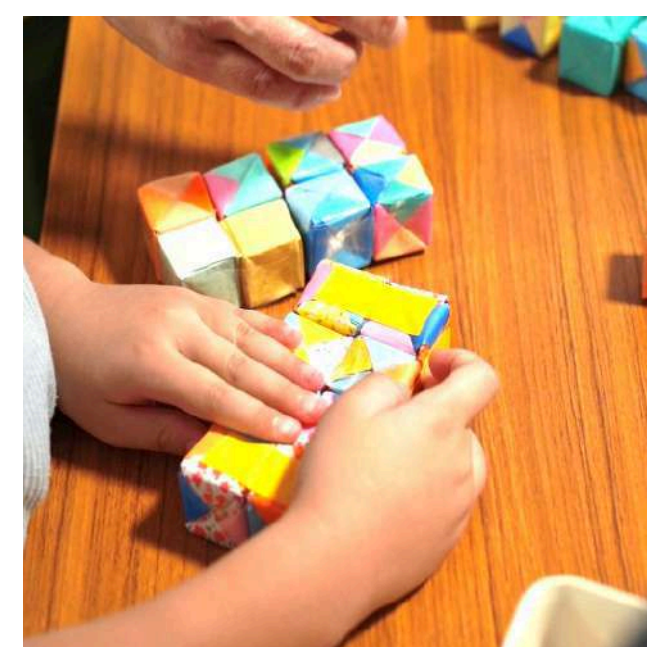
芋掘り



龍谷大吹奏楽部による
クラリネットの演奏



三井住友銀行藤井寺支店
法人営業部の皆さん



坂の上のキッチン
折り紙



ゆずりはさんによる
ジェラートの提供



幻のラジオ体操第3



SA藤井寺さんによる
手作りおもちゃ



飯室珈琲焙煎所さんによる
コーヒーの提供



大阪教育大
ゆるスポーツサークル
ワニナルさんによる企画



坂の上のキッチン
おにぎり



坂の上のキッチン
餅つき

坂の上のキッチン 開催内容 こども食堂



大手外食チェーン ゼンショーホールディングス 牛丼のすき家とコラボ開催!!

- ・みささぎ会が国民生活産業・消費者団体連合会（生団連）の特別会員として加入。生団連が開催する「新・災害対策委員会」での地域貢献活動推進を話し合う中で、この企画が立案された。
- ・藤井寺駅前ロータリーの実店舗にこども達と一緒に商品を受け取りに行き、地元店舗で参加者にとっても馴染みはあるが、より一層身近な存在となったようである。
- ・今回はこども制服をレンタルし、仕事体験や食育クイズなどを実施し、とても盛り上がっていた。
- ・企業とともに地域を元気にする取り組みを行うことができた。次回開催に向けての打ち合わせは現在進行形である。

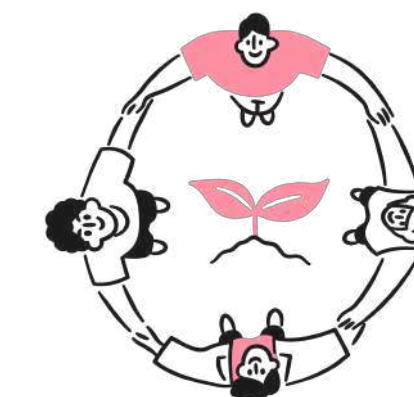


坂の上のキッチン 開催内容 こども食堂



	開催日	メニュー	わくわく体験	参加人数	ボランティア	参加団体名
1	2024.4.21	カレーライス サラダ	よもぎ団子作り 草木染	32名	9名	飯室珈琲焙煎所
2	2024.5.12	お好み焼き	折り紙教室 なぞとき	37名	8名	飯室珈琲焙煎所
3	2024.6.16	オムライス ジェラート	アイロンビーズ ラジオ体操第3	40名	7名	ゆずりは 飯室珈琲焙煎所
4	2024.7.21	冷やし中華 シュウマイ	手作りおもちゃ カラオケ	41名	14名	SA藤井寺 飯室珈琲焙煎所
5	2024.8.18	縁日メニュー	縁日遊び	46名	11名	飯室珈琲焙煎所
6	2024.9.15	すき家の牛丼	すき家のお仕事体験 プリン作り 月見飾り	37名	15名	すき家 龍谷大吹奏楽部 大阪教育大学 飯室珈琲焙煎所
7	2024.10.27	防災カレー サラダ	防災カレー作り ㈱花王とコラボ “ライオンのお口と体プロジェクト”	49名	22名	藤井寺市赤十字奉仕団 藤井寺市社会福祉協議会 飯室珈琲焙煎所
8	2024.11.17	おにぎり 豚汁 ぜんざい	もちつき大会 クイズ大会	40名	18名	三井住友銀行藤井寺法人営業部 飯室珈琲焙煎所
9	2024.12.15	クリスマス ランチ	じゃんぼスゴロク トナカイのお菓子飾り	43名	6名	飯室珈琲焙煎所
10	2025.1.19	中華料理	餃子・杏仁豆腐作り おもちゃ作り	46名	17名	三井住友銀行 SA藤井寺 飯室珈琲焙煎所
11	2025.2.16	すき家の牛丼	すき家のお仕事体験 クラリネット5重奏 ゆるスポーツ	65名	34名	すき家 龍谷大学吹奏楽部 大阪教育大学 飯室珈琲焙煎所
12	2025.3.16	サンドイッチ から揚げ	しゃぼんだま フルーツサンド作り	43名	8名	飯室珈琲焙煎所

講師・ゲストスピーカー派遣



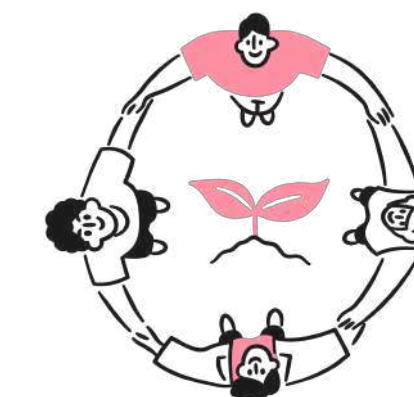
学校名

大阪国際福祉専門学校
大阪物療大学
関西福祉科学大学
日本メディカル福祉専門学校
佛教大学
龍谷大学

講義内容

認知症の理解
認知症の基本的理解とコミュニケーションの基本
ソーシャルスキル
高齢者支援における社会福祉法人の地域貢献
高齢者ケア論
保健医療論

講師・ゲストスピーカー派遣



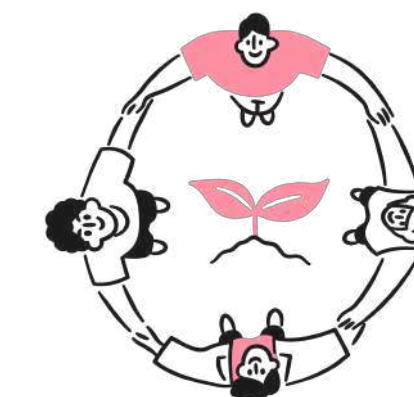
研修名

- ・ 第43回全国社会福祉法人経営者大会
- ・ Tera×スク講演
- ・ 香川おもいやりネットワーク
事業総括セミナー
- ・ 作業療法士と生活リスクコミュニケーション学会

講義内容

- ・ 次世代の社会福祉の在り方を考える（全国青年会企画）
- ・ 低離職率と高利益率を可能にしたみささぎ会の組織づくり
- ・ 香川おもいやりネットワークへのエール
「大阪と香川を結ぶ社会貢献事業について」
- ・ 介護施設での多職種によるリスクコミュニケーションと研修の意義

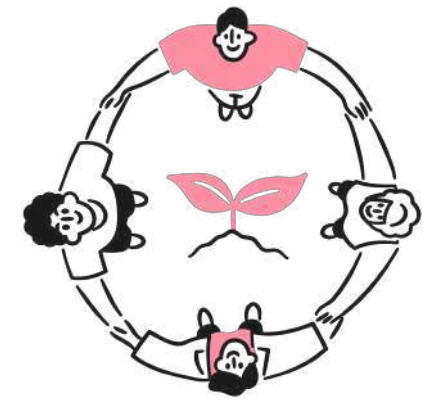
宝塚大学看護学部 基礎看護実習



大阪府社会福祉協議会老人施設部会より、
宝塚大学看護学部から看護実習の受け入れ依頼があった。
実習内容は、社会福祉法人や地域包括支援センターの地域での役割の説明や
実践事例報告をはじめ、施設見学や非薬物による認知症予防トレーニングメニューの
体験など、フィールドワークを行った。



デュアルタスクによる認知症予防研究 大阪大学との共同研究



利用者からのご意見・ご感想

【Y・H様】

・足踏みしながら計算するのをいつもとても楽しみにしている。身体を動かすことが好きで、足踏みしながら頭で考えるのはとてもよいと思う。計算が難しかったら足が動かないので、今まで通り優しい計算をしていきたい。

【H・K様】

・引き算のみのコースを毎回3回しているが、なかなか全問正解ができない。それでも、全問正解を目指し、すべて正解すると、とってもうれしい気持ちになれる。

【T・K様】

・取り組んだ結果が載っている用紙を家に持ち帰り、今日のことについて家族で話をして楽しんでいる。これからも続けてしていきたい。

【S・K様】

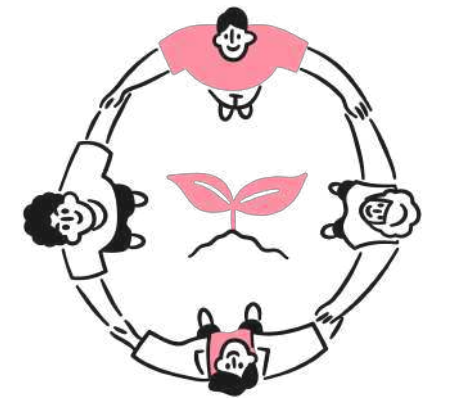
・計算間違いが1つならよいが、3つ、4つになると、今日は頭の調子が悪いのかなと思ったりしながら、頭の調子を見ることができてとてもよい。足ふみは少ししんどいが、80秒のこれくらいの短い時間であれば頑張ればでき、ちょうどよい長さだと思う。



デュアルタスク体験実人数

- ・藤井寺特養 19名
- ・つどうホール 25名
- ・大仙もずの音 20名

次世代社会価値想像拠点事業 大阪大学との共同研究



研究目的・背景

- ・ユニバーサルデザインの医療用メタバースVRシステムに適した構成・インターフェースに関する検討
- ・少子高齢化やデジタルトランスフォーメーションが進む将来の医療においては、がん患者、認知症患者の増加、新興感染症に対する遠隔医療体制の不備、面会停止、テレワークによる社会的つながり喪失、孤独感、ストレスの増強など複数の問題がある。
- ・デジタル機器には世代的に抵抗感も強く過渡期ではあるが、患者、支援者ともに活用しやすいインターフェース（抱き人形型、ベッドサイトモニター型、装着ディスプレイ型）を模索し、高齢者、障がい者、患者などのQOLを高める知見を収集することを目的としている。

研究結果

- ・被験者34名（男性8名 女性26名）
- ・わくわく感、没入感でといった項目で高いスコアが認められた。
- ・生成AI 体験談

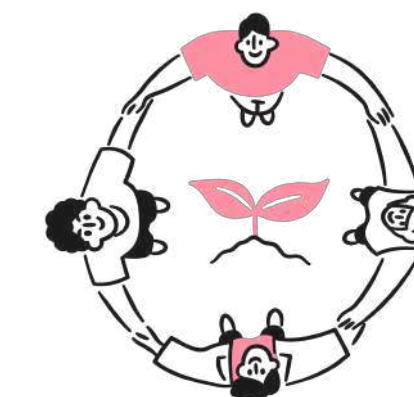
昔の仕事している時の描写を見て、「あちこち荷物を運んだわ。トラックの形はちょっと違うけど建物とかこんな感じやった。仕事を終えた後のお酒は格別に美味しかった。」等当時の仕事や趣味等の会話が弾まれた。



考察

- ・VR機器によって楽しさやわくわく感といったポジティブ感情が高齢者においても引き出されることが示唆された。またインターフェースによってスコアに大きな差異がないことも判明した。

各大学とのコラボレーション



各大学と提携し、各々の特性や強みを活かすことで地域社会へと貢献していく。
これらの活動を職員教育に結びつけ、サービスの品質向上を目指す。



社会福祉法人

みささぎ会



学校法人 玉手山学園

関西福祉科学大学

リスクマネジメント研究

安全管理対策向上に向けて
インシデント・アクシデント
報告書を活用した研究に協力



社会福祉法人

みささぎ会



RYUKOKU
UNIVERSITY

龍谷大学

大学院リカレント教育

学校教育から離れた後も仕事で求
められる能力を磨き続けられるよ
う、学びなおしを応援するため大
学院との包括協定の締結



社会福祉法人

みささぎ会

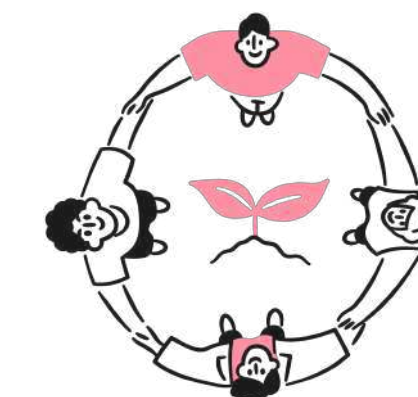


大阪大学
OSAKA UNIVERSITY

認知症予防研究

VR、デュアルタスク歩容機を
用いた認知症予防開発システ
ムへの貢献

各企業とのコラボレーション



様々な企業と連携することで、
地域活性化や職場環境向上を目指す。



地域企業と社会貢献の コラボ

企業CSRと連携し、地域活性化、
地域福祉向上を目指す



地域密着型 「食のインフラ」とコラボ

地域交流を深めているゼン
ショーホールディングスのすき
家とこども食堂をコラボするこ
とで、地域活性化に繋げる



CARE CONNECT JAPAN

介護ソフト会社と 職場環境向上研究をコラボ

業務効率化だけでなく、職員特
性ベクトル調査による働きやす
い職場環境づくりを目指す

04

學習報告

SKILL UP PROGRAM



学習報告

そったくどうじ 『啐啄同時』

師匠が弟子に知恵の伝達を行う際の禅語です。
啐啄同時とは、鳥の雛が卵から産まれ出ようと殻の中から卵の殻をつついて音をたてた時、それを聞きつけた親鳥がすかさず外からついばんで殻を破る手助けをすることを意味します。これが「啐」と「啄」の関係です。

互いが響同＝協同し合った時、
新しい何かが誕生するのです。

学習の目的

志を抱き、自らの理想のためにはどのような境遇もいとわぬ人物となるための成長の機会を提供することを、当法人における学習の目的とします。

専門的な知識と技術を習得するのみならず、品性や感性を磨き、利用者や地域社会に貢献できる人材を育みます。職業人として、そして自分自身の生活がより豊かな日々になるように自己研鑽に努めましょう。

機会の提供

年齢、キャリア、資格、職種、生育歴、国籍等々、多様な人材が働く福祉現場において、一律な学習の機会ではなく、個々の意思や意欲・状態に応じた学びの機会を提供していきます。

1年目・2年目職員～

- ・昨年に引き続き継続研修を実施できた。特に2年目職員に対して行なった課題提供型の「認知症高齢者のしつらえ」をテーマにした内部学習会が好評であった。参加者それぞれが座学で学んだことを、現場で実践し、その内容を事例検討する形式で行い、実践に結びつく学習会となった。
- ・それぞれの新人に対し専属チューターを配置。主に2年目の職員がチューターを担当し、先輩になる自覚がより高まった。チューターは定期的にワンオンワン面談を行い、新人のお悩み相談を行った。チューターミーティングを定期的に開催（7・10・2月）し、新人の進捗状況や、それぞれの関り方の工夫をチューター間で共有する場を設けた。

・4年目以上の職員

- ・外部研修への参加を公募するなど、主体的に学べる場を提供できた。

総括

- ・1年目職員は、7名が入職し退職者は1名のみで順調に現場で独り立ちしている。
- ・2年目職員は、9名の内退職者は1名のみ。チューターや後輩指導係、リクルート担当など、活躍の場を広げつつある。
- ・4年目以降の職員の学習会参加が徐々に増えており、今後は園内学習会の講師役などを担ってもらい、学習効果を更に高めていく。
- ・喀痰吸引研修（外部研修）については、人員の都合により計画通りには実施できなかった。新たに実施予定であった世代別学習会についても、他の学習会の運営を優先したため実施できず。

住環境リニューアルへのチャレンジシート				氏名（ ）	
<計画>				計画日	6年 11月 13日
テーマ	自分だけの特別でリラックスできるお部屋作り。				
着眼点	見当識	/	安全と安心	/	環境における刺激の質と調整
場所	3階東8番地杉田様居室				
取り組み内容	本氏昼夜逆転傾向があり、日中に寝れて食事や水分が摂まないので多い。また、他利用者様の大声や暴言等うさいの苦手で聴く寝れている様子あり臥床希望される。本氏読書や塗り絵レクなど自身のペースで熱心に取り組まれるかたである。 ①杉田様に困りごとや趣味、好きなものの等聞き取り行う。（家族様にも確認行う。） ②居室内でゆっくり落ち着いて読書やTV、ラジオを聴けるスペースを作る。（日当たりのいい場所） 落ち着けるスペースが完成することで、杉田様にフロアで過ごされるか居室で過ごしていただくを選択できQOLの向上や昼夜逆転傾向改善。「居室＝寝る為だけの場所」のイメージを払拭できるのでないか				
取り組み前の写真 ※複数枚載せてもOK	 撮影日時 6年 11月 10日 曜日 8時頃 場所（ 3東8番地 ）				
取り組み後の写真 ※複数枚載せてもOK	 撮影日時 7年 2月 日 曜日 時頃 場所（ 〇〇様居室 ）				
上手くいった点	杉田様が自分で机まで自走できるように動線を考えレイアウトを行えた。机では、外の様子が見える日光が当たる位置に設置しゆっくりと読書ができるように考え、さらにラジオを使いヒーリングミュージックを流しリラックスしてもらっていた。				
苦労した点	実施直後は協力的だったが後半になると声掛けを行えていない職員が見られた。家族様のアホも得られ喜ばれていたが期間中に依頼物は用意できなかった				
利用者の声や反応	レイアウト変更後「前よりいいよ」「ありがとう」と杉田様からお話される。都度職員から「フロアかお部屋どちらで過ごされますか？」と尋ねご自身で決めて頂いている。その都度自分で決められフロアでは他の方と一緒にテレビを見られ居室では読書やワーク（計算・漢字・塗り絵）を自分からされている。数時間集中して取り組まれている様子見られ、フロアの行き来は自走して頂くように声掛け行い自走されている。取り組み前と比べて居室に戻られ臥床希望される頻度も				
職員の声や反応	「お昼に寝ることが減った」「夜寝ている様子が見えた」「前よりエンシュアや飲み量が増えた」と変化があったと報告聞かれる。聞き取りから自分で動きたいという意思が分かり今まで移動は全て職員が行っていたが短い距離は自走してもらおうように声掛けをしている職員が増えた。				
今後の展望	今後も継続して行いたい。ワーク提供について杉田様には簡単な物や似たものばかりで退屈そうな場面やすぐに終わっている場面見られる為レベルにあったワークを用意する。家族様とも今後もしやり取りを行い協力を得る。今回食事業に変化は見られなかった為違うアプローチはないか考えたい。杉田様関わらず今後他利用者様もこのように個人だけでなくフロア全体で取り組んでいきたいと考えている				

ユマニチュード実践者養成4日間研修

学習報告

【事前講義】：大仙もずの音+ハイブリッド形式 10/30 63名参加

【現場実習】：大仙もずの音 10/31・11/1・11/5・11/6 各日、特養3階 介護士を中心とした12名参加

【講師】 IGM-Japon合同会社

【考察】 4日間研修ではユマニチュードケアの理念学習・座学・実技・現場実践を行った。ユマニチュードを用いて実際に利用者への実践を行った結果、普段歩行されていない利用者が職員と一緒に歩こうとされたり、職員の手を取って喜んで頂けたりと利用者の変化が目に見えて実感できた。実際に日頃ケアを行っている利用者を対象にしてユマニチュード技法を実践・検証できたことは、この技法の有効性やポイントを実感できる貴重な時間となった。



リスクコミュニケーションとTP-KYT学習会

学習報告

【受講生】：3施設の職員58名

【期日】：7月5日（大仙もずの音にて） 8月21日（藤井寺特養にて）

【講師】 関西福祉科学大学保健医療学部リハビリテーション学科 有久准教授 他

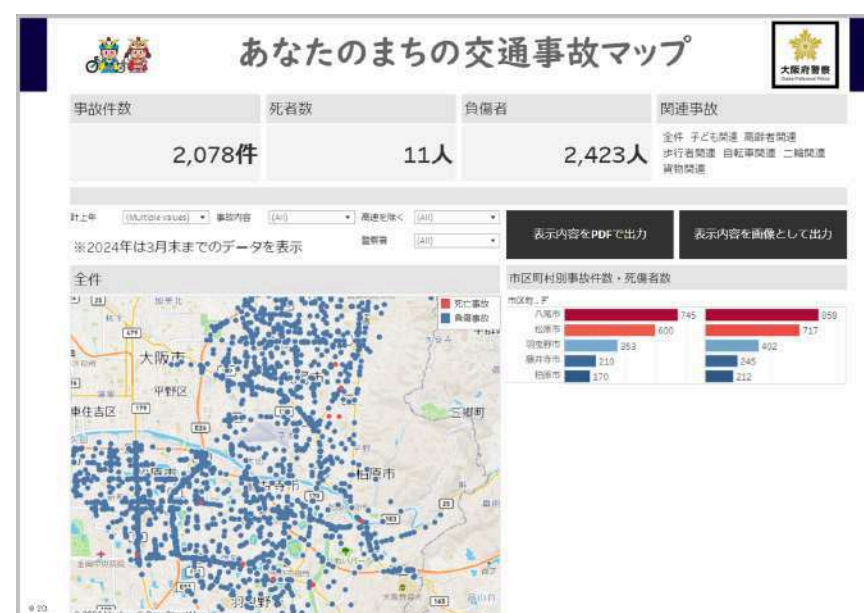
【考察】 昨年に引き続き、外部講師を招聘してリスクマネジメントに関する学習会を実施した。それぞれ感じる危険個所の写真を持ち寄り、それに対する危険度を数値化し、その理由を発表し意見交換した。キャリアや職種により、それぞれのリスク認知の差異が明らかになり、日頃からのリスクコミュニケーションの重要性を再認識する機会となった。



【期日】：参加者：5/17 藤井寺特養10名 つどうホール12名 大仙もずの音13名 計35名参加

【講師】JAF大阪支部 宮崎祥文氏

【考察】初めて外部講師による安全運転講習会を実施した。講習会は講義だけでなく、実際にドライブレコーダーで撮影された、事故の動画映像を見ながらの研修だったので、最後まで楽しく興味を持って研修に参加することができた。



【期日・参加者】：6/1・6/15・7/6・7/20・8/3・8/17・9/7・9/21 18～20時 2時間 計8回

【参加者】実6名（延べ28名） 内2名がケアマネ試験に合格

【講師】木島地域包括センター長

【考察】法人内で公には初めてとなるケアマネ試験対策講座を実施。各施設より公募制で6名が参加。参加しやすくなるようにハイブリッド形式で実施し、過去問や予想問題を用いて試験対策を行った。講座が定期開催されることにより、学習する時間が自動的に作られ本人の学習意欲も高まり、例年以上の合格率という成果を得ることができた。

ケアマネジャー（介護支援専門員）試験 令和6年度（第27回）問2（介護支援分野 問2） [（訂正依頼・報告はこちら）](#)

2021（令和3）年度末における全国の要介護（要支援）認定者数の状況として正しいものはどれか。2つ選べ。

- ① 要介護（要支援）認定者のうち、第2号被保険者の占める割合は、30%を超えている。
- ② 第1号被保険者に占める要介護（要支援）認定者の割合は、40%を超えている。
- ③ 85歳以上の被保険者のうち、要介護（要支援）認定者の占める割合は、50%を超えている。
- ④ 要介護（要支援）認定者数は、男性より女性の方が多い。
- ⑤ 要介護（要支援）状態区分別でみると、認定者数が最も多いのは、要介護5である。



ケアマネジャー（介護支援専門員）試験 令和6年度（第27回）問9（介護支援分野 問9） [（訂正依頼・報告はこちら）](#)

高額介護サービス費について正しいものはどれか。2つ選べ。

- ① 世帯単位で算定される。
- ② 地域密着型サービスの利用に係る利用者負担額は、支給の対象とならない。
- ③ 同一世帯に住民税が課税されている者がいる場合には、支給の対象とならない。
- ④ 利用者の負担上限額は、6月単位で設定されている。
- ⑤ 利用者の負担上限額は、所得によって異なる。

法人内実践事例発表会『BEST CHALLENGE AWARD 2024』

学習報告

【期日・参加者】：10/26 藤井寺特養35名 つどうホール15名 大仙もずの音22名 計72名参加

【考察】「BEST CHALLENGE AWARD 2024」を対面（つどうホール）＋オンラインのハイブリッド形式で開催。今年も介護福祉士養成校の先生や学生が参加され、卒業生の活躍を見て頂ける良い機会となった。去年の実績から、準備や当日のハイブリッド形式での発表でトラブルなく、開催自体に慣れてきている。また発表内容のレベルが上がってきており、最終の順位結果も僅差で、ベスチャレがますます盛り上がってきている。

	施設名	発表内容
イントロ	ソーシャルリレーション推進室 淵本直志	広がれ！こども食堂の輪
1	デイサービスセンターつどうホール 中野圭造	つどうホールリハビリ倶楽部の取り組み
2	藤井寺特別養護老人ホーム 看護課 高松佳子 河端政志	立位困難の人のトイレでの排泄介助を きっかけに移乗方法を見直す
3	特別養護老人ホーム 大仙もずの音 柴田麻友 廣瀬武則	その人らしいくらしの実現 ～主訴実現プロジェクト～
4	特別養護老人ホームつどうホール 杉並智明 隅田新太	ポジショニングの軌跡
5	ヘルパーステーションみささぎ 牧野なつみ	LINEWORKSを活用した 業務改善の取り組み
6	特別養護老人ホーム大仙もずの音 谷野茂樹	大仙もずの音のチームケアによる 在宅生活を続ける支援



2024年度 外部実践発表大会で2事例を報告

学習報告

■さかい福祉と介護の実践発表会…サービスの質の向上部門で最優秀賞

大仙もずの音「その人らしいくらしの実現 ～主訴実現プロジェクト～」

■高齢者福祉実践・研究大会 2024 in OSAKA

大仙もずの音「その人らしいくらしの実現 ～主訴実現プロジェクト～」

ソーシャルリレーション室「こども食堂から広がる支援の輪 ～ワクワク体験を添えて～」



リーダー育成研修 “FasH”

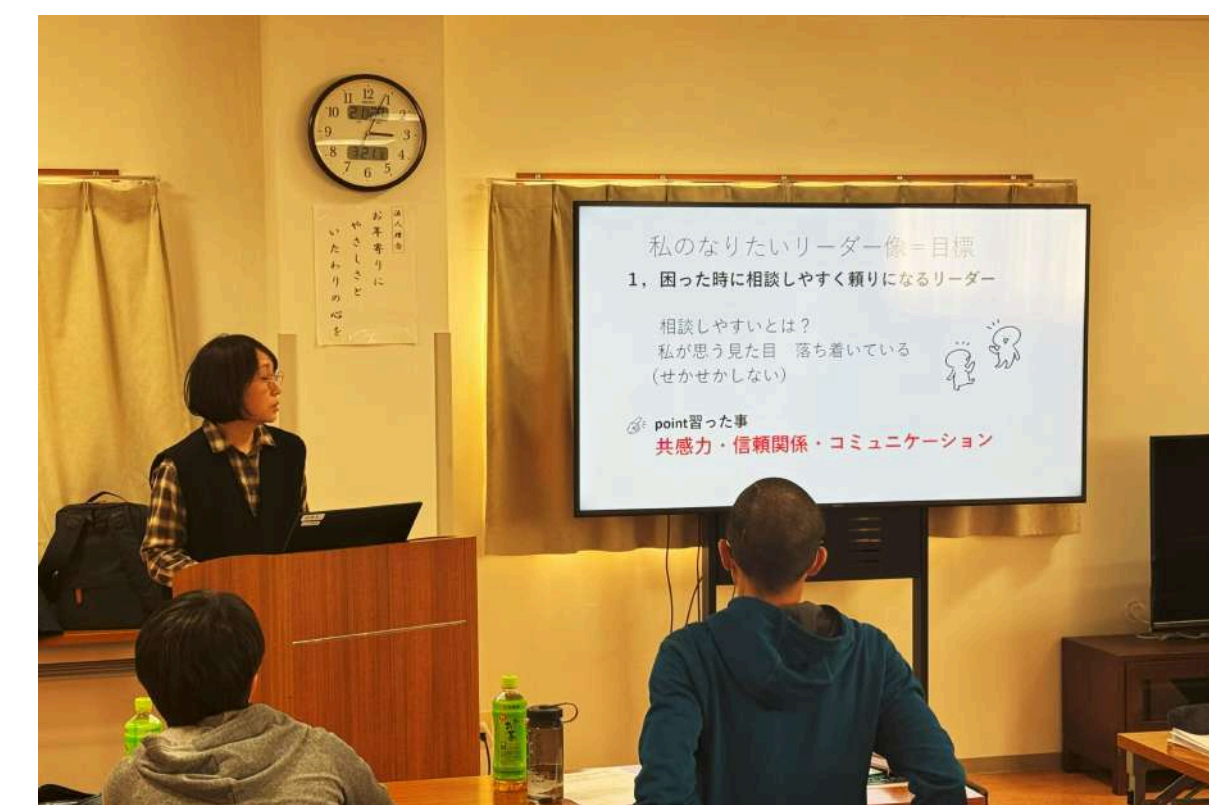
学習報告

【期日・参加者】 各施設グループリーダークラス 2名ずつ 計6名

【講師】 各施設主任クラス2名ずつ 計6名 株式会社ピュアテラックス渥美氏

【考察】 今回より、天地塾をFasHに改名した。語源は、FはFirst、aはafter、sはsorrow、HはHappinessである。法人理念である、先憂後楽の英訳頭文字よりネーミングした。自ら考え行動できるリーダー育成を主目的とし、3分間スピーチや実戦形式の課題、理事長・主任の経験談にまつわる講話を講義内容に盛り込んだ。

実戦形式の課題では、受講生6名が中心となり所属施設において「接遇の見直し」をテーマに取り組んだ。接遇に関するアンケートや啓発学習会などを実践し、それぞれの施設での進捗状況や成果を検証した。また法人内の新ユニフォームを、受講生で取りまとめ最終決定した。所属・キャリアも異なる未知なメンバーでの共同作業は、予想以上に困難な場面も多くあったが、その過程から多くの気づきがあったとの振り返りが聞かれた。

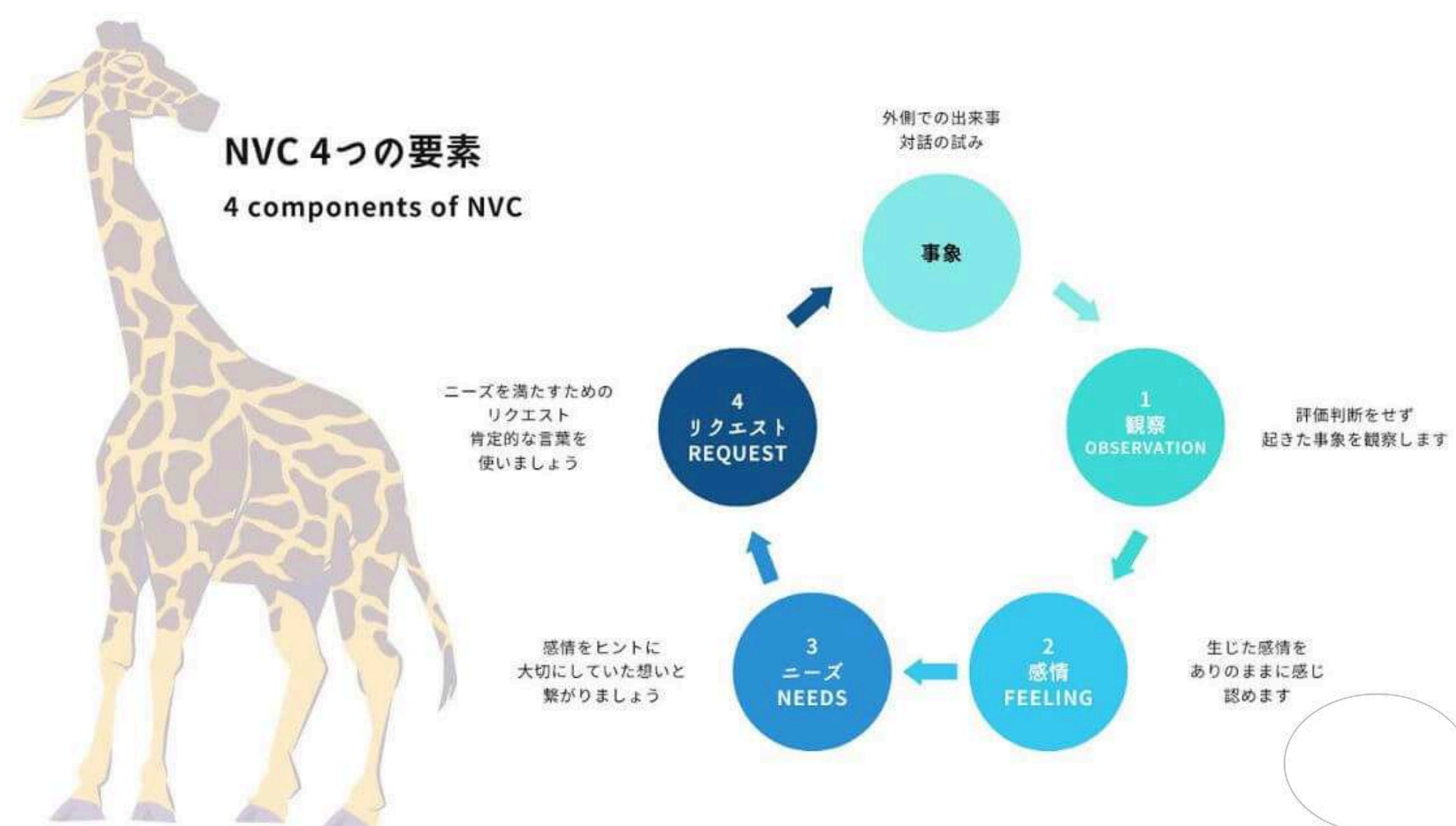


【期日・参加者】 7/4・8/13・9/12・10/7・11/7・12/16・1/9・2/3・3/6・4/8・5/8

奇数月：対面 偶数月：オンライン 計11回 つどうホール施設長をはじめ主任クラス 計4名

【講師】 株式会社ピュアテラックス 金氏・渥美氏

【考察】 管理職はチームメンバーや利用者、家族、外部の方と接する機会が多く、コミュニケーションで課題を感じている。NVC (NonViolent Communication) を学ぶ目的は、「いかに相手の話をきくか」？話をきく過程で、「いかに相手が自分で自分の課題（ニーズ）に気付くよう導けるか？」といったコミュニケーションスキルを磨く事である。研修のなかで学んだ、評価や判断をせずにあるがままに相手の話をきく事の大切さや、仕事だけでなくプライベートも含めたこれまでの自分を振り返る自己理解は、これからの管理職としての人との関わり方に、活用できると手ごたえを感じている。



NonViolent Communication

「非暴力コミュニケーション」や「共感的コミュニケーション」と訳され、具体的には「観察」「感情」「ニーズ」「リクエスト」という四つのフェーズをもとにコミュニケーションを図る。

Appreciative = 価値を認める Inquiry = 探求

問いや探求により、個人の価値や強み、組織全体の真価を発見し認め
それらの価値の可能性を最大限に生かした、最も効果的で能力を高く発揮する仕組みを生み出すプロセス

【期日・参加者】 12/16～12/17 宿泊研修 ホテルロジ舞洲にて 理事長・大仙もずの音より 計12名

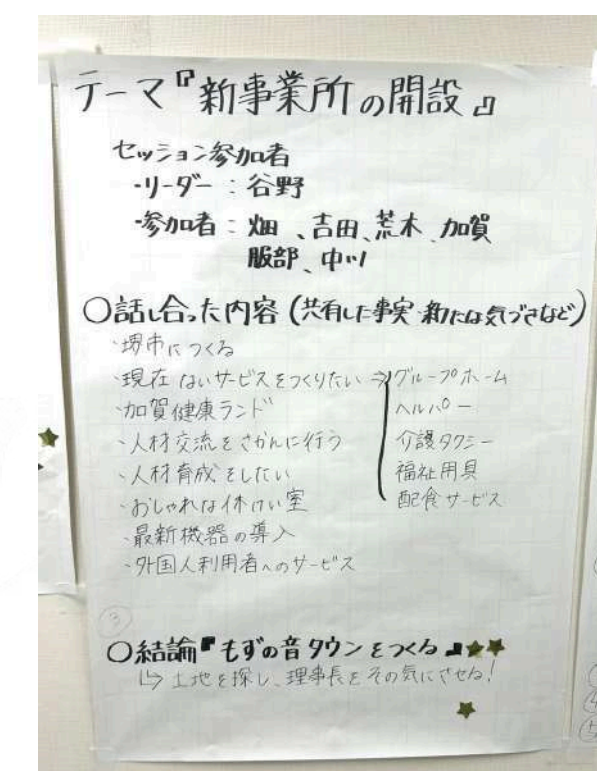
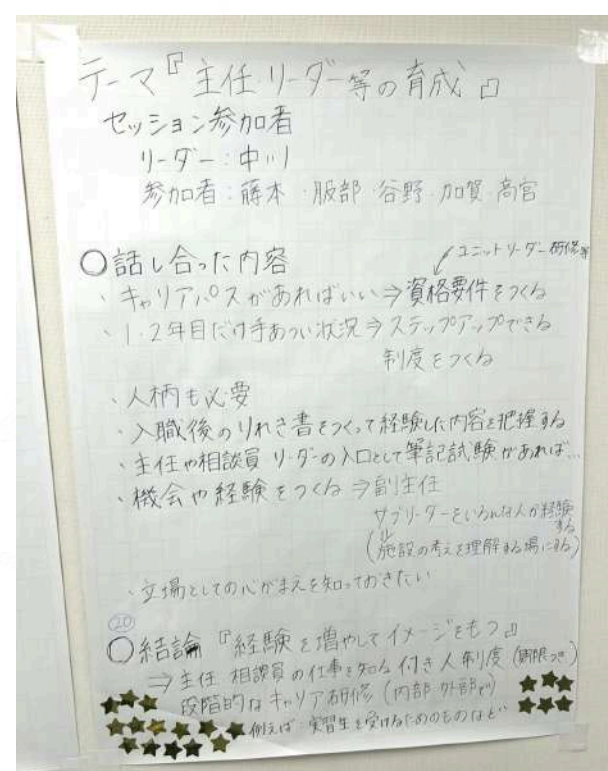
【講師】 株式会社ピュアテラックス 渥美氏

【考察】 「対話から始まる未来 自分を知り、仲間を知る 2日間」をテーマとして、大仙もずの音の中核メンバーで合宿研修を開催した。1on1による他者インタビューやグループでオブジェ作りや寸劇を行い、自分たちの考えを表現した。

- ・共同作業や衣食住を共にすることにより、メンバー理解をより深めるきっかけになった。
- ・また自己覚知を促される体験も多かった。インタビューでは、自身のアイデンティティや大切にしていることが明らかとなり、共同作業では、自分自身の思考のフレームに気付くきっかけになったとの感想が多く聞かれた。
- ・この合宿は、すぐに目に見える成果が出るものではないが、関係性の質の重要性が問われている中、相互理解を深めるきっかけに資するものであった。

AI合宿 (アプリシエイティブ・インクワイアリー)

学習報告



【期日・参加者】 2024年5月11日（土）各施設希望者(ハイブリット込) 計30名

【講師】 みささぎ会 評議員 川人一生様

【内容】 利用者家族でもあり他業種にて経験なされたことをご講演いただいた。

・川人様よりお話頂いたのは、みささぎ会の利用者家族としての視点や長らくお勤めされたテレビ業界のお話をしていただいた。家族の認知症による変化や入所者本人の現時点での状態を理解しながらケアをする介護士に対し、日頃よりベストを尽くしてくれることにr利用者家族として深く感銘を受けていた。また、テレビ大阪でお勤めの際のご経験と福祉業界にとっても、大事なこととして「相手に気持ちよく話してもらうこと。聞き上手であること。」をご教示いただいた。これはどの業界、またはどのような人でも大切なことではあると思うが、改めてコミュニケーションのコツを再認識する時間にもなった。

・最後には、約20年前に当時の学生と共同制作された映像を見る時間になり、当時の作品ではあるものの、現在視聴しても色褪せることのない内容だった。



研修レポートリニューアル

- ・ 4月より、1回の研修参加につき計4枚であった研修レポートを1枚に簡略化した。
- ・ 職員からは、研修レポートの負担感が軽減したことで研修参加意欲が高まったとの声が聞かれ、研修参加を公募した際、以前と比較しエントリー者が増加している。

研修レポート：旧様式

研修レポート

施設長

トレーナー

研修名			参加者		
日時・場所	日時：	年	月	日	時～時
	場所：				
	講師：				
研修内容	計4枚以上				

社会福祉法人 みささぎ会

- 1 -



研修レポート：簡略化した様式

研修レポート

氏名()

研修名		
講師名		
研修日時	令和 年 月 日 時 分 ～ 時 分	
特に印象に残った点 ※3点以内に整理する	1枚へ	
実行したいこと *計画は具体的に記入する。 ・いつ ・何を ・どのように		
上司コメント 上司() 記入日(/)		
研修後の予定 伝達研修(月頃) / 実践報告(月頃)		
	施設長	主任

社会福祉法人みささぎ会

